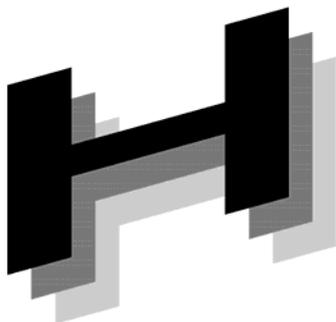




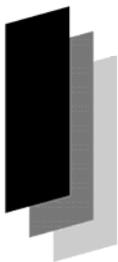
Japanese



Association of



Healthcare



Information



Systems Industry

# 地域医療情報連携システム 診療情報共有化のための IHE XDS 適用ガイド

2009年4月（2010年2月 V1.0a）

保健医療福祉情報システム工業会

地域医療連携標準化実証事業プロジェクト

地域医療システム委員会



# 地域医療情報連携システム

## 診療情報共有化のための IHE XDS 適用ガイド

### まえがき

昨今、複数の医療施設間で情報を共有して医療を行うための地域医療情報連携システムの開発・運用が国内外で盛んである。先進各国では国家レベルで整備・普及を推進しているが、日本ではこれからの段階である。日本政府は平成 18 年度の医療制度改革で、地域医療の強化、特に地域連携クリティカルパス（以下「地域連携パス」）による情報共有、在宅医療重視などを打ち出している。

このような背景の下、経済産業省は平成 18 年度から 3 年間、「地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業」を実施した。同事業は名古屋の東海ネット医療フォーラム・NPO が受託し、JAHIS はそのもとで標準化を担当した。具体的には、脳卒中医療を対象とする地域連携パスの情報共有システムに関して以下の項目の標準化を目指した。

- 1) 地域連携パスに関わる診療情報コンテンツの標準化
- 2) 地域連携における診療情報共有の仕組みの標準化
- 3) 地域連携に関わる情報セキュリティの標準化

なお、標準化の検討に当たり、既存の標準類をベースとして日本向けの標準を規定する方向で検討した。具体的には国際的な標準である HL7 CDA や IHE XDS などに準拠し、日本国内で共通に使用したら適切であると考えられる仕様を策定した。

現状、関連成果は東海ネット医療フォーラム・NPO による実証システムに適用した段階にある。これら成果を試用・評価していただくことを目的に、JAHIS 技術文書として公開する。

今後、国内関係各位のご意見、並びに各所での適用経験等をご教示いただき、地域連携パスのコンテンツ仕様や診療情報共有の仕組みなどの中心的成果は長期的に JAHIS 標準として育てていきたいと考えている。

2009 年 4 月

保健医療福祉情報システム工業会  
地域医療連携標準化実証事業プロジェクト  
地域医療システム委員会

#### << 告知事項 >>

本ガイドラインは関連団体の所属の有無に関わらず、ガイドラインの引用を明示することで自由に使用することができるものとします。ただし一部の改変を伴う場合は個々の責任において行い本ガイドラインに準拠する旨を表現することは厳禁するものとします。

本ガイドラインならびに本ガイドラインに基づいたシステムの導入・運用についてあらゆる障害や損害について、本ガイドライン作成者は何らの責任を負わないものとします。ただし、関連団体所属の正規の資格者は本ガイドラインについての疑義を作成者に申し入れることができ、作成者はこれに誠意をもって協議するものとします。

## 目次

はじめに .....	1
第1章 適用範囲 .....	2
第2章 適合性 .....	2
第3章 引用規格・引用文献 .....	3
第4章 用語の定義 .....	3
4.1 本技術文書固有の用語 .....	3
4.2 IHEに関連した用語 .....	4
4.3 一般的な用語 .....	5
4.4 記号および略語 .....	6
第5章 インタフェース定義 .....	8
5.1 概要 .....	8
5.2 通信プロトコル .....	8
5.3 インタフェース定義の形式 .....	9
5.4 ドキュメント提出・登録 (Provide & Register Document Set-b) .....	11
5.5 ストアドクエリ (Registry Stored Query) .....	14
5.6 ドキュメントの取り出し (Retrieve Document Set) .....	22
第6章 メタデータ定義 .....	23
6.1 概要 .....	23
6.2 ドキュメントエントリ (DocumentEntry) .....	24
6.3 サブミッションセット (SubmissionSet) .....	39
6.4 フォルダ (Folder) .....	45
第7章 ボキャブラリ (語彙) 定義 .....	50
7.1 概要 .....	50
7.2 コード定義 .....	51
附属書 A (規範) フォルダおよび登録コンテンツの構成 .....	62
A.1 概要 .....	62
A.2 CDA文書 .....	64
A.3 受診歴、入退院歴 .....	69
附属書 B (参考) 地域連携パス適用例 .....	71
B.1 概要 .....	71
B.2 拡張機能 .....	71
B.3 ユースケース .....	72
B.4 連携システムのプロセスモデル .....	72
B.5 システム構成 .....	74
B.6 登録ドキュメントとメタデータの関係 .....	75
附属書 C (参考) セキュアノードおよび ATNA ログデータ定義 .....	78
C.1 概要 .....	78
C.2 セキュアノードにおけるセキュリティ要件 .....	78
C.3 監査メッセージ書式 .....	79
C.4 監査証跡リポジトリテーブル定義 .....	83
附属書 D (参考) アクセス制御および通知機能 .....	85
D.1 概要 .....	85
D.2 方式および機能 .....	85
D.3 API の仕様 .....	86

附属書 E (参考) 関連する IHE プロファイル.....	90
E. 1 概要.....	90
E. 2 XDS.a および XDS.b の比較.....	90
E. 3 XDS-I (施設間における画像および関連文書の共有) .....	101
付録 1 : 参考文献.....	105



## はじめに

経済産業省の「地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業」では以下の項目の標準化を目指した。

### i) 地域連携パスに関わる診療情報コンテンツの標準化

地域連携パスは、地域の医療機関が連携し、疾患ごとに患者の臨床経過と診療行為の計画を共有し、その計画に沿って診療を行うシステムである。今回は脳卒中医療を対象としているので、日本脳卒中学会策定の脳卒中地域連携パスの仕様をもとに、HL7 CDA 適用による電子化仕様の標準化を行った。また他疾患への展開についても考慮している。

### ii) 地域連携における診療情報共有の仕組みの標準化

診療情報共有の仕組みとしては、IHE が統合プロファイルとして整備してきており、先進各国でも多く採用されている。このため、本標準化作業においてもこれらを採用する方向で検討し、その結果、XDS（施設間文書共有）や PIX（患者情報相互参照）、PDQ（患者基本情報の問合せ）などの統合プロファイルを中心として参照し、情報共有の仕組みの標準化を行うことにした。合わせて、地域連携システムを運用するために事前に決めるべき運用項目についての整理を実施した。

なお、診療情報コンテンツとして別途規定している地域連携パスの CDA 仕様との相互運用性も考慮している。

### iii) 地域連携に関わる情報セキュリティの標準化

情報セキュリティは、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」などを踏まえ、利用者認証、監査証拠、電子署名など、地域連携システムで使用されるセキュリティ手段の設計ガイドラインを示した。

本ガイドは、IHE XDS（施設間文書共有）統合プロファイルを日本の地域連携システムに適用し、且つ共通的に利用するためのガイドについて記載している。IHE XDS 統合プロファイルでは、標準として準拠することが求められている項目と、ユーザ定義となっている項目があり、このユーザ定義となっている項目（メタデータ、ボキャブラリ）に関して、日本での適用ガイドを定義している。

なお、附属書には、実際に適用したユースケース等、実証をもとにした関連情報も付記している。

本標準化作業の結果は、前記経済産業省の「地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業」において、東海ネット医療フォーラム・NPO が構築した脳卒中医療を対象とする地域連携パスの情報共有システムに適用し、実用の場で実証済みである。

## 第1章 適用範囲

### 第1章 適用範囲

本適用ガイドは、IHE IT Infrastructure の XDS 統合プロファイルを基にした日本における共通的な地域連携システムの普及を目的とし、地域連携パスを前提とした連携ドメインにおいて定義すべき項目（インタフェース、メタデータ、ボキャブラリ等）の仕様を規定する。

各施設内の診療情報の管理、および複数の連携ドメインにまたがる診療情報の共有については、範囲外とする。

### 第2章 適合性

本適用ガイドでは、以下の適合性に関する基準を設ける。

(基準 A) 各地域の地域連携システムで、準拠すべきもの

(基準 B) 各地域の地域連携システムで、本適用ガイドに準じた拡張または修正が可能なもの

(基準 C) 各地域の地域連携システムで、独自に仕様を定義してもよいもの

各章、附属書の位置づけは、以下の通りである。

5章 インタフェース定義	(基準 A)
6章 メタデータ定義	(基準 A) 一部 (B) を含む
7章 ボキャブラリ定義	(基準 A) 一部 (B、C) を含む
附属書 A フォルダおよび登録コンテンツの構成	(基準 B)
附属書 B 地域連携パス適用例	(基準 C)
附属書 C セキュアノードおよび ATNA ログデータ定義	(基準 C)
附属書 D アクセス制御および通知機能	(基準 C)
附属書 E 関連する IHE プロファイル	(参考)

なお、基準 B および C に該当する箇所は、それぞれの記述の中で具体的に明示する。

注1) 基準 B に関しては、相互運用性を容易にするため、可能な限り同様の形式で、拡張、変更することが望ましい。

注2) 本ガイドの適合性では、地域連携パスを前提にした IHE IT Infrastructure の XDS 統合プロファイルの適用に関する仕様を対象にしている。地域連携パスを前提としない XDS だけの適合性は、表 2-1 のとおりである。

表 2-1 地域連携パスを前提としない XDS だけの適合性

章・附属書	説明
5章 インタフェース定義	形式 (WDSL) が一致していること。
6章 メタデータ定義	形式 (XML スキーマ) が一致していること。
7章 ボキャブラリ定義 (*1)	ボキャブラリが固定し、システム間で同一のコード値が共有されていること。
附属書 A フォルダおよび登録コンテンツの構成	該当しない

附属書 B 地域連携パス適用例	該当しない
附属書 C セキュアノードおよび ATNA ログデータ定義	該当しない（同様の機能は必要になる）
附属書 D アクセス制御および通知機能	該当しない（同様の機能は必要になる）
附属書 E 関連する IHE プロファイル	他のトランザクションを使用した場合に該当する

注\*1) ボキャブラリなどを拡張することにより、広く他の地域医療連携にも適用可能である。

### 第3章 引用規格・引用文献

- 平成 18 年度 地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業（課題名：疾患別地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業）事業報告書、平成 21 年 3 月、特定非営利活動法人 東海ネット医療フォーラム・NPO、代表理事 吉田 純
- IHE IT Infrastructure Technical Framework Supplement 2006-2007 Registry Stored Query Transaction for XDS Profile [ITI-18], Trial Implementation Version, August 15, 2006
- IHE IT Infrastructure Technical Framework, vol. 2 (ITI TF-2): Transactions, Revision 4.0, August 22, 2007
- ebXML Registry Information Model Version 3.0, March, 2005
- ebXML Registry Services and Protocols Version 3.0, March, 2005
- IHE IT Infrastructure Technical Framework Supplement 2007-2008, Cross-Enterprise Document Sharing-b (XDS.b) Draft for Trial Implementation, August 15, 2007
- 保険医療福祉情報システム工業会セキュリティ委員会編、ヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約、2006 年 3 月
- 地域医療情報連携システム 患者情報管理のための IHE PIX/PDQ 適用ガイド
- 地域医療情報連携システム 運用管理システムのサービス機能

### 第4章 用語の定義

#### 4. 1 本技術文書固有の用語

本技術文書では、次の固有の用語を用いる。

- 地域ネット医療センタ  
地域医療情報連携システムにおける中核施設のセキュアノード。地域連携に参加している施設側ノードとネットワークを構成する。
- 施設側ノード  
医療機関の施設内の情報システムと外部のネットワークとをつなぐセキュアノード。
- 地域患者 ID  
患者を対象地域内で一意に識別する ID
- 施設患者 ID  
患者を医療施設内で一意に識別する ID
- 患者基本情報  
地域患者 ID、施設患者 ID、患者氏名などの属性を含む情報。

## 第4章 用語の定義

- ・地域連携パス

地域において患者の診療計画を作成し、それに基づき複数の医療機関が連携して診療を行う仕組み、及びそのコンテンツ。

- ・地域連携パス・シリーズ

地域連携パスの適用の単位。再発など診療計画の大幅な変更の必要性が生じた場合には、別シリーズの地域連携パスとなる。

### 4. 2 IHE に関連した用語

本技術文書では、次の IHE に関連した用語を用いる。

- ・IHE (Integrating the Healthcare Enterprise)

現代の医療施設の医療情報連携システム統合を推進する目的で始められたイニシアチブ。

- ・PDQ (Patient Demographics Query)

IHE ITI の統合プロファイルの一つ。複数の分散されたアプリケーションが、集中管理された患者情報サーバに対し、ユーザが指定する検索基準に基づくクエリを実施、患者の基本情報（オプションとして来院または来院関連の情報）を直接取り込む仕組みを提供する。

- ・PIX (Patient Identifier Cross-reference)

IHE ITI の統合プロファイルの一つ。複数のシステムで別々に管理されている患者識別情報の整合性を確保し、各システムを越えた患者単位の検索を可能とする仕組みを提供する。

- ・XDS (Cross Enterprise Document Sharing)

IHE ITI の統合プロファイルの一つ。施設間で登録方法を共有することで特定の患者の様々な診療情報文書を共有する仕組みを提供する。

- ・ATNA (Audit Trail and Node Authentication)

IHE ITI の統合プロファイルの一つ。ネットワーク内のノードが認証されていることを保証する方法、およびイベントに関するセキュリティおよびプライバシーの報告に対す監査メッセージを規定している。

- ・IHE アクタ (IHE Actor)

病院情報システムを構成する仮想的なサブシステム（機能コンポーネント）。IHE の統合プロファイルで定義され、病院情報システムの動作を IHE アクタと IHE アクタ間のトランザクション（通信）として定義している。

- ・連携ドメイン (XDS Affinity Domain)

診療情報を共有するために、同じポリシー、同じ基盤を使用することを同意した医療機関全体のグループ（コミュニティ）を指す。

- ・セキュアノード (Secure Node)

ATNA 統合プロファイルにおける IHE アクタの名称。ユーザ ID を検証し、他のノードとの情報交換で、そのアクセスが正当で安全かを時系列に判定する機能をもつシステム。通信回線の暗号化、時刻の維持、監査記録などの機能をもつ。

- ・トランザクション (Transaction)

統合プロファイル内の各機能を提供する IHE アクタ間の通信処理。

- ・サブミッションセット (Submission Set)

ドキュメントをレジストリに登録（提供）する際のドキュメントエン트리およびフォルダに関する情報を含むメタデータの集合。

- **ドキュメントエン트리 (Document Entry)**  
ドキュメントレジストリが管理する情報で、ドキュメントの主な特徴を説明するメタデータのセットを含む。ドキュメントが検索できるドキュメントリポジトリへのリンクを示す。
- **フォルダ (Folder)**  
レジストリの中に設けられたドキュメントの所属を識別する仮想的な格納場所。
- **ドキュメントソース (Document Source)**  
登録すべき文書の原本を所有し、ドキュメントリポジトリに文書を送信する IHE アクタ。
- **ストアドクエリ (Stored Query)**  
ドキュメントコンシューマからドキュメントレジストリに発行されるトランザクション、あらかじめドキュメントレジストリに登録されたクエリ。
- **ドキュメントコンシューマ (Document Consumer)**  
IHE XDS 統合プロファイルの IHE アクタの一つ。ドキュメントレジストリに対するドキュメントを検索し、ドキュメントリポジトリから指定されたドキュメントを探し出す。
- **ドキュメントリポジトリ (Document Repository)**  
IHE XDS 統合プロファイルの IHE アクタの一つ。診療情報などの共有文書を保存し、提供する。
- **ドキュメントレジストリ (Document Registry)**  
IHE XDS 統合プロファイルの IHE アクタの一つ。ドキュメントリポジトリに保存されている診療情報等の文書の保存場所などを登録し、ドキュメントコンシューマからの検索要求に対し検索結果を返す。
- **XDS アダプタ (XDS Registry Adaptor)**  
IHE XDS 統合プロファイルで規定されている機能で、ebXML レジストリ標準では規定されていない追加された機能の処理を行う。

#### 4. 3 一般的な用語

本技術文書では、つぎの一般的な用語を用いる。

- **メタデータ (metadata)**  
データについての情報を記述したデータ。データを効率的に管理したり検索したりするために用いられる。
- **アクタ (Actor)**  
ユースケースモデルを構成する要素の 1 つで、システム（主体）にアクセスする利用者や外部システムなどの実体。（「IHE アクタ」（前述）参照）
- **SOAP (Simple Object Access Protocol)**  
ソフトウェア同士がメッセージ（オブジェクト）を交換する（リモートプロシージャコール・遠隔手続呼び出し）ためのプロトコル。SOAP は拡張可能で分散的なフレームワークであり、HTTP や SMTP など様々なコンピュータネットワークの通信プロトコルで利用することができる。通信内容を XML で記述することが特徴である。
- **URI (Uniform Resource Identifier)**

## 第4章 用語の定義

インターネット上に存在する情報資源(文書や画像など)の場所を指し示す記述方式。インターネットにおける情報の「住所」にあたる。情報の種類やサーバ名、ポート番号、フォルダ名、ファイル名などで構成される。

- Web サービス

WWW 関連の技術を使い、ソフトウェアの機能を利用できるようにしたもの。

- デジタル署名

デジタル文書の正当性を保証するために付けられる暗号化された署名情報。

- プロトコル

ネットワークを介してコンピュータ同士が通信を行う上で、相互に決められた約束事の集合。

- ボキャブラリ (語彙)

コードおよび、その表示名で体系化される語の集合。

- Omar

オープンソースで提供されている ebXML の ebRIM3.0 および ebRS3.0 に準拠したシステム。

### 4. 4 記号および略語

この適用ガイドでは、次の記号および略語、表記を用いる。

ACP	Access Control Policy
API	Application Program Interface
ATNA	Audit Trail and Node Authentication
CDA	Clinical Document Architecture
CDA R2	Clinical Document Architecture Release 2.0
CT	Consistent Time
CX	Extended Composite ID with Check Digit
DICOM	Digital Imaging and Communications in Medicine
DTM	Date/Time
ebMS	OASIS/ebXML Registry Services Specifications
ebRIM	OASIS/ebXML Registry Information Model
ebXML	Electronic Business using eXtensible Markup Language
HL7	Health Level Seven
HL7J	Health Level Seven Japan (日本 HL7 協会)
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
IHE	Integrating the Healthcare Enterprise

IHE ITI TF	IHE IT Infrastructure Technical Framework
JAHIS	Japanese Association of Healthcare Information Systems Industry
MEDIS-DC	Medical Information System Development Center
MML	Medical Markup Language
MTOM	Message Transaction Optimization Mechanism
NPO	Non-Profit Organization
NTP	Network Time Protocol
OASIS	Organization for the Advancement of Structured Information Standards
OID	ISO Object Identifier
PACS	Picture Archiving and Communication Systems
PDF	Portable Document Format
PDQ	Patient Demographics Query (患者基本情報の問合せ)
PID	Patient identification segment
PIX	Patient Identifier Cross-reference
SHA1	Secure Hash Algorithm 1
S/MIME	Secure / Multipurpose Internet Mail Extensions
SOAP	Simple Object Access Protocol (SOAP 1.1 での略語)
TLS	Transport Layer Security
UML	Unified Modeling Language
URI	Uniform Resource Identifier
UUID	Universally Unique Identifier
WSDL	Web Services Description Language
XACML	eXtensible Access Control Markup Language
XCN	Extended Composite ID Number and Name for Persons
XDS	Cross-Enterprise Document Sharing
XDS-I	Cross-enterprise Document Sharing for Imaging
XOP	XML-binary Optimized Packaging
XON	Extended Composite Name and Identification Number For Organizations

## 第5章 インタフェース定義

### 5. 1 概要

XDS レジストリ、XDS リポジトリにアクセスするためのトランザクションは、IHE XDS Technical Framework の XDS トランザクションに従うものとする。

ここでは、ドキュメントソースおよびドキュメントコンシューマ間の次のトランザクション (1) ~ (3) についてのみ記述する。

- (1) ドキュメント提出・登録 (Provide & Register Document Set-b) [ITI-41]
- (2) ストアドクエリ (Registry Stored Query) [ITI-18]
- (3) ドキュメント取り出し (Retrieve Document Set) [ITI-43]

本インタフェース定義で参照する標準は、表 5-1 の通りである。

表 5-1 インタフェース定義で参照する標準の一覧

ebRIM	OASIS/ebXML Registry Information Model v3.0
ebRS	OASIS/ebXML Registry Services Specifications v3.0
SOAP12	SOAP 1.2 Recommendation <a href="http://www.w3.org/TR/soap/">http://www.w3.org/TR/soap/</a>
SOAP11	SOAP 1.1 Note <a href="http://www.w3.org/TR/2000/NOTE-SOAP-20000508/">http://www.w3.org/TR/2000/NOTE-SOAP-20000508/</a>
WSDL11	WSDL 1.1 Note <a href="http://www.w3.org/TR/wsdl">http://www.w3.org/TR/wsdl</a>
MTOM	SOAP Message Transmission Optimization Mechanism <a href="http://www.w3.org/TR/soap12-mtom/">http://www.w3.org/TR/soap12-mtom/</a>

注) SOAP のバージョンは、SOAP12 が標準で、SOAP11 はオプションである。

なお、これらのインタフェース定義の適合性は基準Aとする。

### 5. 2 通信プロトコル

XDS の IHE アクタ間のメッセージ通信は、OASIS で規格化されている ebMS (メッセージサービス)、ebRS (レジストリサービス) 標準および、HTTP プロトコル (RFC2616) に従う。

ドキュメント提出・登録、ストアドクエリ及びドキュメント取り出しのトランザクションは、SOAP メッセージ (HTTP バインディング) を用いて行われる。

図 5-1 に、IHE アクタとトランザクションの関係、及びメッセージ通信の構成を示す。

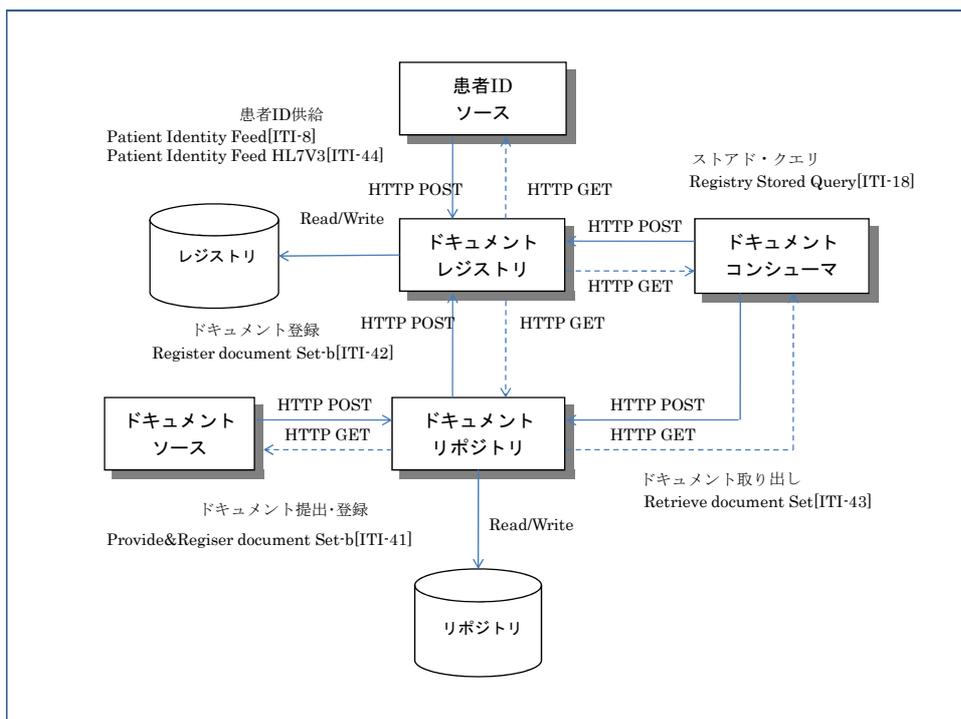


図5-1 メッセージ相互通信の構成

### 5.3 インタフェース定義の形式

SOAPメッセージのインタフェースは、表5-2に示すWSDLの要素を用いてWebサービスとして定義される。表5-3および表5-4は、ポートタイプとメッセージ定義を表形式にしたものである。

表5-2 WSDL定義の要素

要素	説明
ポートタイプ名	メッセージ群を1つの論理操作（オペレーション）としてまとめたもの
メッセージ名	個々の送信データの形式を定義したもの
バインディング	論理モデルと物理モデルを結び付けたもの
サービス名	通信エンドポイントの物理的なアドレス
ポート	バインディングとアドレスの組み合わせでエンドポイントを定義したもの

表5-3 ポートタイプ定義の形式

ポートタイプ名		バインディング
Input msg	入力メッセージ名	HTTPのメソッド名
	wsaw:Action="エンドポイント" (サービス名)	
Output msg	出力メッセージ名	HTTPのメソッド名
	wsaw:Action="エンドポイント" (サービス名)	

表5-4 メッセージ定義の形式

入力メッセージ名		入力メッセージの説明
element	"メッセージのスキーマ"	
name	"オペレーション名"	
出力メッセージ名		出力メッセージの説明

## 第5章 インタフェース定義

element	"メッセージのスキーマ"
name	"オペレーション名"

注) インタフェースの詳細は、IHE XDS Technical Framework に WSDL 形式で定義されている。実行時のメッセージ形式は、採用する技術の違いにより異なり、メッセージの具体的な形式は附属書 E. 2 に記載する。

## 5. 4 ドキュメント提出・登録 (Provide & Register Document Set-b)

### 5. 4. 1 機能概要

本トランザクションは、ドキュメントエントリをまとめたサブミッションセット（登録ドキュメントの集合）の登録の機能を提供する Web サービスとして規定される。

リポジトリは、これらのドキュメントを永続的に格納し、且つドキュメントソースから受け取ったドキュメントのメタデータを、ドキュメント登録トランザクションを使用して転送し、ドキュメントレジストリの中に登録する。

XDS レジストリおよびリポジトリ (IHE アクタ) は、作成されるフォルダとフォルダへ割り当てられるドキュメントについて、それぞれのメタデータの間で矛盾がないかの検証機能をもつものとする。

### 5. 4. 2 インタフェース定義

インタフェース定義を表 5-5、表 5-6 及び表 5-7 に示す (WSDL の要素)。

表 5-5 ポートタイプ定義

"DocumentRepository_PortType"			
Input	"ihe:ProvideAndRegisterDocumentSet-b_Message"		HTTP POST
	wsaw:Action="urn:ihe:iti:2007:ProvideAndRegisterDocumentSet-b"		
Output	"ihe:ProvideAndRegisterDocumentSet-bResponse_Message"		HTTP GET
	wsaw:Action="urn:ihe:iti:2007:ProvideAndRegisterDocumentSet-bResponse"		

表 5-6 メッセージ定義

"ProvideAndRegisterDocumentSet-b_Message"		サブミッションのリクエストメッセージ
element	"ihe:ProvideAndRegisterDocumentSetRequest"	
name	"body"	
"ProvideAndRegisterDocumentSet-bResponse_Message"		レジストリからの返答メッセージ
element	"rs:RegistryResponse"	
name	"body"	

表 5-7 WSDL 名前空間定義

soap12	http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap12/
wsaw	http://www.w3.org/2006/05/addressing/wsdl/
xsd	http://www.w3.org/2001/XMLSchema
ihe	urn:ihe:iti:xds-b:2007
rs	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:rs:3.0
lcm	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:lcm:3.0
query	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:query:3.0

### 5. 4. 3 メッセージ形式

SubmitObjectsRequest 及び RegistryResponse の定義の概要を示す。詳細は、ebXML3.0 の XML スキーマを参照のこと。

・SubmitObjectsRequest の形式

SubmitObjectsRequest で RegistryObject 要素のリスト (ebXML レジストリメッセージ) を登録する。

RegistryObject 要素のリストの各要素は、1つのサブミッションオブジェクトに対するメタデータ

を提供（サブミッション）する。

```
<element name="SubmitObjectsRequest">
  <annotation>
    <documentation xml:lang="en"> </documentation>
  </annotation>
  <complexType>
    <complexContent>
      <extension base="rs:RegistryRequestType">
        <sequence>
          <element ref="rim:RegistryObjectList"/>
        </sequence>
      </extension>
    </complexContent>
  </complexType>
</element>
```

図5-3参照

図5-4参照

図5-2 SubmitObjectsRequestの形式

```
<complexType name="RegistryRequestType">
  <annotation>
    <documentation xml:lang="en">Base type for all ebXML Registry requests</documentation>
  </annotation>
  <sequence>
    <!-- every request may be extended using Slots. -->
    <element maxOccurs="1" minOccurs="0" name="RequestSlotList" type="rim:SlotListType"/>
  </sequence>
  <attribute name="id" type="anyURI" use="optional"/>
  <!--Comment may be used by requestor to describe the request.
                                     Used in VersionInfo.comment-->
  <attribute name="comment" type="string" use="optional"/>
</complexType>
<element name="RegistryRequest" type="tns:RegistryRequestType"/>
```

図5-3 RegistryRequestの形式

```
<complexType name="RegistryObjectListType">
  <sequence>
    <element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="tns:Identifiable"/>
  </sequence>
</complexType>
<element name="RegistryObjectList" type="tns:RegistryObjectListType"/>
```

図5-4 RegistryObjectListの形式

## ・RegistryResponse の形式

図5-5は、SubmitObjectsRequest に対する返答メッセージ RegistryResponse の形式である。

```
<complexType name="RegistryResponseType">
  <annotation>
    <documentation xml:lang="en">Base type for all ebXML Registry responses
    </documentation>
  </annotation>
  <sequence>
    <!-- every response may be extended using Slots. -->
    <element maxOccurs="1" minOccurs="0" name="ResponseSlotList" type="rim:SlotListType"/>
    <element minOccurs="0" ref="tns:RegistryErrorList"/>
  </sequence>
  <attribute name="status" type="rim:referenceURI" use="required"/>
  <!-- id is the request if for the request for which this is a response -->
  <attribute name="requestId" type="anyURI" use="optional"/>
</complexType>
<element name="RegistryResponse" type="tns:RegistryResponseType"/>
```

図5-5 RegistryResponse の形式

## 5. 5 ストアドクエリ (Registry Stored Query)

### 5. 5. 1 機能概要

本トランザクションは、ドキュメント検索の機能を提供する Web サービスとして規定される。このトランザクションは、ドキュメントコンシューマからドキュメントレジストリに対して出され、ドキュメントリポジトリに存在するドキュメントエントリ、フォルダなどの各種メタデータを検索する。

このトランザクションの実行により、検索条件を満たすメタデータ (オブジェクト) のリストが得られる。

### 5. 5. 2 インタフェース定義

インタフェース定義を、表 5-8、表 5-9 及び表 5-10 に示す (WSDL の要素)。

表 5-8 ポートタイプ定義

"DocumentRegistry_PortType"			
Input msg	"ihe:RegisterDocumentSet-b_Message"		HTTP POST
	wsaw:Action="urn:ihe:iti:2007:ProvideAndRegisterDocumentSet-b"		
Output msg	"ihe:RegisterDocumentSet-bResponse_Message"		HTTP GET
	wsaw:Action="urn:ihe:iti:2007:ProvideAndRegisterDocumentSet-bResponse"		

表 5-9 メッセージ定義

"RegistryStoredQuery_Message"		ストアドクエリのメッセージ
element	"query:AdhocQueryRequest"	
name	"body"	
"RegistryStoredQueryResponse_Message"		ストアドクエリの返答メッセージ
element	"query:AdhocQueryResponse"	
name	"body"	

表 5-10 WSDL 名前空間定義

soap12	http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap12/
wsaw	http://www.w3.org/2006/05/addressing/wsdl/
xsd	http://www.w3.org/2001/XMLSchema
ihe	urn:ihe:iti:xds-b:2007
rs	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:rs:3.0
lcm	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:lcm:3.0
query	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:query:3.0

クエリの対象になる可能性があるドキュメントエントリ属性のメタデータの詳細は、6章で定義する。

このトランザクションは、XDS ドキュメントレジストリクエリの基本文法および意味に従う。

すべてのクエリは、以下の2つのいずれかのタイプで結果を返信する。

- ・ 1つ以上のメタデータ (オブジェクト) の実体 (そのもの)
- ・ 1つ以上のメタデータ (オブジェクト) の識別 ID (UUID 値)

## 5. 5. 3 メッセージ形式

AdhocQueryRequest の定義の概要を示す。詳細は、ebXML3.0 の XML スキーマを参照のこと。

- AdhocQueryRequest

AdhocQueryRequest のメッセージ形式のスキーマ定義を図 5-6 に示す。下位のメッセージ AdhocQueryType の定義を図 5-7 に示す。AdhocQuery は、2つのパラメータ ResponseOption と QueryExpression (SQL 式) をもつ。

```
<element name="AdhocQueryRequest">
  <annotation>
    <documentation xml:lang="en">An Ad hoc query request specifies an ad hoc query.
    </documentation>
  </annotation>
  <complexType>
    <complexContent>
      <extension base="rs:RegistryRequestType">
        <sequence>
          <element maxOccurs="1" minOccurs="1" ref="tns:ResponseOption"/>
          <element ref="rim:AdhocQuery"/>
        </sequence>
        <attribute default="false" name="federated" type="boolean" use="optional"/>
        <attribute name="federation" type="anyURI" use="optional"/>
        <attribute default="0" name="startIndex" type="integer"/>
        <attribute default="-1" name="maxResults" type="integer"/>
      </extension>
    </complexContent>
  </complexType>
</element>
```

図 5-7 参照

図 5-6 AdhocQueryRequest の形式

```
<complexType name="AdhocQueryType">
  <annotation>
    <documentation xml:lang="en">
      A registry query.
      A QueryExpression child element is not required when invoking a stored query.
    </documentation>
  </annotation>
  <complexContent>
    <extension base="tns:RegistryObjectType">
      <sequence>
        <element ref="tns:QueryExpression" minOccurs="0" maxOccurs="1" />
      </sequence>
    </extension>
  </complexContent>
</complexType>
<element name="AdhocQuery"
  type="tns:AdhocQueryType" substitutionGroup="tns:RegistryObject" />
```

図 5-7 AdhocQuery の形式

・ AdhocQueryResponse

AdhocQueryResponse のメッセージ形式のスキーマ定義を図5-8に示す。検索で発生するエラーの返信用メッセージ RegistryErrorList の形式を図5-9に示す。

```

<element name="AdhocQueryResponse">
  <annotation>
    <documentation xml:lang="en">
      The response includes a RegistryObjectList which has zero or more
      RegistryObjects that match the query specified in AdhocQueryRequest.
    </documentation>
  </annotation>
  <complexType>
    <complexContent>
      <extension base="rs:RegistryResponseType">
        <sequence>
          <element ref="rim:RegistryObjectList"/>
        </sequence>
        <attribute default="0" name="startIndex" type="integer"/>
        <attribute name="totalResultCount" type="integer" use="optional"/>
      </extension>
    </complexContent>
  </complexType>
</element>

```

図5-8 AdohocQueryResponse の形式

```

<element name="RegistryErrorList">
  <annotation>
    <documentation xml:lang="en">The RegistryErrorList is derived from the ErrorList
    element from the ebXML Message Service Specification</documentation>
  </annotation>
  <complexType>
    <sequence>
      <element maxOccurs="unbounded" ref="tns:RegistryError"/>
    </sequence>
    <attribute name="highestSeverity" type="rim:referenceURI" use="optional"/>
  </complexType>
</element>
<element name="RegistryError">
  <complexType>
    <simpleContent>
      <extension base="string">
        <attribute name="codeContext" type="string" use="required"/>
        <attribute name="errorCode" type="string" use="required"/>
        <attribute default="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:ErrorSeverityType:Error"
        name="severity" type="rim:referenceURI" />
        <attribute name="location" type="string" use="optional"/>
      </extension>
    </simpleContent>
  </complexType>
</element>

```

図5-9 RegistryErrorList の形式

#### 5. 5. 4 クエリのパターン

クエリ・トランザクションは、さまざまなタイプのクエリをサポートする。以下は、そのクエリのパターンである。

- ある期間における地域患者 ID、施設患者 ID、文書タイプ、診療科および作成者などをキーとしたクエリ

- ドキュメントソースを対象にしたクエリ
- ある期間内に更新された XDS フォルダを対象としたクエリ
- フォルダまたはサブミッションセットのすべてのドキュメントを対象にしたクエリ
- サブミッションされた時期によるクエリ

IHE XDS Technical Framework で、以下の 13 種類の組み込み型の問い合わせが定義されている。1 種類の問い合わせにつき、SQL 文内のパラメータが異なる複数のパターンが存在するものもある。ここで、“Find” は、メタデータ（オブジェクト）の UUID を返し、“Get” は、メタデータ（オブジェクト）そのものを返す。

- FindDocuments
- FindSubmissionSets
- FindFolders
- GetAll
- GetDocument
- GetSubmissionSetContentsAndContents
- GetFolderAndContents
- GetFoldersForDocument
- GetRelatedDocument
- GetFolders
- GetAssociations
- GetDocumentsAndAssociations
- GetSubmissionSets

以下に、それぞれのクエリの概要を述べる。クエリの引数表では、各行がそれぞれ 1 つのパラメータを表す。コーディング上、各引数は、パラメータ名およびその値の組で表される。引数表の項目の意味は、表 5-11 のとおりである。

表 5-11 クエリの引数表の項目

項目	内容
パラメータ名	クエリの引数を識別するためのパラメータ名。
属性	対応するメタデータの名称。
設定	引数が必須 (R) か、オプション (O) かを識別する。必須の引数がない場合は、クエリは拒否される。一方、オプションな引数はなくてもよい。クエリの呼出しで、使用されなかったオプションな引数は、そのクエリに何も影響をあたえない。クエリは、すべての与えられた引数にマッチする登録オブジェクトを返す。

値	引数が、複数の値をとり得る場合は M で表示し、1つの値のみの場合は空白で表す。 値を指定する場合の形式は、以下の通り。 (値, 値, 値, ...) または (値) 引数に複数の値を指定した場合、指定されたいずれかの値にマッチするオブジェクトが返される。
---	---

注1) クエリの引数が属性 status (XDSDocumentEntryStatus, XDSSubmissionSetStatus, XDSFolderStatus)のときは、値は、(‘Approved’, ‘Deprecated’)でなければならない。

注2) クエリの引数の患者 ID の形式については、以下のような注意が必要である。

- ・レジストリは、患者 ID に対しての前処理は何も行わずに、SQL 仕様での患者 ID フィールドの文字列マッチングを実行すべきである。

- ・コンシューマ側は、正しい患者 ID の形式(IDNumber^^^&OIDofAA&ISO)で、指定しなければならない。

### (1) FindDocuments

照合するパラメータのホストから、特定の patientID (地域患者 ID) に関するレジストリ内のドキュメントエントリ (XDSDocumentEntry) オブジェクトの UUID を見つける。

表 5-12 FindDocuments の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSDocumentEntryPatientId	XDSDocumentEntry.patientId	R	
\$XDSDocumentEntryClassCode	XDSDocumentEntry.classCode	O	M
\$XDSDocumentEntryClassCodeScheme	XDSDocumentEntry.classCode (*1)	O(*2)	M(*2)
\$XDSDocumentEntryPracticeSettingCode	XDSDocumentEntry.practiceSettingCode	R	M
\$XDSDocumentEntryPracticeSettingCodeScheme	XDSDocumentEntry.practiceSettingCode (*1)	O(*2)	M(*2)
\$XDSDocumentEntryCreationTimeFrom	XDSDocumentEntry.creationTime の下限	O	
\$XDSDocumentEntryCreationTimeTo	XDSDocumentEntry.creationTime の上限	O	
\$XDSDocumentEntryServiceStartTimeFrom	XDSDocumentEntry.serviceStartTime の下限	O	
\$XDSDocumentEntryServiceStartTimeTo	XDSDocumentEntry.serviceStartTime の上限	O	
\$XDSDocumentEntryServiceStopTimeFrom	XDSDocumentEntry.serviceStopTime の下限	O	
\$XDSDocumentEntryServiceStopTimeTo	XDSDocumentEntry.serviceStopTime の上限	O	
\$XDSDocumentEntryHealthcareFacilityTypeCode	XDSDocumentEntry.healthcareFacilityTypeCode	O	M
\$XDSDocumentEntryHealthcareFacilityTypeCodeScheme	XDSDocumentEntry.healthcareFacilityTypeCode(*1)	O(*2)	M(*2)
\$XDSDocumentEntryEventCodeList	XDSDocumentEntry.eventCodeList	O	M
\$XDSDocumentEntryEventCodeListScheme	XDSDocumentEntry.eventCodeList (*1)	O(*2)	M(*2)
\$XDSDocumentEntryConfidentialityCode	XDSDocumentEntry.confidentialityCode	O	M
\$XDSDocumentEntryFormatcode	XDSDocumentEntry.formatcode	O	M
\$XDSDocumentEntryStatus	XDSDocumentEntry.status	R	M

注\*1) Slot 'codingScheme' で指定される属性。

注\*2) Slot 'codingScheme'の値リストは、Code 属性に指定された値リストと順に対応する。

### (2) FindSubmissionSets

照合するパラメータのホストから、特定の patientID に関するレジストリ内のすべてのサブミッションセット (XDSSubmissionSet) オブジェクトの UUID を返す。

表5-13 FindSubmissionSets の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSSubmissionSetPatientId	XDSSubmissionSet.patientId	R	
\$XDSSubmissionSetSourceId	XDSSubmissionSet.sourceId	O	M
\$XDSSubmissionSetSubmissionTimeFrom	XDSSubmissionSet.submissionTime の下限	O	
\$XDSSubmissionSetSubmissionTimeTo	XDSSubmissionSet.submissionTime の上限	O	
\$XDSSubmissionSetAuthorPerson *1	XDSSubmissionSet.authorPerson	O	
\$XDSSubmissionSetContentType	XDSSubmissionSet.contentType	O	
\$XDSSubmissionSetStatus	XDSSubmissionSet.status	R	

注\*1) SQL の Like 式 (ワイルドカードを使用したあいまい検索) が適用される。

### (3) FindFolders

照合するパラメータのホストから、特定の patientID に関するレジストリ内のフォルダ (XDSSFolder) オブジェクトの UUID を返す。

表5-14 FindFolders の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSSFolderPatientId	XDSSFolder.patientId	R	
\$XDSSFolderLastUpdateTimeFrom	XDSSFolder.lastUpdateTime の下限	O	
\$XDSSFolderLastUpdateTimeTo	XDSSFolder.lastUpdateTime の上限	O	
\$XDSSFolderCodeList	XDSSFolder.codeList	O	M
\$XDSSFolderCodeListScheme	XDSSFolder.codeListScheme (*1)	O (*2)	M (*2)
\$XDSSFolderStatus	XDSSFolder.status	R	M

注\*1) Slot 'codingScheme' で指定される属性。

注\*2) Slot 'codingScheme' の値リストは、Code 属性に指定された値リストと順に対応する。

### (4) GetAll

指定された patientID に関連するすべての XDSSubmissionSet、XDSSDocumentEntry ならびに XDSSFolder のメタデータ (オブジェクト) そのものを取得する。

表5-15 GetAll の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$patientId	XDSSFolder.patientId, XDSSubmissionSet.patientId, XDSSDocumentEntry.patientId	R	
\$XDSSDocumentEntryStatus	XDSSDocumentEntry.status	R	M
\$XDSSubmissionSetStatus	XDSSubmissionSet.status	R	M
\$XDSSFolderStatus	XDSSFolder.status	R	M
\$XDSSDocumentEntryFormatCode	XDSSDocumentEntry.formatCode	O	M
\$XDSSDocumentEntryConfidentialityCode	XDSSDocumentEntry.confidentialityCode	O	M

### (5) GetDocument

このクエリは、entryUUID または uniqueId のいずれかで指定されたドキュメントのオブジェクトを返す。

表5-16 GetDocument の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSSDocumentEntryEntryUUID	XDSSDocumentEntry.entryUUID	O (*1)	M

\$XDSDocumentEntryUniqueld	XDSDocumentEntry.uniqueld	O (*1)	M
----------------------------	---------------------------	--------	---

注\*1) どちらかのパラメータは必ず指定しなくてはならない。

### (6) GetSubmissionSetContentsAndContents

このクエリは、指定されたサブミッションセット、含まれるすべてのドキュメントフォルダ、ならびにこれらの要素の関連(association)を返す。

表 5 - 1 7 GetSubmissionSetContentsAndContents の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSSubmissionSetEntryUUID	XDSSubmissionSet.entryUUID	O (*1)	
\$XDSSubmissionSetUniqueld	XDSSubmissionSet.uniqueld	O (*1)	
\$XDSDocumentEntryFormatCode	XDSDocumentEntry.formatCode	O	M
\$XDSDocumentEntryConfidentialityCode	XDSDocumentEntry.confidentialityCode	O	M

注\*1) どちらかのパラメータは必ず指定しなくてはならない。

### (7) GetFolderAndContents

このクエリは、クエリが関連する XDSFolder および XDSSubmissionSet、ならびにその時点でフォルダに関連づけられているドキュメントを返す。

表 5 - 1 8 GetFolderAndContents の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSFolderEntryUUID	XDSFolder.entryUUID	O (*1)	
\$XDSFolderUniqueld	XDSFolder.uniqueld	O (*1)	
\$XDSDocumentEntryFormatCode	XDSDocumentEntry.formatCode	O	M
\$XDSDocumentEntryConfidentialityCode	XDSDocumentEntry.confidentialityCode	O	M

注\*1) どちらかのパラメータは必ず指定しなくてはならない。

### (8) GetFolderForDocumnet

指定されたドキュメントに関連する各フォルダの XDSFolder メタデータのリストを返す。

表 5 - 1 9 GetFolderForDocumnet の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSDocumentEntryEntryUUID	XDSDocumentEntry.entryUUID	O (*1)	
\$XDSDocumentEntryUniqueld	XDSDocumentEntry.uniqueld	O (*1)	

注\*1) どちらかのパラメータは必ず指定しなくてはならない。

### (9) GetRelatedDocuments

ドキュメントの entryUUID または uniqueId から、このドキュメントに関連 (association) オブジェクトによりリンクされたドキュメントがある場合にそれを返す。

表 5 - 2 0 GetRelatedDocuments の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSDocumentEntryEntryUUID	XDSDocumentEntry.entryUUID	O (*1)	
\$XDSDocumentEntryUniqueld	XDSDocumentEntry.uniqueld	O (*1)	

\$AssociationType	該当する属性なし	R	M
-------------------	----------	---	---

注\*1) どちらかのパラメータは必ず指定しなくてはならない。

### (10) GetFolders

ドキュメントの entryUUID または uniqueId から、このドキュメントが所属するすべてのフォルダを返す。

表5-21 GetFolders の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSFolderEntryUUID	XDSFolder.entryUUID	O(*1)	M
\$XDSFolderUniqueld	XDSFolder.uniqueld	O(*1)	M

注\*1) どちらかのパラメータは必ず指定しなくてはならない。

### (11) GetAssociations

パラメータで指定した UUID から、そのオブジェクトを、ソースまたはターゲットとする関連 (association) オブジェクトを返す。

表5-22 GetAssociations の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$uuid	該当する属性なし	O	M

### (12) GetDocumentsAndAssociations

ドキュメントの entryUUID または uniqueId から、ドキュメントに関するすべての関連 (association) オブジェクトおよびリンク先のドキュメントを返す。

表5-23 GetDocumentsAndAssociations の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$XDSDocumentEntryEntryUUID	XSDocumentEntry.entryUUID	O(*1)	M
\$XDSDocumentEntryUniqueld	XSDocumentEntry.uniqueld	O(*1)	M

注\*1) どちらかのパラメータは必ず指定しなくてはならない。

### (13) GetSubmissionSets

指定された UUID から、XDSDocumentEntry および XDSFolder オブジェクトを提出する際に使用された XDSSubmissionSet オブジェクトを返す。

表5-24 GetSubmissionSets の引数

パラメータ名	属性	設定	値
\$uuid	XSDocumentEntry.entryUUID, XDSFolder.entryUUID	R	M

5. 6 ドキュメントの取り出し (Retrieve Document Set)

5. 6. 1 機能概要

本トランザクションは、ドキュメントの取り出しの機能を提供する Web サービスとして規定される。ドキュメントコンシューマは、クエリレジストリトランザクションを通じて、ドキュメントエントリのメタデータを検索する。ドキュメントエントリのメタデータには、ドキュメントの所在情報が含まれており、それに基づき XML 形式による取得要求メッセージをリポジトリに送る。リポジトリは、取り出したドキュメントをドキュメントコンシューマに返す。

5. 6. 2 インタフェース定義

インタフェース定義を、表 5-25、表 5-26 及び表 5-27 に示す (WSDL の要素)。

表 5-25 ポートタイプ定義

"DocumentRepository RetrieveDocumentSet"		
Input msg	"ihe:RetrieveDocumentSet_Message"	HTTP POST
	wsaw:Action="urn:ihe:iti:2007:RetrieveDocumentSet"	
Output msg	"ihe:RetrieveDocumentSetResponse_Message"	HTTP GET
	wsaw:Action="urn:ihe:iti:2007:RetrieveDocumentSetResponse"	

表 5-26 メッセージ定義

"RetrieveDocumentSet_Message"		取り出しメッセージ
element	"ihe:RetrieveDocumentSetRequest"	
name	"body"	
"RetrieveDocumentSetResponse_Message"		取り出しの返答メッセージ
element	"ihe:RetrieveDocumentSetResponse"	
name	"body"	

表 5-27 WSDL 名前空間定義

soap12	http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap12/
wsaw	http://www.w3.org/2006/05/addressing/wsdl/
xsd	http://www.w3.org/2001/XMLSchema
ihe	urn:ihe:iti:xds-b:2007
rs	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:rs:3.0
lcm	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:lcm:3.0
query	urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:query:3.0

## 第6章 メタデータ定義

### 6.1 概要

XDS メタデータは、ドキュメントエントリ、サブミッションセット、フォルダから構成されている。図6-1は、XDS メタデータの構成を示す。ここでは、メタデータの詳細な形式を定義する。

- ・同じフォルダに登録する複数のドキュメントエントリをまとめて、サブミッションセットを構成し登録の単位とする。

- ・ドキュメントエントリごとに、文書ID、地域患者IDなどのドキュメントの内容を反映したメタデータをつける。

- ・登録ドキュメントの種別は、ドキュメントエントリのメタデータ classCode、typeCode、MIMEタイプ及び、フォーマットコードで識別する。

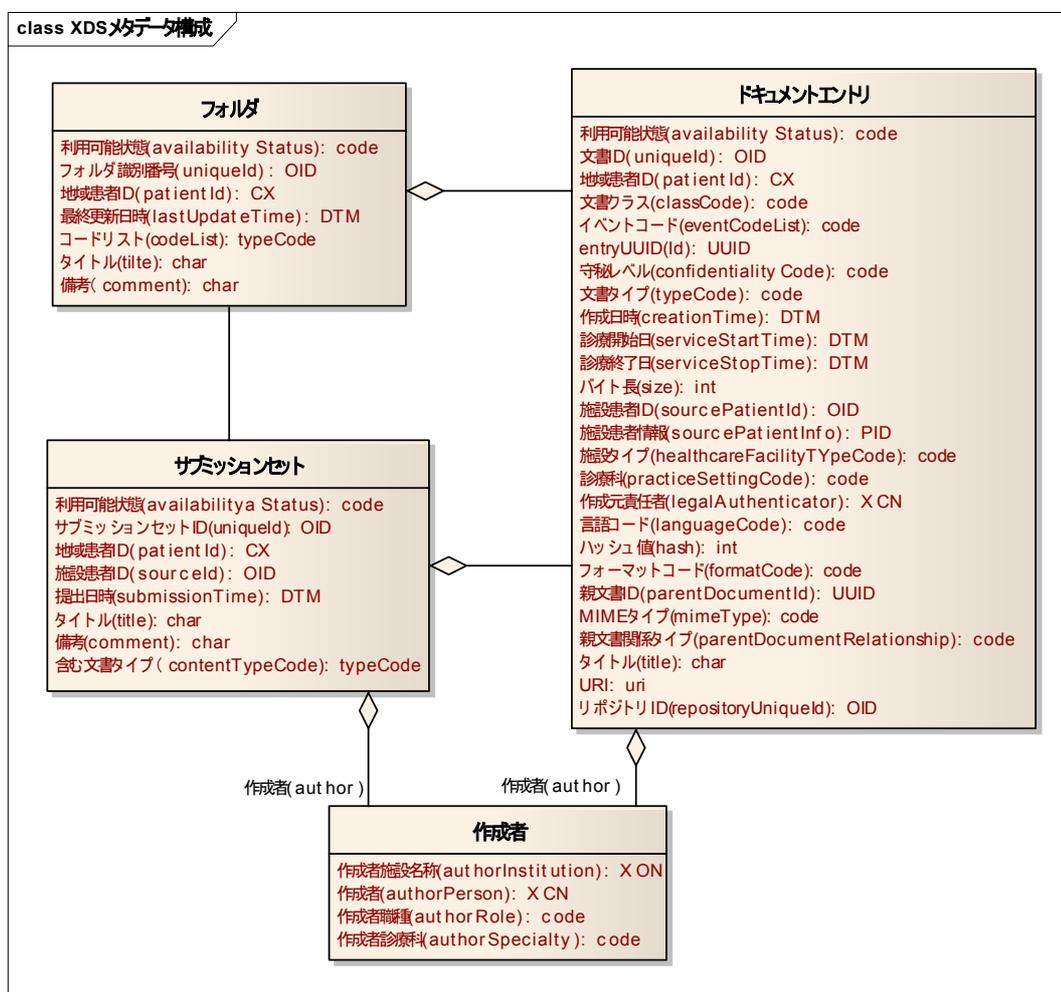


図6-1 XDSのメタデータ構成図

XDS メタデータの定義、XML形式の規定およびXMLインスタンスの例を挙げる。詳細な形式は、表6-1の標準を参照。

表6-1 メタデータ定義で参照する標準の一覧

ebRIM	OASIS/ebXML Registry Information Model v3.0
ebRS	OASIS/ebXML Registry Services Specifications v3.0
IHE ITI	Registry Stored Query Transaction for XDS Profile [ITI-18], Trial Implementation Version
IHE ITI	vol. 2 (ITI TF-2): Transactions, Revision 4.0
IHE ITI	Cross-Enterprise Document Sharing-b (XDS.b) Draft for Trial Implementation

メタデータ定義表の項目を、表6-2に示す。

なお、メタデータの定義についての適合性は基準Aとする。ただし、Code（コード系およびコード値）については、指定された語彙が基準Bの場合は、その値については（基準B）とする（基準Bのものを“型/語彙”欄に明示）。

表6-2 メタデータ定義表の項目

項目	内容
XPath	ebRIM および ebRS の XML スキーマ上の位置を示す。 表の先頭行には、ルートからの XPath を記述し、要素名/属性名の列には、それから下位の XPath の要素を記述する。（なお、グレー色の行は、タグの構造、区切りを分かりやすくするためのものである）。
要素名/属性名	XML の要素名または属性名を示す（属性名は、@ではじまる文字列）。
内容	要素名/属性名の説明。固定の UUID、文字列、語彙（7.2）で定義されたコード系などを指定する。
型/語彙	要素または属性の値のデータ型または語彙を示す。データ型は、以下のとおり。 ①一般： char（文字列）、int（数値）、code（コード、またはコード系の種類を明示） ②ID 関係： UUID、OID、URI ③HL7 関係： DTN（日付）、CX（患者 ID）、XCN（名前）、XON（組織名）、PID（患者基本）
設定	値の設定に関する制約を示す。以下の意味をもつ。 ・生成：処理系が自動で値を設定する。 ・固定：固定の UUID、コード値、文字列を指定する。 ・R：値が、必須である。 ・O：値は、オプションである。
多重	XML スキーマとしての取り得る値の多重度を示す。

注）以下の XML インスタンスの例示では、固定値は下線で表示する。また、枠付きの値は、定義表で規定した適切な値がセットされることを示す。

## 6.2 ドキュメントエン트리 (DocumentEntry)

### 6.2.1 repositoryUniqueID, entryUUID, availabilityStatus, mimeType 及び title（基準 A）

ドキュメントエントリを、ebRIM3.0の外部オブジェクト（ExtrinsicObject）として登録する。外部オブジェクトの状態（ライフサイクル）が管理される。

repositoryUniqueID, entryUUID, availabilityStatus, mimeType 及び title のメタデータ定義は、表6-3の通りである。

表6-3 DocumentEntry – repositoryUniqueID, entryUUID, availabilityStatus, mimeType 及び title のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/			
ExtrinsicObject	外部オブジェクト			0..*
@id	外部オブジェクトの識別子（entryUUID）を指定。 （内部で、UUID に変換される）	char (UUID)	R 生成	1..1

@objectType	ebXML のオブジェクトタイプを UUID で指定。 "urn:uuid:7edca82f-054d-47f2-a032-9b2a5b5186c1" に固定。	UUID	固定	1..1
@status	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>availabilityStatus</b> を指定。</li> <li>・ サブミッション処理後に、承認 (Approved) 状態にセットされる。 (ドキュメントソースからの提出・登録時には、指定不要)。</li> <li>・ ドキュメントのオーナーは、廃止 (Deprecated) にできる。</li> </ul>	UUID	生成	1..1
@mimeType	外部オブジェクトの <b>A-mimeType</b> (7.2.10)を指定。	code	R	1..1
/ExtrinsicObject/Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	ドキュメントのタイトル ( <b>title</b> ) を記載。	char	O	1..1
/ExtrinsicObject/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>repositoryUniqueId</b> "に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	ドキュメントリポジトリを一意に識別する ID ( <b>repositoryUniqueId</b> )を指定。	OID	R	1..1

```

< RegistryObjectList >
  < rim:ExtrinsicObject
    id="theDocument"
    objectType="urn:uuid:7edca82f-054d-47f2-a032-9b2a5b5186c1"
    status="Approved の UUID"
    mimeType="text/xml">
    <rim:Name>
      <rim:LocalizedString value="title"/>
    </rim:Name>
    <rim:Slot name ="repositoryUniqueId">
      <rim:ValueList>
        <rim:Value>repository の OID</rim:Value>
      </rim:ValueList>
    </rim:Slot>
    ...
  </rim:ExtrinsicObject>
</RegistryObjectList >

```

図 6 - 2 DocumentEntry - repositoryUniqueId, entryUUID, availabilityStatus, mimeType 及び title のメタデータ例

6. 2. 2 uniqueId (文書 ID) (基準 A)

ドキュメントエントリをレジストリ内で一意に識別するIDを(ドキュメントソース側で)指定する。uniqueId (文書ID) のメタデータ定義は、表 6 - 4 の通りである。

表 6 - 4 DocumentEntry - uniqueId (文書 ID) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
ExternalIdentifier	外部識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@identificationScheme	外部識別子 uniqueId を指す UUID を指定。 "urn:uuid:2e82c1f6-a085-4c72-9da3-8640a32e42ab"に 固定。	UUID	固定	1..1

@value	ドキュメントエントリを識別する OID。	OID	R	1..1
@registryObject	DocumentEntry(ExtrinsicObject)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
/ExternalIdentifier/Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	" <b>文書 ID (XSDDocumentEntry.uniqueId)</b> "に固定	char	固定	1..1

```
<rim:ExternalIdentifier
  id="e1"
  identificationScheme= "urn:uuid:2e82c1f6-a085-4c72-9da3-8640a32e42ab"
  value="1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7^11379"
  registryObject="theDocument">
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="文書 ID(XSDDocumentEntry.uniqueId)"/>
  </rim:Name>
</rim:ExternalIdentifier>
```

図 6 - 3 DocumentEntry - uniqueId (文書 ID) のメタデータ例

### 6. 2. 3 patientId (地域患者 ID) (基準 A)

ドキュメントエントリに関する地域患者IDを指定する。

patientId (地域患者ID) のメタデータ定義は、表 6 - 5 の通りである。

表 6 - 5 DocumentEntry - patientId (地域患者 ID) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
ExternalIdentifier	外部識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@identificationScheme	外部識別子 uniqueId を指す UUID。 "urn:uuid:58a6f841-87b3-4a3e-92fd-a8ffeff98427"に固定。	UUID	固定	1..1
@value	PIX で発行された地域患者 ID を指定。 ・ 識別子発行機関 ID (PIX センタを指す OID) ・ 地域患者 ID (PIX で管理発行)	CX	R	1..1
@registryObject	DocumentEntry(ExtrinsicObject)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
/ExternalIdentifier/Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	" <b>地域患者 ID (XSDDocumentEntry.patientId)</b> "に固定	char	固定	1..1

```
<rim:ExternalIdentifier
  id="e2"
  identificationScheme= "urn:uuid:58a6f841-87b3-4a3e-92fd-a8ffeff98427"
  value="6578946^^^&1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7&ISO"
  registryObject="theDocument">
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value = "地域患者 ID (XSDDocumentEntry.patientId)"/>
  </rim:Name>
</rim:ExternalIdentifier>
```

図 6 - 4 DocumentEntry - patientId (地域患者 ID) のメタデータ例

## 6. 2. 4 sourcePatientId (施設患者 ID) (基準 A)

ドキュメントエントリに関する施設患者IDを指定する。

sourcePatientId (施設患者 ID) のメタデータ定義は、表 6-6 の通りである。

表 6-6 DocumentEntry - sourcePatientId (施設患者 ID) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。"sourcePatientId"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	ドキュメントエントリに関する施設患者 ID をセット。	CX	R	1..1

```
<rim:Slot name="sourcePatientId">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>j98789^^^id.domain</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図 6-5 DocumentEntry - sourcePatientId (施設患者 ID) のメタデータ例

## 6. 2. 5 sourcePatientInfo (患者基本情報) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、患者の基本情報をHL7V2.5形式で指定する。

sourcePatientInfo (患者基本情報) のメタデータ定義は、表 6-7 の通りである。

表 6-7 DocumentEntry - sourcePatientInfo (患者基本情報) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。"sourcePatientInfo"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	ドキュメントエントリに関する患者情報をセット。 PID-3 は必須であり、ソース患者識別子を含む。 PID-5 は必須であり、患者名を含む。 PID-8 は必須であり、以下の患者の性別コードを含む。 M – 男性 F – 女性 O – その他 U – 不明 PID-7 は既知の場合は必須であり、患者の生年月日を含む。 PID-11 は既知の場合は必須であり、患者の住所を含む。 PID-2、PID-4、PID-12、PID-19 は使用してはならない。 その他の PID セグメントはオプションである。	PID	R	1..*

```
<rim:Slot name="sourcePatientInfo">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>PID-3 | DTP-1^^^&1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7&ISO</rim:Value>
    <rim:Value>PID-5 | DICTAPHONE^ONE^^^</rim:Value>
    <rim:Value>PID-7 | 19650120</rim:Value>
    <rim:Value>PID-8 | M</rim:Value>
    <rim:Value>PID-11 | 100 MainSt^^BURLINGTON^MA^01803^USA</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図 6-6 DocumentEntry - sourcePatientInfo (患者基本情報) のメタデータ例

6. 2. 6 classCode (文書クラス) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、ドキュメントの種類を指定する文書クラスを指定する。  
classCode (文書クラス) のメタデータ定義は、表 6-8 の通りである。

表 6-8 DocumentEntry - classCode (文書クラス) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Classification	分類識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で documentEntry.classCode を指す UUID。 "urn:uuid:41a5887f-8865-4c09-adf7-e362475b143a" に 固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を 指定。	UUID		1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>A-classCode</b> (7.2.1) から選択したコード値。	classC ode	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>A-classCode</b> から選択したコード値の表示 名。	classC ode	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>codingScheme</b> " に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。 <b>A-classCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Classification
  id="c1"
  classificationScheme="urn:uuid:41a5887f-8865-4c09-adf7-e362475b143a"
  classifiedObject="theDocument" nodeRepresentation="文書クラス" >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="文書クラス表示名"/>
  </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>A-classCode</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>

```

図 6-7 DocumentEntry - classCode (文書クラス) のメタデータ例

6. 2. 7 typeCode (文書タイプ) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、ドキュメントの種類を指定する詳細な文書タイプを指定する。  
typeCode (文書タイプ) のメタデータ定義は、表 6-9 の通りである。

表 6-9 DocumentEntry - typeCode (文書タイプ) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Classification	分類識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1

@classificationScheme	分類識別子で documentEntry.typeCode を指す UUID。 "urn:uuid:41a5887f-8865-4c09-adf7-e362475b143a" に固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を指定。	UUID		1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>B-typeCode</b> (7.2.2)から選択したコード 値。	typeCode (基準 B)	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>B-typeCode</b> から選択したコード値の表 示名。	typeCode (基準 B)	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>codingScheme</b> "に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。 <b>B-typeCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Classification
  id="c2"
  classificationScheme="urn:uuid:f0306f51-975f-434e-a61c-c59651d33983"
  classifiedObject="theDocument" nodeRepresentation="文書タイプ" >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="文書タイプ表示名"/>
  </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>B-typeCode</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>

```

図 6 - 8 DocumentEntry - typeCode (文書タイプ) のメタデータ例

## 6. 2. 8 eventCodeList (イベントコード) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、ドキュメント化された診療行為をコードで指定する。  
eventCodeList (イベントコード) のメタデータ定義は、表 6 - 10 の通りである。

表 6 - 10 DocumentEntry - eventCodeList (イベントコード) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Classification	分類識別子として指定。			0..*
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で documentEntry.eventCodeList を指す UUID。 "urn:uuid:2c6b8cb7-8b2a-4051-b291-b1ae6a575ef4"に 固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を指定。	UUID		1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>B-eventCode</b> (7.2.2)から選択したコード 値。	eventC ode (基準 B)	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1

@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>B-eventCode</b> から選択したコード値の表示名。	eventCode (基準 B)	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>codingScheme</b> "に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。 <b>B-eventCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Classification
  id="c3"
  classificationScheme="urn:uuid:2c6b8cb7-8b2a-4051-b291-b1ae6a575ef4"
  classifiedObject="theDocument" nodeRepresentation="イベント" >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="イベント表示名"/>
  </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>B-eventCode</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>
    
```

図 6-9 DocumentEntry - eventCodeList (イベントコード) のメタデータ例

### 6.2.9 confidentialityCode (守秘レベル) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、ドキュメントエントリの守秘レベルを指定する。  
confidentialityCode (守秘レベル) のメタデータ定義は、表 6-11 の通りである。

表 6-11 DocumentEntry - confidentialityCode (守秘レベル) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	LeafRegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Classification	分類識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で documentEntry.confidentialityCodeList を指す UUID。 "urn:uuid:f4f85eac-e6cb-4883-b524-f2705394840f"に固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を指定。	UUID		1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>A-confidentialityCode</b> (7.2.5)から選択したコード値。	confidentialityCode	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>A-confidentialityCode</b> から選択したコード値の表示名。	confidentialityCode	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>codingScheme</b> "に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。 <b>A-confidentialityCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Classification
  classificationScheme= "urn:uuid:f4f85eac-e6cb-4883-b524-f2705394840f"
  classifiedObject="theDocument" nodeRepresentation="守秘レベル" >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="守秘レベル表示名"/>
  </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>A-confidentialityCode</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>

```

図6-10 DocumentEntry - confidentialityCode（守秘レベル）のメタデータ例

## 6.2.10 creationTime（作成日）（基準A）

ドキュメントエンタリに関して、ドキュメントの作成日時を（ドキュメントソース側で）記載する。creationTime（作成日）のメタデータ定義は、表6-12の通りである。

表6-12 DocumentEntry - creationTime（作成日）のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。"creationTime"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	ドキュメントを作成した日時をセットする。	DTM	R	1..1

```

<rim:Slot name="creationTime">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>20041225212010</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>

```

図6-11 DocumentEntry - creationTime（作成日）のメタデータ例

## 6.2.11 serviceStartTime（診療開始日）（基準A）

ドキュメントエンタリに関して、ドキュメントに記述された内容のサービスの開始日時を記載する。その日付が分かっているならば、設定するものとする。

serviceStartTime（診療開始日）のメタデータ定義は、表6-13の通りである。

表6-13 DocumentEntry - serviceStartTime（診療開始日）のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				0..1
@name	スロットの名称。"serviceStartTime"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	サービスを開始した日時をセットする。	DTM	R	1..1

```
<rim:Slot name="serviceStartTime">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>20041225212010</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図6-12 DocumentEntry - serviceStartTime (診療開始日) のメタデータ例

### 6. 2. 1 2 serviceStopTime (診療終了日) (基準 A)

ドキュメントエン트리に関して、ドキュメントで記述された内容のサービスの終了日時（退院日、転帰日など）を記載する。その日付が分かっているならば、設定するものとする。

serviceStartTime (6. 2. 1 1 診療開始日) との制約として、条件 “serviceStartTime <= serviceStopTime” を満たすものとする。

serviceStopTime (診療終了日) のメタデータ定義は、表6-14の通りである。

表6-14 DocumentEntry - serviceStopTime (診療終了日) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				0..1
@name	スロットの名称。" <b>serviceStopTime</b> "に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	サービスを終了した日時をセットする。	DTM	R	1..1

```
<rim:Slot name="serviceStopTime">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>20041225232010</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図6-13 DocumentEntry - serviceStopTime (診療終了日) のメタデータ例

### 6. 2. 1 3 size (バイト長) (基準 A)

ドキュメントエン트리に関して、ドキュメントのリポジトリに格納されるバイト長を記載する。サブミッションされたドキュメントのバイト長は、ドキュメントリポジトリが計算する。

size (バイト長) のメタデータ定義は、表6-15の通りである。

表6-15 DocumentEntry - size (バイト長) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>size</b> "に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	ドキュメントエントリのオブジェクトのバイト値をセットする。	int	生成	1..1

```

<rim:Slot name="size">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>3654</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>

```

図6-14 DocumentEntry - size (バイト長) のメタデータ例

## 6. 2. 1.4 author (作成者) (基準 A)

ドキュメントエン트리に関して、サブミッションするドキュメントの作成者に関する情報を記載する。以下の情報が含まれる。

## (1) authorPerson (作成者)

ドキュメントエン트리に関して、サブミッションするドキュメントの作成者を記載する。

## (2) authorInstitution (作成者施設名称)

ドキュメントエン트리に関して、作成者の所属する施設の名称を記載する。

## (3) authorRole (作成者職種)

ドキュメントエン트리に関して、ドキュメントの作成者の役割を記載する。

## (4) authorSpecialty (作成者診療科)

ドキュメントエン트리に関して、施設内の診療科を記載する。

author (作成者) のメタデータ定義は、表6-16の通りである。

表6-16 DocumentEntry - author (作成者) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Classification				0..*
@ classificationScheme	分類識別子で document.Author を指す UUID。 "urn:uuid:93606bcf-9494-43ec-9b4ea7748d1a838d" 固定。	UUID	固定	
@ classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
@ nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。ブランクに固定。	char	固定	1..1
Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。"authorPerson" に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	作成者を記載。	XCN	R	1..1
Classification/Slot				0..*
@name	スロットの名称。"authorInstitution" に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	作者の所属する施設の名称を記載。	XON	O	1..1
Classification/Slot				0..*
@name	スロットの名称。"authorRole" に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	患者に対する作成者の役割を表現するコード。 別途定める語彙 <b>A-roleCode</b> (7.2.12) から選択したコード値。	RoleCode	O	1..*
Classification/Slot				0..*
@name	スロットの名称。"authorSpecialty" に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1

Slot/ValueList/Value	サブミッションしたドキュメントの作成者の所属する施設内の診療科を記載。(診療科コード)別途定める語彙 <b>B-practiceSettingCode(7.2.8)</b> から選択したコード値。	practice Setting Codes (基準 B)	O	1..*
----------------------	--	-------------------------------	---	------

```

<rim:Classification
  classificationScheme="urn:uuid:93606bcf-9494-43ec-9b4ea7748d1a838d"
  classifiedObject="theDocument"
  nodeRepresentation="">
  <rim:Slot name="authorPerson">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>^東海^太郎^^^Dr^MD</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
  <rim:Slot name="authorInstitution">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>急性期 T 病院</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
  <rim:Slot name="authorRole">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>担当医</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
  <rim:Slot name="authorSpecialty">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>脳神経外科</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>
  
```

図 6 - 1 5 DocumentEntry - author (作成者) のメタデータ例

6. 2. 1 5 comment (備考) (基準 A)

ドキュメントエンタリに関して、コメントを記載する。

comment (備考) のメタデータ定義は、表 6 - 1 7 の通りである。

表 6 - 1 7 DocumentEntry - comment (備考) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
/Description/	サブミッションセットに関するコメントを記載。			0..1
LocalizedString	日本語で表記。			1..1
@value	地域連携パスでの使用目的などを別途定める。自由形式のテキスト。	char	O	1..1

```

<rim:Description>
  <rim:LocalizedString value = "コメント"/>
</rim:Description>
  
```

図 6 - 1 6 DocumentEntry - comment (備考) のメタデータ例

## 6. 2. 16 legalAuthenticator (作成元責任者) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、ドキュメントの作成元責任者を記載する。

legalAuthenticator (作成元責任者) のメタデータ定義は、表 6-18 の通りである。

表 6-18 DocumentEntry - legalAuthenticator (作成元責任者) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Slot				0..1
@name	スロットの名称。"legalAuthenticator" に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	作成者を記載。	XCN	R	1..1

```
<rim:Slot name="legalAuthenticator">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>^東海^太郎^^Dr^MD</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図 6-17 DocumentEntry - legalAuthenticator (作成元責任者) のメタデータ例

## 6. 2. 17 healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、ドキュメント化されている行為の実施期間中の診察機関、施設のタイプを記載する。

healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ) のメタデータ定義は、表 6-19 の通りである。

表 6-19 DocumentEntry - healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Classification	分類識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で documentEntry.healthcareFacilityTypeCode を指す UUID。 "urn:uuid:f33fb8ac-18af-42cc-ae0e-ed0b0bdb91e1" 固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>A-healthcareFacilityTypeCode</b> から選択したコード値。	HealthC areFacil ityCode	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>A-healthcareFacilityTypeCode</b> (7.2.6) から選択したコード値の表示名。	HealthC areFacil ityCode	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。"codingScheme" に固定。			
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。 <b>A-healthcareFacilityTypeCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Classification
  id="c4"
  classificationScheme="urn:uuid:f33fb8ac-18af-42cc-ae0e-ed0b0bdb91e1"
  classifiedObject="theDocument" nodeRepresentation="施設タイプ" >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="施設タイプ表示名"/>
  </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>A-healthcareFacilityTypeCode</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>

```

図6-18 DocumentEntry - healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ) のメタデータ例

6. 2. 18 practiceSettingCode (実施診療科) (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、ドキュメント中で帰結した行為が実施された診療科等 (clinical specialty) を記載する (例えば、係りつけ医、検査ラボ、放射線科など)。

practiceSettingCode (実施診療科) のメタデータ定義は、表6-20の通りである。

表6-20 DocumentEntry - practiceSettingCode (実施診療科) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ ExtrinsicObject/			
Classification	分類識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で documentEntry.practiceSettingCode を指す UUID。 "urn:uuid:ccccf5598-8b07-4b77-a05e-ae952c785ead" に固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を指定。	UUID		1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>B-practiceSettingCode</b> (7.2.8) から選択したコード値。	practice Setting Code (基準 B)	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>B-practiceSettingCode</b> から選択したコード値の表示名。	practice Setting Code (基準 B)	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。"codingScheme" に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。 <b>B-practiceSettingCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Classification
  id="c5"
  classificationScheme="urn:uuid:ccccf5598-8b07-4b77-a05e-ae952c785ead"
  classifiedObject="theDocument" nodeRepresentation="診療科" >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="診療科表示名" />
  </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value> A-practiceSettingCode</rim:Value> </rim:ValueList>
    </rim:Slot>
  </rim:Classification>

```

図6-19 DocumentEntry - practiceSettingCode（実施診療科）のメタデータ例

## 6.2.19 languageCode（記述言語）（基準 A）

ドキュメントエントリに関して、使用する記述言語を記載する。

languageCode（記述言語）のメタデータ定義は、表6-21の通りである。

表6-21 DocumentEntry - languageCode（記述言語）のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				0..1
@name	スロットの名称。"languageCode"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	言語は、日本語 <b>ja-JP</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Slot name="languageCode">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value> ja-JP</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>

```

図6-20 DocumentEntry - languageCode（記述言語）のメタデータ例

## 6.2.20 formatCode（フォーマットコード）（基準 A）

ドキュメントエントリに関して、ドキュメント形式を記載する。

formatCode（フォーマットコード）のメタデータ定義は、表6-22の通りである。

表6-22 DocumentEntry - formatCode（フォーマットコード）のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Classification	分類識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で documentEntry.formatCode を指す UUID。 "urn:uuid:a09d5840-386c-46f2-b5ad-9c3699a4309d"固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	DocumentEntry (ExtrinsicObject) に割り当てられた UUID を指定。	UUID		1..1

@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>A-formatCode</b> (7.2.9)から選択したコード値。	format Code	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>A-formatCode</b> から選択したコード値の表示名。	format Code	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>codingScheme</b> "に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。 <b>A-formatCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:Classification
  id="C6"
  classificationScheme="urn:uuid:a09d5840-386c-46f2-b5ad-9c3699a4309d"
  classifiedObject="theDocument" nodeRepresentation="フォーマット" >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="フォーマット表示名"/>
  </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>A-formatCode</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>

```

図 6-2-1 DocumentEntry - formatCode (フォーマットコード) のメタデータ例

### 6. 2. 2 1 hash (ハッシュ値) (基準 A)

ドキュメントエン트리に関して、ドキュメントのハッシュ値を (レポジトリで) 計算しセットする。  
hash (ハッシュ値) のメタデータ定義は、表 6-2-3 の通りである。

表 6-2-3 DocumentEntry - hash (ハッシュ値) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>hash</b> "に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	ハッシュ値 ( <b>SHA1</b> 値) をセットする。	int	生成	1..1

```

<rim:Slot name="hash">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>da39a3ee5e6b4b0d3255bfef95601890afd80709</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>

```

図 6-2-2 DocumentEntry - hash (ハッシュ値) のメタデータ例

### 6. 2. 2 2 URI (基準 A)

ドキュメントエン트리に関して、ドキュメントの取り出しに使用する URI をセットする。画像ファイルなど外部参照の際は、ドキュメントソースで設定、それ以外は、レポジトリで設定する。

URI のメタデータ定義は、表 6-24 の通りである。

表 6-24 DocumentEntry - URI のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/ExtrinsicObject/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。"URI"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	URI 値をセットする。	URI	R	1..1

```
< rim:Slot name="URI">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>http://www.ihe.net</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図 6-23 DocumentEntry - URI のメタデータ例

### 6. 2. 23 parentDocumentId 及び parentDocument Relationship (基準 A)

ドキュメントエントリに関して、既存の登録オブジェクトの UUID を指定する。CDA 文書（親）に添付する検査データ、画像データなどは、オブジェクトの関連（Association のタイプ "APND"）で親子関係を指定する。

parentDocumentId 及び parentDocument Relationship のメタデータ定義は、表 6-25 の通りである。

表 6-25 DocumentEntry-parentDocumentId 及び parentDocument Relationship のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/			
ObjectRef	登録オブジェクトの参照			0..*
@id	オブジェクトの識別子	UUID	R	
Association				0..*
@associationType	オブジェクトの関連を指定。 4つの値 (APND,RPLC,XFRM,signs) の内の1つ	UUID	R	1..1
@sourceObject	ソース側：登録するドキュメントエントリ	UUID	R	1..1
@targetObject	ターゲット側：親の既登録オブジェクト	UUID	R	1..1

```
<rim:ObjectRef id="urn:uuid:a6e06ca8-0c75-4064-9e5c-88b9045a96f6" />
<rim:Association
  associationType="APND の UUID"
  sourceObject="theDocument"
  targetObject="urn:uuid:a6e06ca8-0c75-4064-9e5c-88b9045a96f6" />
```

図 6-24 DocumentEntry - parentDocumentId 及び parentDocument Relationship のメタデータ例

### 6. 3 サブミッションセット (SubmissionSet)

#### 6. 3. 1 id、availabilityStatus、title (基準 A)

サブミッションセットを、ebRIM3.0 のレジストリパッケージ (RegistryPackage) として登録する。レジストリパッケージの状態（ライフサイクル）が、管理される。（XDS アダプタが値をセットする）

id, availabilityStatus, title のメタデータ定義は、表 6-26 の通りである。

表 6-26 SubmissionSet - id, availabilityStatus, title のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/			
RegistryPackage	パッケージ(ebXML)			
@id	サブミッションセットの識別子 ( <b>id</b> ) を指定。 (内部で UUID に変換される)。	char (UUID)	R	1..1
@status	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>availabilityStatus</b> を指定。</li> <li>• サブミッション処理後に、承認 (Approved) 状態にセットされる。 (ドキュメントソースからのサブミッション時には、指定不要)。</li> <li>• ドキュメントのオーナーは、廃止 (Deprecated) にできる。</li> </ul>	UUID	R	1..1
/RegistryPackage/Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	ドキュメントのタイトル ( <b>title</b> ) を記載。	char	O	1..1

```

<RegistryObjectList>
  <rim:RegistryPackage
    id="submissionSet"
    status="Approved の UUID" >
    <rim:Name>
      <rim:LocalizedString value="title"/>
    </rim:Name>
    ...
  </rim:RegistryPackage>

```

図 6-25 SubmissionSet - id, availabilityStatus, title のメタデータ例

### 6.3.2 uniqueId (サブミッションセット ID) (基準 A)

サブミッションセットに関して、レジストリ内で一意に識別する ID (ドキュメントソース側で) 指定する。

uniqueId (サブミッションセット ID) のメタデータ定義は、表 6-27 の通りである。

表 6-27 SubmissionSet - uniqueId (サブミッションセット ID) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
ExternalIdentifier	外部識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@identificationScheme	外部識別子 uniqueId を指す UUID を指定。 "urn:uuid:96fdda7c-d067-4183-912e-bf5ee74998a8" に固定。	UUID	固定	1..1
@value	提出セットを識別する OID。	OID	R	1..1
@registryObject	SubmissionSet(RegistryPackage)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
/ExternalIdentifier/Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	"提出セット ID (XDSSubmissionSet.uniqueId)"に固定	char	固定	1..1

```

<rim:ExternalIdentifier
  id="e3"
  identificationScheme= "urn:uuid:96fdda7c-d067-4183-912e-bf5ee74998a8"
  value="1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7.3670984664"
  registryObject="submissionSet">
  <rim:Name>
    rim:LocalizedString value = "提出セット ID(XDSSubmissionSet.uniqueld)"/>
  </rim:Name>
</rim:ExternalIdentifier>

```

図 6 - 2 6 SubmissionSet - uniqueld (サブミッションセット ID) のメタデータ例

## 6. 3. 3 patientID (地域患者 ID) (基準 A)

サブミッションセットに関して、地域患者 ID を指定する。

patientID (地域患者 ID) のメタデータ定義は、表 6 - 2 8 の通りである。

表 6 - 2 8 SubmissionSet - patientID (地域患者 ID) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
bbb	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
ExternalIdentifier	外部識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@identificationScheme	外部識別子 uniqueld を指す UUID。 "urn:uuid:6b5aea1a-874d-4603-a4bc-96a0a7b38446"に 固定。	UUID	固定	1..1
@value	PIX で発行された地域患者 ID を指定。 ・ 識別子発行機関 ID (PIX センタを指す OID) ・ 地域患者 ID (PIX で管理発行)	CX	R	1..1
@registryObject	SubmissionSet(RegistryPackage)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
/ExternalIdentifier /Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	"地域患者 ID (XDSSubmissionSet.patientID)"に固定。	char	固定	1..1

```

<rim:ExternalIdentifier
  id="e4"
  identificationScheme= "urn:uuid:6b5aea1a-874d-4603-a4bc-96a0a7b38446"
  value="6578946^^^&1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7&ISO"
  registryObject="submissionSet">
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value = "地域患者 ID (XDSSubmissionSet.patientID)"/>
  </rim:Name>
</rim:ExternalIdentifier>

```

図 6 - 2 7 SubmissionSet - patientID (地域患者 ID) のメタデータ例

## 6. 3. 4 sourceID (施設 ID) (基準 A)

サブミッションセットに関して、施設 ID を指定する。

sourceID (施設 ID) のメタデータ定義は、表 6 - 2 9 の通りである。

表 6 - 2 9 SubmissionSet - sourceID (施設 ID) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
ExternalIdentifier	外部識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@identificationScheme	外部識別子 uniqueId を指す UUID。 "urn:uuid:554ac39e-e3fe-47fe-b233-965d2a147832"に 固定。	UUID	固定	1..1
@value	サブミッションした施設の施設 ID を指定。 ・ 識別子発行機関 ID (各施設を指す OID)	OID	R	1..1
@registryObject	SubmissionSet(RegistryPackage)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
/ExternalIdentifier /Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	"施設 ID (XDSSubmissionSet.sourceID)"に固定	char	固定	1..1

```
<rim:ExternalIdentifier
  id="e5"
  identificationScheme= "urn:uuid:554ac39e-e3fe-47fe-b233-965d2a147832"
  value="1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7"
  registryObject="submissionSet">
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value = "施設 ID (XDSSubmissionSet.sourceID)"/>
  </rim:Name>
</rim:ExternalIdentifier>
```

図 6 - 2 8 SubmissionSet - sourceID (施設 ID) のメタデータ例

6. 3. 5 authorInstitution (作成者施設名称) (基準 A)

サブミッションセットに関して、作成者の所属する施設の名称を記載する。

authorInstitution (作成者施設名称) のメタデータ定義は、表 6 - 3 0 の通りである。

表 6 - 3 0 SubmissionSet - authorInstitution (作成者施設名称) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。"authorInstitution"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	作者の所属する施設の名称を指定。	XON	R	1..1

```
<rim:Slot name="authorInstitution">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>急性期 T 病院</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図 6 - 2 9 SubmissionSet - authorInstitution (作成者施設名称) のメタデータ例

6. 3. 6 submissionTime (提出日時) (基準 A)

サブミッションセットに関して、サブミッションした日時 (ドキュメントソース側で指定) を記載

する。

submissionTime (提出日時) のメタデータ定義は、表6-31の通りである。

表6-31 SubmissionSet - submissionTime (提出日時) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。"submissionTime"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	サブミッションした時刻をセットする。	DTM	R	1..1

```
<rim:Slot name="submissionTime">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>20041225212010</rim:Value>
  </rim:ValueList>
```

図6-30 SubmissionSet - submissionTime (提出日時) のメタデータ例

### 6.3.7 author (作成者) (基準 A)

サブミッションセットに関して、作成者に関する情報を記載する。以下の情報が含まれる。

#### (1) authorPerson (作成者)

サブミッションセットに関して、サブミッションするドキュメントの作成者を記載する。

#### (2) authorInstitution (作成者施設名称)

サブミッションセットに関して、作成者の所属する施設の名称を記載する。

#### (3) authorRole (作成者職種)

サブミッションセットに関して、ドキュメントの作成者の役割を記載する。

#### (4) authorSpecialty (作成者診療科)

サブミッションセットに関して、施設内の診療科を記載する。

author (作成者) のメタデータ定義は、表6-32の通りである。

表6-32 SubmissionSet - author (作成者) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Classification				0..*
@ classificationScheme	分類識別子で document.Author を指す UUID。 "urn:uuid:93606bcf-9494-43ec-9b4ea7748d1a838d"に 固定。	UUID	固定	
@ classifiedObject	SubmissionSet (RegistryPackage)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
@ nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。空白に固定。	char	固定	1..1
bb				1..1
@name	スロットの名称。"authorPerson"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	作成者を記載。	XCN	R	1..1
Classification/Slot				0..*
@name	スロットの名称。"authorInstitution"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	作者の所属する施設の名称を記載。	XON	O	1..1

Classification/Slot				0..*
@name	スロットの名称。"authorRole"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	患者に対する作成者の役割を表現するコード。 別途定める語彙 <b>A-roleCode</b> (7.2.12)から選択したコード値。	RoleCode	O	1..*
Classification/Slot				0..*
@name	スロットの名称。"authorSpecialty"に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	サブミッションしたドキュメントの作成者の所属する施設内の診療科を記載（診療科コード）。 別途定める語彙 <b>B-practiceSettingCode</b> (7.2.8)から選択したコード値。	practiceSettingCodes (基準 B)	O	1..*

```

<rim:Classification
  classificationScheme="urn:uuid:93606bcf-9494-43ec-9b4ea7748d1a838d"
  classifiedObject="submissionSet"
  nodeRepresentation="">
  <rim:Slot name="authorPerson">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>^東海^太郎^^^Dr^MD</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
  <rim:Slot name="authorInstitution">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>急性期 T 病院</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
  <rim:Slot name="authorRole">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>担当医</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
  <rim:Slot name="authorSpecialty">
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>脳神経外科</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>

```

図 6-3-1 SubmissionSet - author（作成者）のメタデータ例

### 6.3.8 comment（備考）（基準 A）

サブミッションセットに関して、コメントを記載する。

comment（備考）のメタデータ定義は、表 6-3-3 の通りである。

表 6-3-3 SubmissionSet - comment（備考）のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
/Description/	サブミッションセットに関するコメントを記載。			0..1
LocalizedString	日本語で表記。			1..1
@value	地域連携パスでの使用目的などを別途定める。 自由形式のテキスト。	char	O	1..1

```
<rim:Description>
  <rim:LocalizedString value = "コメント"/>
</rim:Description>
```

図6-32 SubmissionSet - comment (備考) のメタデータ例

6.3.9 contentTypeCode (内容タイプ) (基準 A)

サブミッションセットに関して、含まれる内容のタイプを指定する。

contentTypeCode (内容タイプ) のメタデータ定義は、表6-34の通りである。

表6-34 SubmissionSet - contentTypeCode (内容タイプ) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Classification	分類識別子として指定。			0..*
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で submissionSet.contentTypeCode を指す UUID。 "urn:uuid:aa543740-bdda-424e-8c96-df4873be8500"固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	分類されるオブジェクトを指す。			1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>A-classCode</b> (7.2.1)から選択したコード値。	classCode	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>A-classCode</b> から選択したコード値の表示名。	classCode	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>codingScheme</b> "に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。(codeDisplayNameList) <b>A-classCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```
<rim:Classification
  id="c7"
  classificationScheme= "urn:uuid:aa543740-bdda-424e-8c96-df4873be8500"
  classifiedObject="submissionSet" nodeRepresentation="内容タイプコード">
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="内容タイプコード表示名"/> </rim:Name>
  <rim:Slot name="codingScheme">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>A-classCode</rim:Value>
  </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>
```

図6-33 SubmissionSet - contentTypeCode (内容タイプ) のメタデータ例

6.4 フォルダ (Folder)

6.4.1 id、availabilityStatus、title (基準 A)

フォルダを、ebRIM3.0 のレジストリパッケージ (RegistryPackage) として登録する。レジストリ

パッケージの状態（ライフサイクル）が、管理される。

id, availabilityStatus, title のメタデータ定義は、表 6 - 3 5 の通りである。

表 6 - 3 5 Folder - id, availabilityStatus, title のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/			
RegistryPackage	パッケージ(ebXML)			
@id	フォルダの識別子 ( <b>id</b> ) を指定。 (内部で UUID に変換される)。	UUID	R	1..1
@status	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>availabilityStatus</b> を指定。</li> <li>• サブミッション処理後に、承認 (Approved) 状態にセットされる。 (ドキュメントソースからのサブミッション時には、指定不要)。</li> <li>• ドキュメントのオーナーは、廃止 (Deprecated) にできる。</li> </ul>	UUID	生成	1..1
/RegistryPackage/Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	フォルダのタイトル ( <b>title</b> ) を記載。	char	R	1..1

```

< RegistryObjectList >
  < rim:RegistryPackage
    id="Folder"
    status="Approved の UUID" >
    < rim:Name >
      < rim:LocalizedString value="title" />
    < /rim:Name >
    ...
  < /rim:RegistryPackage >
< /RegistryObjectList >
  
```

図 6 - 3 4 Folder - id, availabilityStatus, title のメタデータ例

#### 6. 4. 2 uniqueId (フォルダ識別番号) (基準 A)

フォルダに関して、レジストリ内で一意に識別する ID を (ドキュメントソース側で) 指定する。  
uniqueId (フォルダ識別番号) のメタデータ定義は、表 6 - 3 6 の通りである。

表 6 - 3 6 Folder - uniqueId (フォルダ識別番号) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
ExternalIdentifier	外部識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@identificationScheme	外部識別子 uniqueId を指す UUID を指定。 "urn:uuid:75df8f67-9973-4fbe-a900-df66cefec5a"に固定。	UUID	固定	1..1
@value	施設を識別する OID+施設内で発行する番号。	OID	R	1..1
@registryObject	Folder(RegistryPackage)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1

```
<rim:ExternalIdentifier
  id="e5"
  identificationScheme="urn:uuid:75df8f67-9973-4fbe-a900-df66cefec5a"
  value="1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7.3670984664"
  registryObject="Folder"/>
```

図6-35 Folder - uniqueId (フォルダ識別番号) のメタデータ例

6.4.3 patientID (地域患者 ID) (基準 A)

フォルダに関して、地域患者 ID を指定する。

patientID (地域患者 ID) のメタデータ定義は、表6-37の通りである。

表6-37 Folder - patientID (地域患者 ID) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
ExternalIdentifier	外部識別子として指定。			1..1
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@identificationScheme	外部識別子 uniqueId を指す UUID。 "urn:uuid:f64ffdf0-4b97-4e06-b79f-a52b38ec2f8a"に 固定。	UUID	固定	1..1
@value	PIX で発行された地域患者 ID を指定。 ・ 識別子発行機関 ID (PIX センタを指す OID) ・ 地域患者 ID (PIX で管理発行)	CX	R	1..1
@registryObject	Folder(RegistryPackage)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	R	1..1
/ExternalIdentifier /Name				0..1
LocalizedString	日本語での表記。			1..1
@value	"地域患者 ID (XDSFolder.patientID)"に固定。	char	固定	1..1

```
<rim:ExternalIdentifier
  id="e6"
  identificationScheme="urn:uuid:f64ffdf0-4b97-4e06-b79f-a52b38ec2f8a"
  value="6578946^^^&1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7&ISO"
  registryObject="Folder">
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value="地域患者 ID (XDSFolder.patientID)"/>
  </rim:Name>
</rim:ExternalIdentifier>
```

図6-36 Folder - patientID (地域患者 ID) のメタデータ例

6.4.4 comment (備考) (基準 A)

フォルダに関して、コメントを記載する。

comment (備考) のメタデータ定義は、表6-38の通りである。

表6-38 Folder - comment (備考) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			

/Description/	フォルダに関するコメントを記載。			0..1
LocalizedString	日本語で表記。			1..1
@value	地域連携パスでの使用目的などを別途定める。 自由形式のテキスト。	char	O	1..1

```
<rim:Description>
  <rim:LocalizedString value = "コメント"/>
</rim:Description>
```

図6-37 Folder - comment (備考) のメタデータ例

#### 6.4.5 codeList (コードリスト) (基準 A)

フォルダに関して、格納する XDS ドキュメントのタイプ (診療行為を表現) を指定する。  
codeList (コードリスト) のメタデータ定義は、表6-39の通りである。

表6-39 Folder - codeList (コードリスト) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Classification	分類識別子として指定。			1..*
@id	自身のオブジェクトを指す UUID を指定。	UUID	R	1..1
@classificationScheme	分類識別子で Folder.codeList を指す UUID。 "urn:uuid:1ba97051-7806-41a8-a48b-8fce7af683c5"に 固定。	UUID	固定	1..1
@classifiedObject	Folder(RegistryPackage)に割り当てられた UUID を指定。	UUID	固定	1..1
@nodeRepresentation	分類ノードの表現形式を指定。 別途定める語彙 <b>B-typeCode</b> (7.2.2)から選択したコード値 を指定。	TypeCode (基準 B)	R	1..1
/Classification /Name				1..1
LocalizedString	コード値を日本語で表記。			1..1
@value	分類識別子の名称を指定。 別途定める語彙 <b>B-typeCode</b> から選択したコード値の表示 名を指定。	TypeCode (基準 B)	R	1..1
/Classification/Slot				1..1
@name	スロットの名称。" <b>codingScheme</b> " に固定。	char	固定	
/Slot/ValueList				1..1
/Slot/ValueList/Value	コード体系の表示名を指定。(codeDisplayNameList) <b>B-typeCode</b> に固定。	char	固定	1..1

```
<rim:Classification
  id="c8"
  classificationScheme='urn:uuid:1ba97051-7806-41a8-a48b-8fce7af683c5'
  classifiedObject='Folder' nodeRepresentation='codeList' >
  <rim:Name>
    <rim:LocalizedString value='コード値の表示名' />
  </rim:Name>
  <rim:Slot name='codingScheme'>
    <rim:ValueList>
      <rim:Value>B-typeCode</rim:Value>
    </rim:ValueList>
  </rim:Slot>
</rim:Classification>
```

図6-38 Folder - codeList (コードリスト) のメタデータ例

## 6. 4. 6 lastUpdateTime (更新日付) (基準 A)

フォルダに関して、ドキュメントが登録され、フォルダに格納された時点のドキュメントレジストリでの時刻を記載する。この値は、ドキュメントレジストリがセットする。

lastUpdateTime (更新日付) のメタデータ定義は、表6-40の通りである。

表6-40 Folder - lastUpdateTime (更新日付) のメタデータ定義

要素名/属性名	内容	型/語彙	設定	多重
XPath	RegistryObjectList/RegistryPackage/			
Slot				1..1
@name	スロットの名称。"lastUpdateTime" に固定。	char	固定	
Slot/ValueList				1..1
Slot/ValueList/Value	最新の更新時刻を、レジストリがセットする。	DTM	生成	1..1

```
<rim:Slot name="lastUpdateTime">
  <rim:ValueList>
    <rim:Value>20041225212010</rim:Value>
  </rim:ValueList>
</rim:Slot>
```

図6-41 Folder - lastUpdateTime (更新日付) のメタデータ例

## 第7章 ボキャブラリ（語彙）定義

### 7.1 概要

本章では、XDS レジストリを利用した地域連携における情報共有に必要なボキャブラリの定義を行う。

本章で用いる適合性基準を表7-1に、コード定義表の項目を表7-2に示す。

表7-1 ボキャブラリ定義の適合性基準

節	コード名等	表示名	適合性	用途			管理 (*4)
				CDA	XDS	通知 (*3)	
7.2.1	A-classCode	文書クラス	(基準A)	○	○		共通
7.2.2	B-typeCode	文書タイプ	(基準B)	○	○		共通
7.2.3	B-eventCode	イベントコード	(基準B)		○		単独
7.2.4	B-codeList	コードリスト	(基準B)		○		単独
7.2.5	A-confidentialityCode	守秘コード	(基準A)	○	○		共通
7.2.6	A-healthCareFacilityType Code	施設タイプコード	(基準A)	○	○	○	共通
7.2.7	C-disorderType	施設分類疾患別(*1)	(基準C)			○	共通
7.2.8	B-practiceSettingCode	診療科コード	(基準B)	○	○	○	共通
7.2.9	A-formatCode	フォーマットコード	(基準A)	○	○		共通
7.2.10	A-mimeType	メディアタイプ	(基準A)	○	○		共通
7.2.11	A-genderCode	性別コード	(基準A)	○	○		共通
7.2.12	A-roleCode	職種コード	(基準A)	○	○		共通
7.2.13	A-prefixCode	敬称コード	(基準A)	○	○		共通
7.2.14	A-telecommunicationAddressUse	電話タイプ	(基準A)	○	○		共通
7.2.15	A-e-mailUse	e-mail タイプ	(基準A)	○	○	○	共通
7.2.16	C-roleCode	ロールコード(*2)	(基準C)			○	単独
7.2.17	C-AreaCode	エリア区分*1	(基準C)			○	個別
7.2.18	B-ExternalIdentifier	外部識別子	(基準B)		○		単独
7.2.19	B-ClassificationScheme	メタデータ分類スキーマ	(基準B)		○		単独
7.2.20	B-Query Name Query ID	クエリ分類スキーマ	(基準B)		○		単独
7.2.21	OID 割当て		(基準C)	○	○	○	共通
7.2.22	ID等の表記法		(基準A)	○	○	○	共通

注\*1) 施設を区分する属性のコード。診療ドキュメントの送付先などを選択するために使用。

注\*2) 利用者を区分する属性のコード。利用者のアクセス制御のために使用。

注\*3) アクセス制御および通知機能で使用。

注\*4) コード体系、コード値の保守・管理については、以下のとおりとする。

- ・共通：他の関連する規格と調和を図りながら保守・管理されるべきもの。
- ・単独：他の規格とは独立に、各連携ドメイン間で調整をはかり、保守・管理されるべきもの。
- ・個別：各連携ドメインで詳細を決定して、保守・管理されるべきもの。

表7-2 コード定義表の項目

項目	内容
番号	コード体系における各コードに振られた番号。
Code	一般に使用されている既存のコード値は、そのコード値を使用。 新規のコードは、以下の規則で付番する。 <コード種別><番号>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コード種別：英字（1～2文字）で識別する。</li> <li>・番号：階層に対応した数字（4～5文字）で識別する。</li> </ul>
表示名（英語）	対応する英語名がある場合は、英語の表示名を規定する。（特に、定めていないものは未定義とする）
表示名（説明）	日本語の表示名、必要に応じてその意味がわかるように説明をつける。
標榜科	医療法施行令第3条の2に広告することができる診療科名を示す。
出典	引用したコード値の出典を示す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・IHE：IHEのコネクタソンで使用されているコードであることを示す。</li> <li>・HL7：HL7に対応するコードであることを示す。</li> <li>・ebXML：ebXMLで規定された値であることを示す。</li> <li>・JAHIS：JAHISで制定されているコードであることを示す。</li> <li>・MML：MMLで制定されているコードであることを示す。</li> <li>・固有：他のコード系からの引用がないことを示す。</li> </ul>

## 7. 2 コード定義

### 7. 2. 1 A-classCode（文書クラス）（基準 A）

表7-3に文書クラスのコード定義を示す。

サブミッションセットの contentTypeCode（内容タイプ）は、この classCode（文書クラス）を用いる。

表7-3 A-classCode（文書クラス）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	C01000	Communication	連携通信ドキュメント	IHE
1.1	C01010	Notice	通知	固有
1.2	C01020	Acknowledgment	通知応答	固有
1.3	C01030	Document availability notice	ドキュメント提出通知	固有
1.4	C01040	Document retrieved notice	ドキュメント取込通知	固有
1.5	C01050	Cancellation notice	取消し（訂正）通知	固有
2.	C02000	Management	運営管理ドキュメント	IHE
2.1	C02010	Conference	議事録	IHE
2.2	C02020	Case conference	症例検討会議	IHE
2.3	C02030	Consult	診察（受診）記録	IHE
2.4	C02040	Confirmatory consultation	確認診察記録	IHE
2.5	C02050	Counseling	カウンセリング記録	IHE
2.6	C02060	Group counseling	集団カウンセリング記録	IHE
2.7	C02070	Education	研修記録	IHE
3.	C03000	History and Physical	病歴および身体所見	IHE
3.1	C03010	Admission history and physical	入院歴および身体所見	IHE
3.2	C03020	Comprehensive history and physical	包括的な病歴および身体所見	IHE
3.3	C03030	Targeted history and physical	目的別の病歴および身体所見 （救急用）	IHE
3.4	C03040	Vist history	受診歴	固有
3.5	C03050	Admission history	入退院歴	固有
4.	C04000	Evaluation and health certificate	評価、診断書	固有
4.1	C04010	Initial evaluation	初期評価	IHE
4.2	C04020	Admission evaluation	入院評価	IHE
4.3	C04030	Pre-operative evaluation and management	事前評価及び経過管理	IHE
4.4	C04040	Subsequent evaluation	地域連携パス（経過報告）	IHE
4.5	C04050	Medical certificate	診断書	固有
4.6	C04060	Physiological Function Testing	生理検査結果	固有

## 第7章 ボキャブラリ（語彙）定義

4.7	C04070	Imaging Test	画像検査	固有
4.8	C04080	Laboratory Test	検体検査	固有
4.9	C04090	Diagnostic Imaging Report	読影レポート	固有
5.	C05000	Summary	診療要約	IHE
5.1	C05010	Sumarization of episode	地域連携パス（退院・転院情報）	IHE
5.2	C05020	Transfer summarization	転院サマリ	IHE
5.3	C05030	Discharge summarization	退院時サマリ	IHE
5.4	C05040	Summary of death	死亡サマリ	IHE
5.5	C05050	Transfer of care referral	紹介状（診療情報提供書）	IHE
5.6	C05060	Brief summarization	地域連携パス（第一報）	固有
5.7	C05070	Radiology sumariztion	放射線治療サマリ	固有
6.	C06000	Direction	指導	IHE
6.1	C06010	Supervisory direction	指導、指示記録	IHE
6.2	C06020	Telephone encounter	電話相談記録	IHE
7.	C07000	Procedure	処置	IHE
7.1	C07010	Interventional procedure	侵襲的処置	IHE
7.2	C07020	Pathology procedure	病理処置、病理検査	IHE
7.3	C07030	Autopsy	病理解剖	IHE
7.4	C07040	Prescription	処方（箋）	固有
8.	C08000	Policy and Consent	ポリシーおよび同意書	固有
8.1	C08010	XDS Affinity domain policy	連携ドメイン運営ポリシー	固有
8.2	C08020	Consent for registration	登録の同意書	固有
8.3	C08030	Informed consent	診療の同意書	固有

### 7. 2. 2 B-typeCode（文書タイプ）（基準 B）

表7-4に文書タイプのコード定義を示す。

表7-4 B-typeCode（文書タイプ）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	T01000	(未定義)	救急医療	固有
2	T02000		急性期病院	固有
2.1	T02100		急性期病院.第一報	固有
2.2	T02200		急性期病院.紹介状	固有
2.3	T02300		急性期病院.退院・転院情報	固有
2.4	T02400		急性期病院.入退院歴	固有
3	T03000		リハビリテーション病院	固有
3.1	T03100		リハビリテーション病院.紹介状	固有
3.2	T03200		リハビリテーション病院.活動度評価	固有
3.3	T03300		リハビリテーション病院.経過報告	固有
3.4	T03400		リハビリテーション病院.退院・転院情報	固有
3.5	T03500		リハビリテーション病院.入退院歴	固有
4	T04000		診療所	固有
4.1	T04100		診療所.紹介状	固有
4.2	T04200		診療所.経過報告	固有
4.3	T04300		診療所.受診歴	固有
5	T05000		老人保健施設	固有

5.1	T05100		老人保健施設.紹介状	固有
5.2	T05200		老人保健施設.経過報告	固有
5.3	T05300		老人保健施設.受診歴	固有
6	T06000		特別養護老人ホーム	固有
6.1	T06100		特別養護老人ホーム.紹介状	固有
6.2	T06200		特別養護老人ホーム.経過報告	固有
6.3	T06300		特別養護老人ホーム.入所歴	固有
7	T07000		維持期医療機関	固有
7.1	T07100		維持期医療機関.紹介状	固有
7.2	T07200		維持期医療機関.経過報告	固有
7.3	T07300		維持期医療機関.受診歴	固有

注) 紹介状は、HL7J で制定された標準 CDA 紹介状を指す。

### 7. 2. 3 B-eventCode (イベントコード) (基準 B)

(1) 表 7-5 に、地域連携パス・ステータスのイベントコードのコード定義を示す。

表 7-5 地域連携パス・ステータスの B-eventCode (イベントコード) のコード定義

番号	Code	表示名 (英語)	表示名 (説明)	出典
1	CP0100	(未定義)	救急医療	固有
2	CP0200		急性期	固有
3	CP0300		回復期	固有
3.1	CP0310		回復期.A コース	固有
3.2	CP0320		回復期.B コース	固有
3.3	CP0330		回復期.C コース	固有
3.4	CP0340		回復期.D コース	固有
4	CP0400		維持期	固有
4.1	CP0410		維持期.1 カ月後	固有
4.2	CP0420		維持期.2 カ月後	固有
4.3	CP0430		維持期.3 カ月後	固有

(2) 表 7-6 に、受診、入退院歴種別のイベントコードのコード定義を示す。

表 7-6 受診、入退院歴種別の B-eventCode (イベントコード) のコード定義

番号	Code	表示名 (英語)	表示名 (説明)	出典
1	AA0010	(未定義)	入院	HL7
2	AA0020		転科・転棟	HL7
3	AA0030		退院	HL7
4	AA0040		受診 (外来)	HL7
5	AA0210		外出、外泊	HL7
6	AA0220		帰院	HL7

### 7. 2. 4 B-codeList (コードリスト) (基準 B)

表 7-7 に、地域連携パス・シリーズのコード定義を示す。

表 7-7 地域連携パス・シリーズの B-codeList (コードリスト) のコード定義

番号	Code	表示名 (英語)	表示名 (説明)	出典
0	SQ0000	(未定義)	共通	固有

## 第7章 ボキャブラリ（語彙）定義

1	SQ0100		脳卒中地域連携パス	固有
1.1	SQ0110		脳卒中地域連携パス.シリーズ1	固有
1.2	SQ0120		脳卒中地域連携パス.シリーズ2	固有
1.3	SQ0130		脳卒中地域連携パス.シリーズ3	固有
1.4	SQ0140		脳卒中地域連携パス.シリーズ4	固有
1.5	SQ0150		脳卒中地域連携パス.シリーズ5	固有
1.6	SQ0160		脳卒中地域連携パス.シリーズ6	固有
1.7	SQ0170		脳卒中地域連携パス.シリーズ7	固有
2	SQ0200		(他の地域連携パス用)	固有
99	SQ9900		個別目的	固有

### 7. 2. 5 A-confidentialityCode（守秘コード）（基準A）

表7-8に、守秘コードのコード定義を示す。

表7-8 A-confidentialityCode（守秘コード）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名	説明	出典
1	N	Normal	通常	連携ネットへのアクセス権をもつものすべてが参照可能	HL7
2	R	Restricted	取扱注意	患者の治療に関係する人のみが参照可能	HL7
3	S	Sensitive	機密	ドキュメントの所有者が許可したのもののみ限定	HL7
4	T	Taboo	禁忌	特に、守秘性の高い情報を含むことを示す	IHE

### 7. 2. 6 A-healthCareFacilityTypeCode（施設タイプコード）（基準A）

表7-9に、施設タイプコードのコード定義を示す。

表7-9 A-healthCareFacilityTypeCode（施設タイプコード）のコード定義

番号	Code（英語）	表示名	出典	備考
1	Home	在宅	IHE	
2	Assisted Living	介護施設	IHE	
3	Home Health Care	訪問介護	IHE	
4	Hospital Setting	かかりつけ医	IHE	(*1)
5	Acute care hospital	急性期病院	IHE	(*1)
6	Hospital Unit	外来診療部門	IHE	
7	Critical Care Unit	重症治療室	IHE	
8	Emergency Department	救急部門	IHE	
9	Observation Ward	病棟	IHE	
10	Rehabilitation hospital	リハビリテーション病院	IHE	(*1)
11	Nursing Home	療養施設	IHE	(*1)
12	Skilled Nursing Facility	専門療養施設	IHE	
13	Outpatient	通院	IHE	

注\*1) 施設の疾患別分類は、別表で定義する。

### 7. 2. 7 C-disorderType（施設分類疾患別）（基準C）

表7-10に、施設分類疾患別のコード定義を示す。

注) このコードは、施設を疾患別に分類するために使用する。(表7-10は、名古屋での実証実験で定義したコードの例である)。

表7-10 C-disorderType（施設分類疾患別）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	M1	(未定義)	脳卒中	固有
2	M2		癌	固有
3	M3		(以下、未定義)	固有

## 7. 2. 8 B-practiceSettingCode（診療科コード）（基準B）

表7-11に、診療科コードのコード定義を示す。レセプト電算処理システムの医科診療科コードを使用。

表7-11 B-practiceSettingCode（診療科コード）のコード定義

番号	Code	英語（IHE）	表示名	標榜科	出典
1	01	General Medicine	内科	○	MML
2	02	Psychiatry	精神科	○	MML
3	03		神経科	○	MML
4	04		神経内科	○	MML
5	05		呼吸器科	○	MML
6	06	Gastroenterology	消化器科	○	MML
7	07		胃腸科	○	MML
8	08		循環器科	○	MML
9	09		小児科	○	MML
10	10	General Surgery	外科	○	MML
11	11		整形外科	○	MML
12	12	Plastic Surgery	形成外科	○	MML
13	13		美容外科	○	MML
14	14	Neurosurgery	脳神経外科	○	MML
15	15		呼吸器外科	○	MML
16	16		心臓血管外科	○	MML
17	17		小児外科	○	MML
18	18		皮膚泌尿器科	○	MML
19	19		皮膚科	○	MML
20	20		泌尿器科	○	MML
21	21		性病科	○	MML
22	22		こう門科	○	MML
23	23	Gynecology	産婦人科	○	MML
24	24	Obstetrics	産科	○	MML
25	25		婦人科	○	MML
26	26	Ophthalmology	眼科	○	MML
27	27	Otorhinolaryngology	耳鼻いんこう科	○	MML
28	28		気管食道科		MML
29	29		理学診療科		MML
30	30	Radiology	放射線科	○	MML
31	31	Anesthesia	麻酔科	○	MML
32	32		人工透析科		MML
33	33		心療内科	○	MML
34	34		アレルギー	○	MML
35	35		リウマチ	○	MML
36	36		リハビリ	○	MML
37	A1		鍼灸		MML

## 第7章 ボキャブラリ（語彙）定義

### 7. 2. 9 A-formatCode（フォーマットコード）（基準 A）

表7-12に、フォーマットコードのコード定義を示す。

表7-12 A-formatCode（フォーマットコード）のコード定義

番号	Code（表示名）	表示名（説明）	出典
1	PDF/IHE 1.x	PDF 形式	IHE
2	CDA/IHE 1.0	CDAR1 形式	IHE
3	CDAR2/IHE 1.0	CDAR2 形式	IHE
4	HL7/Lab 2.5	HL7V2.5 検査メッセージ	IHE
5	HL7/Sub 2.5	HL7V2.5 処方メッセージ	固有
6	HL7/ADT 2.5	HL7V2.5 基本情報、受診、入退院歴メッセージ	固有

### 7. 2. 10 A-mimeType（メディアタイプ）（基準 A）

表7-13に、メディアタイプのコード定義を示す。

表7-13 A-mimeType（メディアタイプ）のコード定義

番号	Code（表示名）	表示名（説明）	出典
1	text/plain	通常のテキスト	HL7
2	text/x-hl7-ft	HL7 テキスト	HL7
3	text/html	HTML テキスト	HL7
4	application/pdf	PDF	HL7
5	text/xml	XML テキスト	HL7
6	text/rtf	RTF テキスト	HL7
7	audio/basic	オーディオデータ	HL7
8	audio/mpeg	MPEG オーディオプレイヤー 3	HL7
9	audio/k32adpcm	K32ADPCM オーディオ	HL7
10	image/png	PNG イメージ	HL7
11	image/gif	GIF イメージ	HL7
12	image/jpeg	JPEG イメージ	HL7
13	application/dicom	DICOM イメージ	HL7
14	Image/g3fax	G3Fax イメージ	HL7
15	Image/tiff	TIFF イメージ	HL7
16	video/mpeg	MPEG ビデオ	HL7
17	model/vrml	VRML モデル	HL7
18	text/x-cdar2+xml	CDA R2 XML テキスト	固有
19			

### 7. 2. 11 A-genderCode（性別コード）（基準 A）

表7-14に、性別コードのコード定義を示す。

表7-14 A-genderCode（性別コード）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	F	Female	女性	IHE/HL7
2	M	Male	男性	IHE/HL7
3	O	Other	その他	IHE/HL7
4	U	Unknown	未知	IHE

### 7. 2. 12 A-roleCode（職種コード）（基準 A）

表7-15に、職種コードのコード定義を示す。

表7-15 A-roleCode（職種コード）のコード定義

番号	Code（英語名）	表示名（説明）	出典
1	Doctor	医師	JAHIS
2	Dentist	歯科医師	JAHIS
3	Nurse	看護師	JAHIS
4	assistantNurse	准看護師	JAHIS
5	Lab	臨床検査技師	JAHIS
6	Rad	診療放射線技師	JAHIS
7	Pharmacist	薬剤師	JAHIS
8	Pt	理学療法士	JAHIS
9	St	言語療法士	JAHIS
10	Ot	作業療法士	JAHIS
11	Psy	精神保健福祉士	JAHIS
12	Cps	臨床心理技術者	JAHIS
13	MSW	メディカルソーシャルワーカー	JAHIS
14	Nutritionist	栄養士	JAHIS
15	dentalHygienist	歯科衛生士	JAHIS
16	dentalTechnician	歯科技工士	JAHIS
17	clinicalEngineer	臨床工学技士	JAHIS
18	careManager	ケアマネジャー	JAHIS
19	Other	その他の医療従事者	JAHIS
20	Acupuncturist	鍼灸師	JAHIS
21	Patient	患者又はその代理人	JAHIS

## 7.2.13 A-prefixCode（敬称コード）（基準A）

表7-16に、敬称コードのコード定義を示す。

表7-16 A-prefixCode（敬称コード）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	MD	Medical Doctor	医学博士	HL7
2	DR	Doctor	博士（PhD）	HL7

## 7.2.14 A-telecommunicationAddressUse（電話タイプ）（基準A）

表7-17に、電話タイプのコード定義を示す。

表7-17 A-telecommunicationAddressUse（電話タイプ）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	H	home	自宅	HL7
2	HP	primary home	通常自宅	HL7
3	HV	vaction home	休暇先	HL7
4	WP	workplace	職場	HL7
5	DIR	Direct	直通	HL7
6	PUB	Public	代表	HL7
7	BAD	bad address	不通	HL7
8	TMP	temporary address	一時的所在地	HL7
9	AS	answering service	伝言サービス	HL7
10	EC	emergency contact	緊急連絡先	HL7
11	MC	mobile contact	携帯電話	HL7
12	PG	pager	ポケットベル	HL7
13	FAX		ファックス	固有

## 第7章 ボキャブラリ（語彙）定義

### 7. 2. 15 A-e-mailUse（e-mailタイプ）（基準A）

表7-18に、e-mailタイプのコード定義を示す。

表7-18 A-e-mailUse（e-mailタイプ）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	H	home	自宅	HL7
2	WP	workplace	職場	HL7
3	PUB	Public	代表	HL7

### 7. 2. 16 C-roleCode（ロールコード）（基準C）

表7-19に、ロールコードのコード定義を示す。

注) このコードは、利用者のアクセス制御に使用する（表7-19は、名古屋での実証実験で定義したコードの例である）。

表7-19 C-roleCode（ロールコード）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	R010	(未定義)	医師	固有
2	R020		看護師	固有
3	R030		コメディカル(Pt,St,Ot など)	固有
4	R040		事務員	固有
5	R050		施設管理者	固有
6	R060		センター管理者	固有
7	R070		その他	固有

### 7. 2. 17 C-AreaCode（エリア区分）（基準C）

表7-20に、エリア区分のコード定義を示す。

注) このコードは、施設の所在地を分類するために使用する（表7-20は、名古屋での実証実験で定義したコードの例である）。

表7-20 C-AreaCode（エリア区分）のコード定義

番号	Code	表示名（英語）	表示名（説明）	出典
1	A	(未定義)	尾張地方(名古屋)	固有
2	B		尾張地方(尾張)	固有
3	C		尾張地方(海部)	固有
4	D		尾張地方(知多)	固有
5	E		三河地方(西三河)	固有
6	F		三河地方(東三河)	固有

### 7. 2. 18 B-ExternalIdentifier（外部識別子）（基準B）

表7-21に、外部識別子のUUID定義を示す。

表7-21 ExternalIdentifier（外部識別子）のUUID定義

項目	UUID	出典
XDSSubmissionSet.sourceId	urn:uuid:554ac39e-e3fe-47fe-b233-965d2a147832	IHE
XDSSubmissionSet.uniqueId	urn:uuid:96fdda7c-d067-4183-912e-bf5ee74998a8	IHE
XDSSubmissionSet.patientId	urn:uuid:6b5aea1a-874d-4603-a4bc-96a0a7b38446	IHE
XDSFolder.patientId	urn:uuid:f64ffd0-4b97-4e06-b79f-a52b38ec2f8a	IHE
XDSFolder.uniqueId	urn:uuid:75df8f67-9973-4fbc-a900-df66cefec5a	IHE
XDSDocumentEntry.patientId	urn:uuid:58a6f841-87b3-4a3e-92fd-a8ffeff98427	IHE
XDSDocumentEntry.uniqueId	urn:uuid:2e82c1f6-a085-4c72-9da3-8640a32e42ab	IHE

## 7. 2. 19 B-ClassificationScheme（メタデータ分類スキーマ）（基準 B）

表7-22に、分類スキーマの UUID 定義を示す。

表7-22 ClassificationScheme（分類スキーマ）の UUID 定義

項目	UUID	出典
objectType	urn:uuid:7edca82f-054d-47f2-a032-9b2a5b5186c1	ebXML
XSDDocumentEntry.classCode	urn:uuid:41a5887f-8865-4c09-adf7-e362475b143a	IHE
XSDDocumentEntry.eventCodeList	urn:uuid:2c6b8cb7-8b2a-4051-b291-b1ae6a575ef4	IHE
XSDDocumentEntry.typeCode	urn:uuid:f0306f51-975f-434e-a61c-c59651d33983	IHE
XSDDocumentEntry.confidentialityCode	urn:uuid:f4f85eac-e6cb-4883-b524-f2705394840f	IHE
XSDDocumentEntry.healthcareFacilityTypeCode	urn:uuid:f33fb8ac-18af-42cc-ae0e-ed0b0bdb91e1	IHE
XSDDocumentEntry.formatCode	urn:uuid:a09d5840-386c-46f2-b5ad-9c3699a4309d	IHE
XSDDocumentEntry.practiceSettingCode	urn:uuid:ccc5f598-8b07-4b77-a05e-ae952c785ead	IHE
XDSSubmission.contentTypeCode	urn:uuid:aa543740-bdda-424e-8c96-df4873be8500	IHE
XDSFolder.codeList	urn:uuid:1ba97051-7806-41a8-a48b-8fce7af683c5	IHE
XDSAuthor	urn:uuid:93606bcf-9494-43ec-9b4e-a7748d1a838d	IHE

## 7. 2. 20 B-Query Name Query ID（クエリ分類スキーマ）（基準 B）

表7-23に、クエリの UUID 定義を示す。

表7-23 Query Name Query ID（分類スキーマ）の UUID 定義

クエリ名	クエリ ID	出典
FindDocuments	urn:uuid:14d4debf-8f97-4251-9a74-a90016b0af0d	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:FindDocuments	
FindSubmissionSets	urn:uuid:f26abbcb-ac74-4422-8a30-edb644bbc1a9	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:FindSubmissionSets	
FindFolders	urn:uuid:958f3006-baad-4929-a4def1114824431	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:FindFolders	
GetAll	urn:uuid:10b545ea-725c-446d-9b95-8aeb444eddf3	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetAll1	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetAll2	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetAll3	
GetDocuments	urn:uuid:5c4f972b-d56b-40ac-a5cc8ca9b40b9d4	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetDocumentA	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetDocumentB	
GetFolders	urn:uuid:5737b14c-8a1a-4539-b659-e03a34a5e1e4	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFoldersA	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFoldersB	
GetAssociations	urn:uuid:a7ae438b-4bc2-4642-93e9-be891f7bb155	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetAssociations	
GetDocumentsAndAssociations	urn:uuid:bab9529a-4a10-40b3-a01ff68a615d247a	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetDocumentsAndAssociations1A	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetDocumentsAndAssociations1B	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetDocumentsAndAssociations2A	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetDocumentsAndAssociations2B	
GetSubmissionSets	urn:uuid:51224314-5390-4169-9b91-b1980040715a	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetSubmissionSets	
GetSubmissionSetAndContents	urn:uuid:e8e3cb2c-e39c-46b9-99e4-c12f57260b83	IHE
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetSubmissionSetAndContents1A	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetSubmissionSetAndContents1B	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetSubmissionSetAndContents2	
	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetSubmissionSetAndContents3	
GetFolderAndContents	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetSubmissionSetAndContents4	IHE
	urn:uuid:b909a503-523d-4517-8acf-8e5834dfc4c7	

## 第7章 ボキャブラリ（語彙）定義

	urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFolderAndContents1A urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFolderAndContents1B urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFolderAndContents2 urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFolderAndContents3	
GetFoldersForDocument	urn:uuid:10cae35a-c7f9-4cf5-b61efc3278ffb578 urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFoldersForDocumentA urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetFoldersForDocumentB	IHE
GetRelatedDocuments	urn:uuid:d90e5407-b356-4d91-a89f-873917b4b0e6 urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetRelatedDocuments1A urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetRelatedDocuments1B urn:freebxml:registry:xds:stored-query:GetRelatedDocuments2	IHE

### 7. 2. 21 OID 割当て（基準C）

表7-24に、OIDの割当て定義を示す。

表7-24 OID 割当て定義

OID	識別 ID/コード体系	発行者	登録者
1.2.392.200119.6.1.xxx	CDA コード系用（脳卒中地域連携パス標準）	MEDIS	(*1)
1.2.392.200119.6.2.xxx	IHE プロファイル用（脳卒中地域連携パス標準）	MEDIS	(*1)
1.2.392.200119.6.3.xxx	脳卒中地域連携パス用	MEDIS	(*2)
1.2.392.200119.6.4.xxx	東海医療情報ネット（NPO）	MEDIS	(*2)
1.2.392.200119.6.5.xxx	参加医療機関（東海医療情報ネット用施設 ID）	MEDIS	(*2)
1.2.392.200119.6.6.xxx	予備	MEDIS	(*3)

注\*1) JAHIS

注\*2) 東海医療情報ネット（NPO）

注\*3) 予備の割当ては、別途、関係者で協議の上、手続きが必要。

### 7. 2. 22 ID 等の表記法（基準A）

表7-25に、ID等の表記法を示す。なお、施設IDの形式は、7.2.21のOID割当てに従うものとする（表7-25中の例は、名古屋での実証実験で定義したOIDの形式である）。

表7-25 ID等の表記法

ID	書式	出典
CDA 文書 ID (=ドキュメントエントリ ID)	<施設 ID>.1.<yyyymmdd>^<連番> 1.2.392.200119.6.5.xxx.1.20070702^1111 <id extension="1111" root="1.2.392.200119.6.5.xxx.1.20070702"/>	XDS CDA
ドキュメントエントリ ID	<施設 ID>.2.<yyyymmdd>^<連番> 1.2.392.200119.6.5.xxx.2.20070702^1111	XDS
サブミッションセット ID	<施設 ID>.3.<yyyymmdd>^<連番> 1.2.392.200119.6.5.xxx.3.20070702^1111	XDS
フォルダ ID	<施設 ID>.4.<yyyymmdd>^<連番> 1.2.392.200119.6.5.xxx.4.20070702^1111	XDS
施設 ID	1.2.392.200119.6.5.xxx	固有
地域患者 ID	<地域患者 ID>^^&<本プロジェクトの OID>&ISO^PT 6578946^^&1.2.392.200119.6.4&ISO^PT 6578946^^&1.2.392.200119.6.4&ISO <id extension="6578946" root="1.2.392.200119.6.4"/>	HL7V2.5 XDS CDA
施設患者 ID	<施設患者 ID>^^&<施設 ID の OID>&ISO ^PI a98789^^&1.2.392.200119.6.5.xxx&ISO^PI a98789^^&1.2.392.200119.6.5.xxx&ISO <id extension="a98789" root="1.2.392.200119.6.5.xxx"/>	HL7V2.5 XDS CDA

患者住所	<番地 (SAD) >^^<市町村区 (ST) >^<都道府県 (ST) >^<郵便番号 (ST) >^^<住所タイプ>	HL7V2.5
	虎ノ門 1-19-9^^港区^東京都^105-0001^^H	
	東京都港区虎ノ門 1-19-9^^^105-0001^^H	
	虎ノ門 1-19-9^^港区^東京都^105-0001^JP	XDS
	東京都港区虎ノ門 1-19-9^^^105-0001^JP	
	<addr> <streetName>虎ノ門 1-19-9</streetName> <city>港区</city> <state>東京都</state> <postalCode>105-0001</postalCode> </addr>	CDA
	<addr> <streetAddressLine>東京都港区虎ノ門 1-19-9</streetAddressLine> <postalCode>105-0001</postalCode> </addr>	
利用者住所	<Address city="〇〇市〇〇区" country="JP" postalCode="263-0044" stateOrProvince="〇〇県" street="〇〇町" streetNumber="111-1-1111" />	ebXML
	<addr> <streetName>〇〇町</streetName> <city>〇〇市〇〇区</city> <state>〇〇県</state> <postalCode>111-1-1111</postalCode> </addr>	CDA
氏名	<識別番号>^<姓>^<名>^^^<敬称>	HL7V2.5 XDS

注1) 患者 ID 形式仕様

<ID (ST)> ^ <check digit チェックディジット (ST)> ^ <code identifying the checkdigit scheme employed チェックディジット方式 (ID)> ^ < assigning authority 割当権限者 (HD) > ^ <identifier type code ID タイプコード (IS)> ^ < assigning facility 割当施設 (HD) > ^ <effective date 有効日付(DT)> ^ <expiration date 満了日付 (DT)>

注2) 氏名の形式仕様

<ID number 識別番号 ST > ^ <family name 姓 (ST)> ^ <given name 名 (ST)> ^ <middle initial or name (ST)> ^ <suffix (e.g., JR or III) (ST)> ^ <prefix (e.g., DR) (ST)> ^ <degree (e.g., MD) (ST)> ^ <name type code 名前タイプ (ID) > ^ <name representation code 名前表示(ID)>

## 附属書 A（規範）フォルダおよび登録コンテンツの構成

### A. 1 概要

本附属書では、地域連携用のフォルダおよび登録コンテンツの構成について定義する。フォルダは、地域患者IDごと複数のフォルダをもつことができ、それぞれの目的に合わせて使い分け、以下のように運用、管理される。

#### (1) 診療ドキュメント用フォルダ

- ・地域連携パスの1シリーズ用に、1つのフォルダを作成する。
- ・地域連携パス・シリーズが変わるタイミングで新規フォルダを作成する。
- ・地域連携パス以外の目的（救急用、診療情報提供（紹介状）用など）の別フォルダを作成する。

#### (2) 受診歴、入退院歴用フォルダ

- ・受診歴、入退院歴は、共通フォルダに格納する。

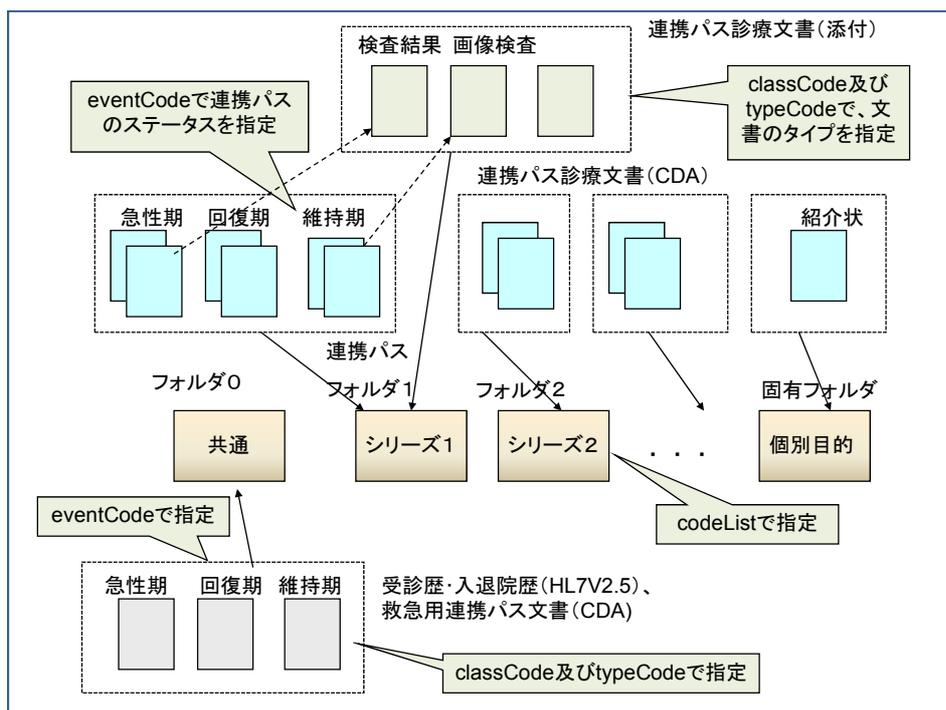
表 A-1 メタデータの運用に関する制約（基準B）

メタデータ	説明
ドキュメントエントリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドキュメントエントリは、登録するCDA文書のヘッダ部から必要な項目を抜き出して作成する。</li> <li>・CDA文書とメタデータの項目の対応については、A. 2およびA. 3に規定する。対応表の項目を、表A-2に示す。</li> </ul>
サブミッションセット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数のドキュメントを同時に登録する場合は、少なくとも1つのCDA文書が必要であり、他のドキュメントは、CDA文書の添付ファイルまたは別のドキュメントエントリとしてサブミッションセットを作成する。</li> <li>・含まれるドキュメントエントリの地域患者IDは、すべて同じでなければならない。</li> </ul>
フォルダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォルダは、地域患者IDごとに設ける。</li> <li>・最初にフォルダを必要とする施設の利用者が、地域患者IDで管理されるフォルダを開設する。</li> </ul>

表 A-2 CDA文書とメタデータの項目の対応表の項目

項目	内容
メタデータ名	メタデータの項目
型	データ型
Code/CDA	CDAの対応する項目（CDAスキーマ上のXPath）。使用する語彙コードがあれば明示。
IHE	IHEで規定されている値設定の制約。 R:必須 O:オプション C:システムで生成
制限	地域連携パスでのIHE制約に加えられた追加（変更）の制限。

図A-1は、フォルダの構成と登録ドキュメントの関係、利用形態を図示したものである。各登録ドキュメントは、classCode、typeCode、およびeventCodeで区別され、フォルダはcodeListで識別される。表A-3は、登録ドキュメントとボキャブラリの対応をまとめたものである。



図A-1 フォルダの構成図

表A-3 登録ドキュメントとボキャブラリの対応 (基準B)

文書	classCode	typeCode	eventCode	Folder/codeList
CDA	C05060 (第一報)	T02100 (急性期病院.第一報)	CP0200 (急性期)	SQ0110 SQ0120
CDA	C05010 (退院転院情報) C04040 (経過報告)	T01000 (救急医療) T02300 (急性期病院.退院転院) T03200 (リハ病.活動度評価) T04200 (診療所.経過報告) T05200 (老保.経過報告) T06200 (特養.経過報告) T07200 (維持.経過報告)	CP0100 (救急医療) CP0200 (急性期) CP0310 (回復期.A コース) CP0320 (回復期.B コース) CP0330 (回復期.C コース) CP0340 (回復期.D コース) CP0410 (維持期.1ヶ月後) CP0420 (維持期.2ヶ月後) CP0430 (維持期.3ヶ月後)	SQ0130 SQ0140 SQ0150 SQ0160 SQ0170
添付 (HL7V 2.5)	C04060 (生理検査結果) C04080 (検体検査)	T01000 (救急医療) T02000 (急性期病院) T03000 (リハ病院) T04000 (診療所) T05000 (老保) T06000 (特養) T07000 (維持)		
添付 (HL7V 2.5)	C07040 (処方)	T01000 (救急医療) T02000 (急性期病院) T03000 (リハ病院) T04000 (診療所) T05000 (老保) T06000 (特養) T07000 (維持)		

附属書 A (規範) フォルダおよび登録コンテンツの構成

添付 (DICO M 画像)	C04070 (画像検査)	T01000 (救急医療) T02000 (急性期病院) T03000 (リハ病院) T04000 (診療所) T05000 (老保) T06000 (特養) T07000 (維持)		
添付 (PDF)	C04090 (読影レポート) C08020 (登録の同意書) C08030 (診療の同意書)	T01000 (救急医療) T02000 (急性期病院) T03000 (リハ病院) T04000 (診療所) T05000 (老保) T06000 (特養) T07000 (維持)		
受診歴、 入退院 歴 V2.5	C03040 (受診歴) C03050 (入退院歴)	T02400 (急性期病院.入退 院歴) T03400 (リハ.入退院歴) T04300 (診療所.受診歴) T05300 (老保.受診歴) T06300 (特養.入所歴) T07300 (維持.受診歴)		SQ0000
救急用 CDA	C03030 (目的別病歴お よび身体所見)	原本 CDA 文書と同じ	原本 CDA 文書と同じ	
紹介状 CDA	C05050 (紹介状)	T02200 (急性期.紹介状) T03100 (リハ.紹介状) T04100 (診療所.紹介状) T05100 (老保.紹介状) T06100 (特養.紹介状) T07100 (維持.紹介状)		SQ9900

A. 2 CDA 文書

XDS のメタデータの値は、ボキャブラリのコード値と CDA のヘッダ部から値を転記する。各メタデータの値の対応は、以下のとおりである。

A. 2. 1 ドキュメントエントリ：CDA 文書 (基準 B)

表 A-4 に、ドキュメントエントリと CDA 文書のメタデータの対応を示す。

表 A-4 ドキュメントエントリと CDA 文書のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code / CDA	IHE	制限
1	availabilityStatus	UUID		C	
	entryUUID	UUID		C	
	mimeType		A-mimeCode	R	
	title		ClinicalDocument/title	O	
2	uniqueId (文書 ID)	OID	ClinicalDocument/id/@extension, @root (施設 ID)	R	
3	patientId (地域患者 ID)	CX	ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id	R	
4	sourcePatientId (施設患者 ID)	CX	ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id	R	
5	sourcePatientInfo (患者基本情報)	PID		R	
6	classCode (文書クラス)	code	ClinicalDocument/code A-classCode	R	

7	typeCode (文書タイプ)	code	ClinicalDocument/code B-typeCode	R		
8	eventCodeList (イベントコード)	code	B-eventCode	O	R	
9	confidentialityCode (守秘レベル)	code	ClinicalDocument/confidentialityCode A-confidentialityCode	R		
10	creationTime (作成日)	DTM		R		
11	serviceStartTime (診療開始日)	DTM	ClinicalDocument/DocumentationOf/ServiceEvent/effectiveTime/low (入院日/通院開始日)	O	R	
12	serviceStopTime (診療終了日)	DTM	ClinicalDocument/DocumentationOf/ServiceEvent/effectiveTime/high (退院日/転帰日)	O	R	
13	size (バイト長)	int		C		
14	author	authorInstitution (作成者施設名称)	XON	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/name	O	R
15		authorPerson (作成者)	XCN	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/assignedPerson/name	O	R
16		authorRole (作成者職種)	code	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/code A-roleCode	O	R
17		authorSpecialty (作成者診療科)	code	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/asOrganizationPartOf/code/ B-practiceSettingCode	O	R
18	comment (備考)			O		
19	legalAuthenticator (作成元責任者)	XCN	ClinicalDocument/legalAuthenticator/assignedEntity/assignedPerson/name	O		
20	healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ)	code	A-healthcareFacilityTypeCode	R		
21	practiceSettingCode (実施診療科)	code	ClinicalDocument/component/encompassingEncounter/location/healthCareFacility/code B-practiceSettingCode	R		
22	languageCode (記述言語)	code	ClinicalDocument/langauteCode 'ja-JP'に固定。	R		
23	formatCode (フォーマットコード)	code	A-formatCode	R		
24	hash (ハッシュ値)	int	SHA1 値	C		
25	URI	URI		C		
26	parentDocumentId (親ドキュメント)	UUID		O		
	parentDocument Relationship (親ドキュメント関係)	code	ClinicalDocument/relatedDocument/typeCode	O		

・実装上の制約

1 回の登録に対して、CDA が必ず 1 つだけ存在すること。URI だけの登録はおこなわない。  
creationTime は、CDA のヘッダの値 (author/time/@value) を用いる。

添付するドキュメントのドキュメントエントリの項目で、以下の項目は、CDA のデータから抽出する。

- ・confidentialityCode
- ・serviceStartTime
- ・serviceStopTime
- ・authorInstitution
- ・authorPerson

附属書 A (規範) フォルダおよび登録コンテンツの構成

- ・authorRole
- ・authorSpecialty
- ・practiceSettingCode

A. 2. 2 ドキュメントエントリ：検査/処方 (HL7V2 形式) (基準 B)

表 A-5 に、ドキュメントエントリと検査/処方 (HL7V2 形式) のメタデータの対応を示す。

表 A-5 ドキュメントエントリと検査/処方 (HL7V2 形式) のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code	IHE	制限	
1	availabilityStatus	UUID		C		
	entryUUID	UUID		C		
	contentType	code	A-mimeCode	R		
	title	char		O		
2	uniqueId (文書 ID)	OID		R		
3	patientId (地域患者 ID)	CX		R		
4	sourcePatientId (施設患者 ID)	CX		R		
5	sourcePatientInfo (患者基本情報)	PID		R		
6	classCode (文書クラス)	code	A-classCode	R		
7	typeCode (文書タイプ)	code	B-typeCode	R		
8	eventCodeList (イベントコード)	code	B-eventCode	O	R	
9	confidentialityCode (守秘レベル)	code	A-confidentialityCode	R		
10	creationTime (作成日)	DTM		R		
11	serviceStartTime (診療開始日)	DTM	(入院日/通院開始日)	O	R	
12	serviceStopTime (診療終了日)	DTM	(退院日/転帰日)	O	R	
13	size (バイト長)	int		C		
14	author	authorInstitution (作成者施設名称)	XON		O	R
15		authorPerson (作成者)	XCN		O	R
16		authorRole (作成者職種)	code	A-roleCode	O	R
17		authorSpecialty (作成者診療科)	code	B-practiceSettingCode	O	R
18	comment (備考)	char		O		
19	legalAuthenticator (作成元責任者)	XCN		O	-	
20	healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ)	code	A-healthcareFacilityTypeCode	R		
21	practiceSettingCode (実施診療科)	code	B-practiceSettingCode	R		
22	languageCode (記述言語)	code	'ja-JP'に固定	R		
23	formatCode (フォーマットコード)	code	A-formatCode	R		
24	hash (ハッシュ値)	int	SHA1 値	C		
25	*URI	URI		C		
26	parentDocumentId (親ドキュメント)	UUID	親の CDA 文書	O		
	parentDocument Relationship (親ドキュメント関係)	code		O		

A. 2. 3 ドキュメントエントリ：画像ファイル (DICOM 形式) (基準 B)

表 A-6 に、ドキュメントエントリと画像ファイル (DICOM 形式) のメタデータの対応を示す。

表 A-6 ドキュメントエントリと画像ファイル (DICOM 形式) のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code	IHE	制限
1	availabilityStatus	UUID		C	
	entryUUID	UUID		C	

	contentType	code	A-mimeType	R	
	title	char		O	
2	uniqueId (文書 ID)	OID		R	
3	patientId (地域患者 ID)	CX		R	
4	sourcePatientId (施設患者 ID)	CX		R	
5	sourcePatientInfo (患者基本情報)	PID		R	
6	classCode (文書クラス)	code	A-classCode	R	
7	typeCode (文書タイプ)	code	B-typeCode	R	
8	eventCodeList (イベントコード)	code	B-eventCode	O	
9	confidentialityCode (守秘レベル)	code	A-confidentialityCode	R	
10	creationTime (作成日)	DTM		R	
11	serviceStartTime (診療開始日)	DTM	(入院日/通院開始日)	O	R*
12	serviceStopTime (診療終了日)	DTM	(退院日/転帰日)	O	R*
13	size (バイト長)	int		C	
14	author	authorInstitution (作成者施設名称)	XON		O R*
15		authorPerson (作成者)	XCN		O R*
16		authorRole (作成者職種)	code	A-roleCode	O R*
17		authorSpecialty (作成者診療科)	code	B-practiceSettingCode	O R*
18	comment (備考)	char		O	
19	legalAuthenticator (作成元責任者)	XCN		O	
20	healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ)	code	A-healthcareFacilityTypeCode	R	
21	practiceSettingCode (実施診療科)	code	B-practiceSettingCode	R	
22	languageCode (記述言語)	code	'ja-JP'に固定	R	
23	formatCode (フォーマットコード)	code	A-formatCode	R	
24	hash (ハッシュ値)	int	SHA1 値	C	R
25	URI	URI		C	R
26	parentDocumentId (親ドキュメント)	UUID	親の CDA 文書	O	
	parentDocumentRelationship (親ドキュメント関係)	code		O	

R\* : 特に、指定がない場合は、CDA 文書 (親) のドキュメントエントリのメタデータと同じ値をセットする。

A. 2. 4 ドキュメントエントリ : (基準 B)

表 A-7 に、ドキュメントエントリとその他文書 (PDF 形式) のメタデータの対応を示す。

表 A-7 ドキュメントエントリとその他文書 (PDF 形式) のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code	IHE	制限
1	availabilityStatus	UUID		C	
	entryUUID	UUID		C	
	contentType	code	A-mimeType	R	
	title	char		O	
2	uniqueId (文書 ID)	OID		R	
3	patientId (地域患者 ID)	CX		R	
4	sourcePatientId (施設患者 ID)	CX		R	
5	sourcePatientInfo (患者基本情報)	PID		R	
6	classCode (文書クラス)	code	A-classCode	R	
7	typeCode (文書タイプ)	code	B-typeCode	R	
8	eventCodeList (イベントコード)	code	B-eventCode	O	R
9	confidentialityCode (守秘レベル)	code	A-confidentialityCode	R	
10	creationTime (作成日)	DTM		R	
11	serviceStartTime (診療開始日)	DTM	(入院日/通院開始日)	O	
12	serviceStopTime (診療終了日)	DTM	(退院日/転帰日)	O	

附属書 A (規範) フォルダおよび登録コンテンツの構成

13	size (バイト長)	int		C	
14	author	authorInstitution (作成者施設名称)	XON		O
15		authorPerson (作成者)	XCN		O
16		authorRole (作成者職種)	code	A-roleCode	O
17		authorSpecialty (作成者診療科)	code	B-practiceSettingCode	O
18	comment (備考)	char		O	
19	legalAuthenticator (作成元責任者)	XCN		O	
20	healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ)	code	A-healthcareFacilityTypeCode	R	
21	practiceSettingCode (実施診療科)	code	B-practiceSettingCode	R	
22	languageCode (記述言語)	code	'ja-JP'に固定	R	
23	formatCode (フォーマットコード)	code	A-formatCode	R	
24	hash (ハッシュ値)	SHA1 値		C	
25	URI	URI		C	
26	parentDocumentId (親ドキュメント)	UUID	親の CDA 文書	O	
	parentDocument Relationship (親ドキュメント関係)	code		O	

A. 2. 5 サブミッションセット (基準 B)

表 A-8 に、サブミッションセットと CDA 文書のメタデータの対応を示す。

表 A-8 サブミッションセットのメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code / CDA	IHE	制限	
1	availabilityStatus	UUID		C		
	entryUUID	UUID		C		
	title	char	ClinicalDocument/title	O		
2	uniqueId (サブミッションセット ID)	OID		R		
3	patientId (地域患者 ID)	CX	ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id	R		
4	sourceID (施設 ID)	OID		R		
5	submissionTime (提出日時)	DTM		R		
6	author	authorInstitution (作成者施設名称)	XON	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/name	O	R
7		authorPerson (作成者)	XCN	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/assignedPerson/name	O	R
8		authorRole (作成者職種)	code	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/code A-roleCode	O	R
9		authorSpecialty (作成者診療科)	code	ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/asOrganizationPartOf/code B-practiceSettingCode	O	R
10	comment (備考)	char		O		
11	contentTypeCode (内容タイプ)	code	ClinicalDocument/code	R		

A. 2. 6 フォルダ (基準 B)

表 A-9 に、フォルダと CDA 文書のメタデータの対応を示す。

表 A-9 フォルダと CDA 文書のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code / CDA	IHE	制限
1	availabilityStatus	UUID		C	

	entryUUID	UUID		C	
	title	char		O	
2	uniqueId (フォルダ ID)	OID		R	
3	patientId (地域患者 ID)	CX	ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id	R	
4	comment (備考)	char		O	
5	codeList (コードリスト)	code	B-codeList	R	
6	lastUpdateTime (更新日付)	DTM		C	

### A. 3 受診歴、入退院歴

#### A. 3. 1 ドキュメントエントリ (基準 B)

表 A-10 に、ドキュメントエントリと受診歴・入退院歴のメタデータの対応を示す。

表 A-10 ドキュメントエントリと受診歴・入退院歴のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code	IHE	制限	
1	availabilityStatus	UUID		C		
	entryUUID	UUID		C		
	mimeType	code	A-mimeType	R		
	title	char		O		
2	uniqueId (文書 ID)	OID		R		
3	patientId (地域患者 ID)	CX		R		
4	sourcePatientId (施設患者 ID)	CX		R		
5	sourcePatientInfo (患者基本情報)	PID		R		
6	classCode (文書クラス)	code	A-classCode	R		
7	typeCode (文書タイプ)	code	B-typeCode	R		
8	eventCodeList (イベントコード)	code	B-eventCode	O	R	
9	confidentialityCode (守秘レベル)	code	A-confidentialityCode	R		
10	creationTime (作成日)	DTM		R		
11	serviceStartTime (診療開始日)	DTM	(入院日/通院開始日)	O	R	
12	serviceStopTime (診療終了日)	DTM	(退院日/転帰日)	O	R	
13	size (バイト長)	int		C		
14	author	authorInstitution (作成者施設名称)	XON		O	
15		authorPerson (作成者)	XCN		O	
16		authorRole (作成者職種)	code	A-roleCode	O	R
17		authorSpecialty (作成者診療科)	code	B-practiceSettingCode	O	R
18	comment (備考)	char		O		
19	legalAuthenticator (作成元責任者)	XCN		O		
20	healthcareFacilityTypeCode (施設タイプ)	code	A-healthcareFacilityTypeCode	R		
21	practiceSettingCode (実施診療科)	code	B-practiceSettingCode	R		
22	languageCode (記述言語)	code	'ja-JP'に固定	R		
23	formatCode (フォーマットコード)	code	A-formatCode	R		
24	hash (ハッシュ値)	int	SHA1 値	C		
25	URI	URI		C		
26	parentDocumentId (親ドキュメント)	UUID		O		
	parentDocument Relationship (親ドキュメント関係)	code		O		

#### A. 3. 2 サブミッションセット (基準 B)

表 A-11 に、サブミッションセットと受診歴・入退院歴のメタデータの対応を示す。

表 A-11 サブミッションセットと受診歴・入退院歴のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code	IHE	制限	
1	availabilityStatus	UUID		C		
	entryUUID	UUID		C		
	title	char		O		
2	uniqueId (サブミッションセット ID)	OID		R		
3	patientId (地域患者 ID)	CX		R		
4	sourceId (施設 ID)	OID		R		
5	submissionTime (提出日時)	DTM		R		
6	author	authorInstitution (作成者施設名称)	XON	O	R	
7		authorPerson (作成者)	XCN	O	R	
8		authorRole (作成者職種)	code	A-roleCode	O	R
9		authorSpecialty (作成者診療科)	code	B-practiceSettingCode	O	R
10	comment (備考)	char		O	R	
11	contentTypeCode (内容タイプ)	code		R	固定	

### A. 3. 3 フォルダ (基準 B)

表 A-12 に、フォルダと受診歴・入退院歴のメタデータの対応を示す。

表 A-12 フォルダと受診歴・入退院歴のメタデータ対応

	メタデータ名	型	Code	IHE	制限
1	availabilityStatus	UUID		C	
	entryUUID	UUID		C	
	title	char		O	
2	uniqueId (フォルダ識別番号)	OID		R	
3	patientId (地域患者 ID)	CX		R	
4	comment (備考)	char		O	
5	codeList (コードリスト)	code	B-codeList	R	
	lastUpdateTime (更新日付)	DTM		C	

## 附属書 B (参考) 地域連携パス適用例

### B. 1 概要

地域連携パスでの情報共有の枠組みについて、概要を述べる。急性期病院、リハビリ病院、かかりつけ医等との連携が、地域ネット医療センタに設置するレジストリおよび各施設側のセキュアノードを介して行われる。

連携に必要な診療情報は、患者の同意を得てレジストリに登録される。それらの情報のありか(所在)情報をもとに、登録された診療情報にアクセスが可能となる。

患者の症状、治療経過に従って地域連携パスのコース(回復期.Aコースなど)が選択され、リハビリ情報などのフィードバック(治療結果報告)を情報共有し、患者ごとに適切な地域連携パスが決定され治療が行われる。

本附属書では、適用したユースケース等、実証システムをもとにした関連情報を記述する。

### B. 2 拡張機能

本文で規定した XDS プロファイルを適用した実証システムでは、地域連携パスのセキュアな運用を支援するため、以下の機能を追加、拡張を行った。

#### (1) 監査証跡機能(ATNA 及び CT)

連携システムにおいては、医療情報へのアクセスがセキュリティ要件を満たしていることの確認と、アクセスの正当性についての説明責任を果たす必要がある。そのための根拠を与える監査証跡機能が必要である。実証システムでは、JAHIS の「ヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約」に従った(IHE ATNA 及び CT プロファイルに準拠した)監査証跡ログ機能を提供している(ログデータの定義は、附属書 C を参照)。

#### (2) アクセス制御および通知機能

連携システムとしては、セキュリティに配慮しながら情報共有を達成する必要がある。そのため、施設間、担当者間、システム(ノード)間の相互のコミュニケーションを支援する通知機能を提供する。特定の患者の診療情報を担当の治療関係者(登録した利用者)のみが閲覧できるようにするため、その情報のアクセス権者(アクセス許可を受けた利用者)を管理し、アクセス制御する機能を提供する(附属書 D 参照)。

#### (3) ユーザ認証およびシングルサインオン機能

連携システムの各サービスを簡便でかつ安全に利用できるようにするため、ユーザの ID 管理とシングルサインオン機能を提供する。XDS および PIX/PDQ の各トランザクションに対して、ログイン時にユーザ認証およびセッションのチケットの発行を行った後、チケット付きの SOAP メッセージ(HTTP GET リクエスト)の交換によりシングルサインオンの機能を実現している(OpenSSO の機能を利用)。



登録する。このとき、地域患者 ID をもたない患者には、新規に地域患者 ID が発行される。

(2) 作成した CDA ドキュメント、電子署名、参照する画像ファイル、添付する検査データなどを、その患者専用のフォルダに登録するためのサブミッションセットを作成する (図 B-2 では、患者の転院先を探すための第 1 報)。

(3) 作成したサブミッションセットの送付先 (施設リスト、利用者リストから選択) を決定し、アクセス権者リストを作成する。それらを、作成したサブミッションセットとともに、XDS リポジトリに登録する。さらに、送付先に登録したことを通知する。

(4) 送付先の施設では、メッセージリスナが常に起動され、通知メッセージを受信する。ドキュメントの送付の通知を確認した後、そのドキュメントを XDS レジストリ、リポジトリから取得する。ドキュメント取得を確認後、受取りメッセージを送付元に送信する (図 B-2 では、受け入れ可否の返事)。

(5) 送付元の施設では、送付したドキュメントを相手を取り込んだことを確認するため、受取りの返信メッセージ (受取りメッセージ) の到着をまつ。(受取りメッセージを確認した後、決定した転院先以外からのアクセスができないようにする)。

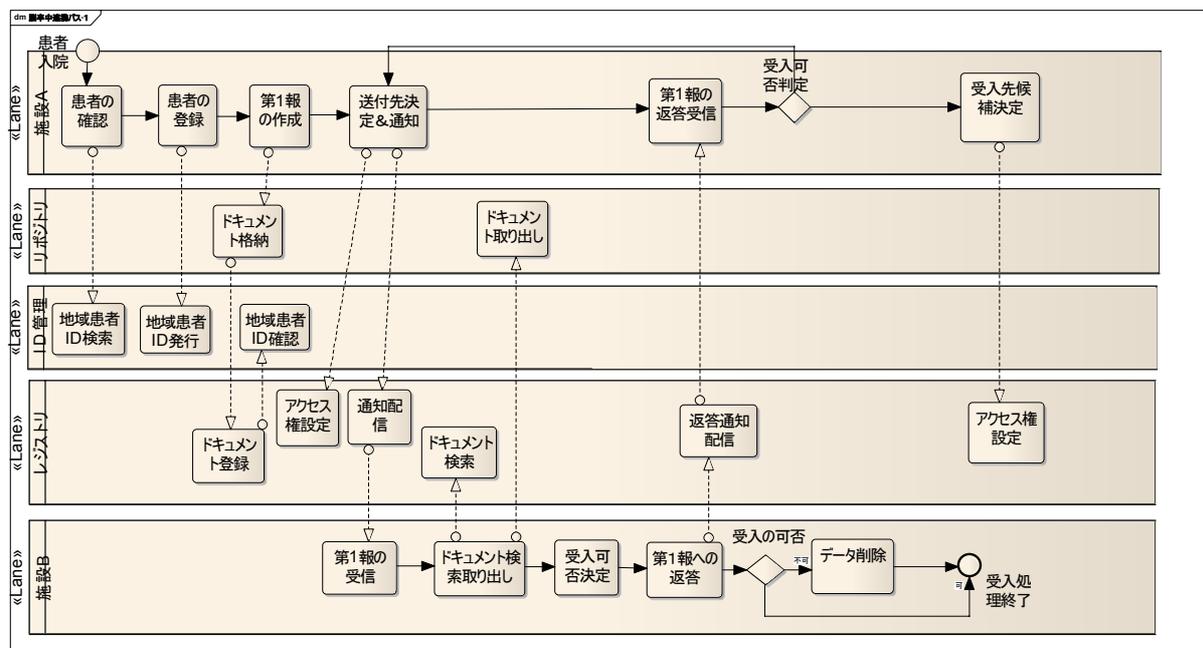


図 B-2 連携システムのプロセスモデル概略

## B. 5 システム構成

地域ネット医療センターシステム全体の機能は、各施設側とセンタ側に分かれる。それぞれの機能 (IHE アクタ) は、相互にトランザクションで連結される。図 B-3 は、それらの関係を図示したものである。

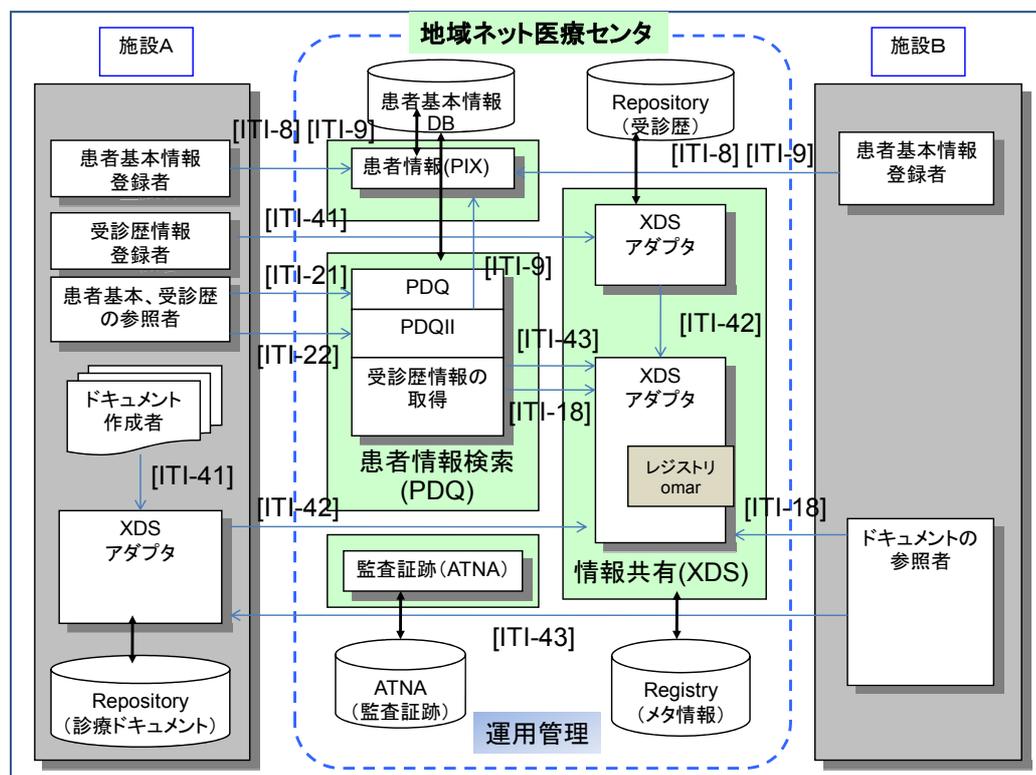


図 B-3 システム全体の機能構成とトランザクション

各 ITI-x は、以下の IHE ITI プロファイルのトランザクションに対応する。XDS マネージャ (アダプタ) は、斜線であらわし、関連するトランザクションは、以下の網掛けの部分該当する。

- ・[ITI-42] Register Document Set-b (ドキュメント登録)
- ・[ITI-41] Provide and Register Document Set-b (ドキュメント提出・登録)
- ・[ITI-43] Retrieve Document Set (ドキュメントの取り出し)
- ・[ITI-18] Registry Stored Query (ストアドクエリ)
- ・[ITI-9] PIX Query (地域患者 ID の問い合わせ)
- ・[ITI-8] Patient Identity Feed (地域患者 ID の登録)
- ・[ITI-21] Patient Demographics Query (患者基本情報の問合せ)
- ・[ITI-22] Patient Demographics and Visit Query (受診歴、入退院歴の問合せ)

## B. 6 登録ドキュメントとメタデータの関係

### B. 6. 1 登録ドキュメント

地域連携パスで取り扱う情報共有される登録ドキュメントは、以下のとおりである。

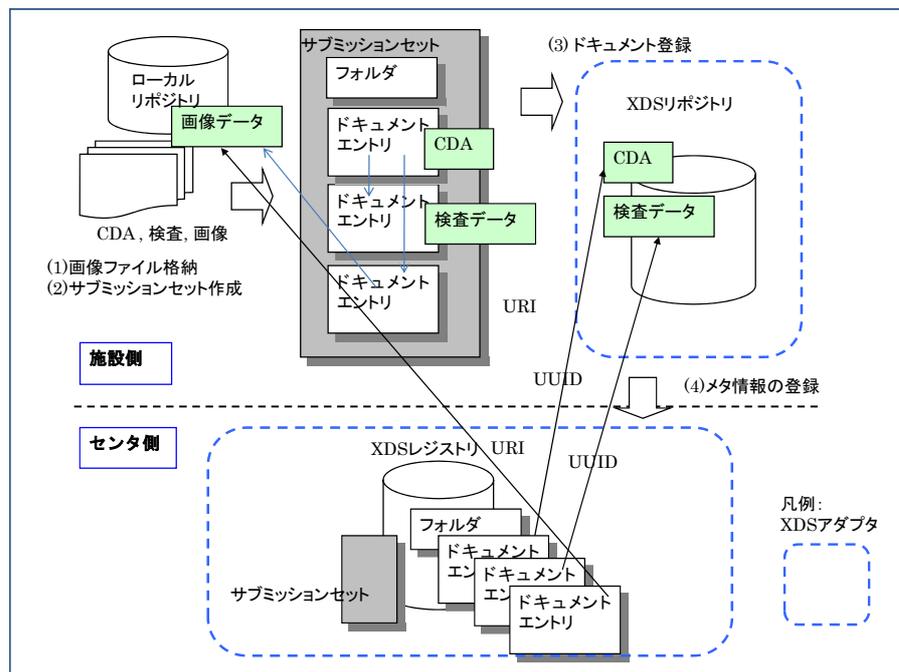
- ・患者基本情報 (HL7V2.5 形式テキスト)
- ・入退院歴情報 (HL7V2.5 形式テキスト)
- ・受診歴情報 (HL7V2.5 形式テキスト)
- ・診療ドキュメントは、以下のものの総称である。
  - ・脳卒中地域連携パス (CDA R2 形式の紹介状、治療結果報告)
  - ・(添付) 診療検査結果処方データ (HL7V2.5 形式テキスト)
  - ・(添付) 画像検査結果 (DICOM 形式)
  - ・(添付) その他 (PDF、WORD 形式等の文書)

### B. 6. 2 診療ドキュメント (CDA文書) の登録

診療ドキュメントは、CDA文書として、XDSレジストリに登録される。添付情報がある場合には、それらのリンク情報をつけて登録することができる。ここでは、つぎの2つの方式を提示する。

(方式1)

添付情報に対してドキュメントエントリの情報および関連のリンク情報をつけたサブミッションセットを介してXDS (リポジトリ) に登録格納する。



図B-4 登録ドキュメントとメタデータの関係 (方式1)

図B-4は、方式1の登録ドキュメントとメタデータの関係を図示したものである。施設側の処理とXDSアダプタ (施設とセンタ) の主な処理の流れは、以下のとおりである。

- ① 画像ファイル格納 (施設側の処理)

画像ファイルは、施設側のリポジトリにあらかじめ格納する。その所在情報を、URI としてサブミッションセットに埋め込み登録する。

② サブミッションセット作成 (施設側の処理)

CDA、検査結果などの連携ドキュメントは、サブミッションセットのアタッチメントとして登録する。ドキュメントエントリは、各ドキュメントに対して、それぞれ一対一に対応する。また、添付されるドキュメントと親のドキュメントの間は、メタデータ項目の中で関連を表現するリンクを張る。

③ ドキュメント提出・登録 (施設側に配置された XDS リポジトリ)

XDS リポジトリは、登録されたドキュメントを施設側のディレクトリに格納し、メタデータは、XDS レジストリに登録する。登録ドキュメントの所在情報は、メタデータの中では repositoryUniqueId (オプションとして URI) として保持される (附属書 E 参照)。

④ メタ情報の登録 (センタ側の XDS レジストリ)

(方式 2)

添付情報を施設内のローカルリポジトリに格納し、XDS に登録される CDA 文書中の外部リファレンスとして参照する (図 B-5)。

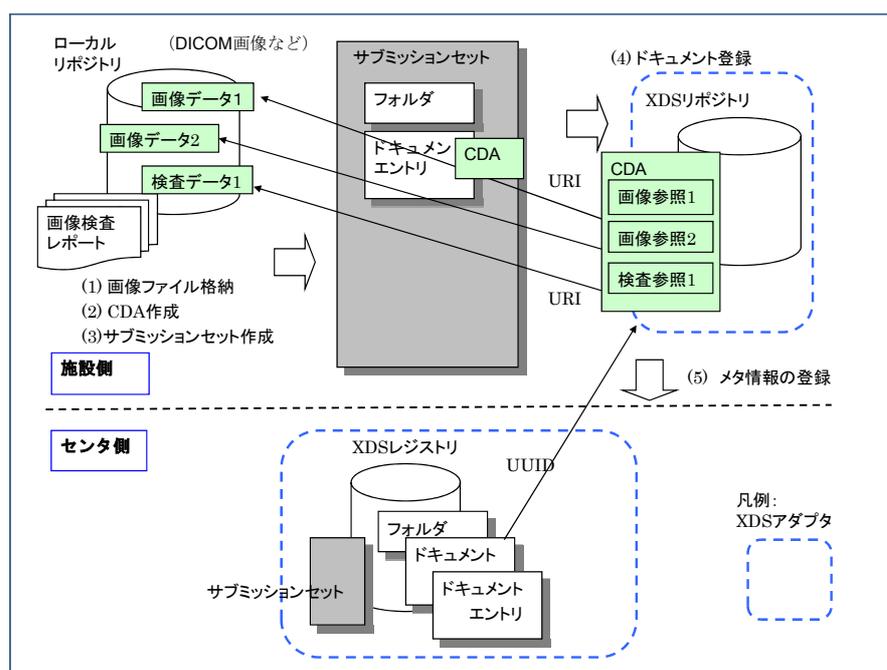


図 B-5 登録ドキュメントとメタデータの関係 (方式 2)

方式 2 (図 B-5) は、登録ドキュメントとメタデータの間を施設側の処理と、XDS アダプタ (施設とセンタ) の処理について概要を図示したものである。主な処理の流れは、以下のとおりである。

① 画像ファイル格納 (施設側の処理)

画像ファイルは、施設側のリポジトリにあらかじめ格納する。

② CDA 文書の作成

参照する画像ファイルの所在情報を、URI として CDA 文書中の外部参照として記述する。

③ サブミッションセット作成 (施設側の処理)

添付ファイルに対するドキュメントエントリは設けず、CDA文書だけのドキュメントエントリを作成する。

④ ドキュメント提出・登録 (施設側に配置された XDS リポジトリ)

⑤ メタ情報の登録 (センタ側の XDS レジストリ)

B. 6. 3 受診歴、入退院歴情報の登録

図 B-6 は、受診歴、入退院歴を登録する場合の登録ドキュメントとメタデータの関係である。これらは、センタ側に用意したリポジトリに格納される。その他の手順は、診療ドキュメントの場合と同様である。

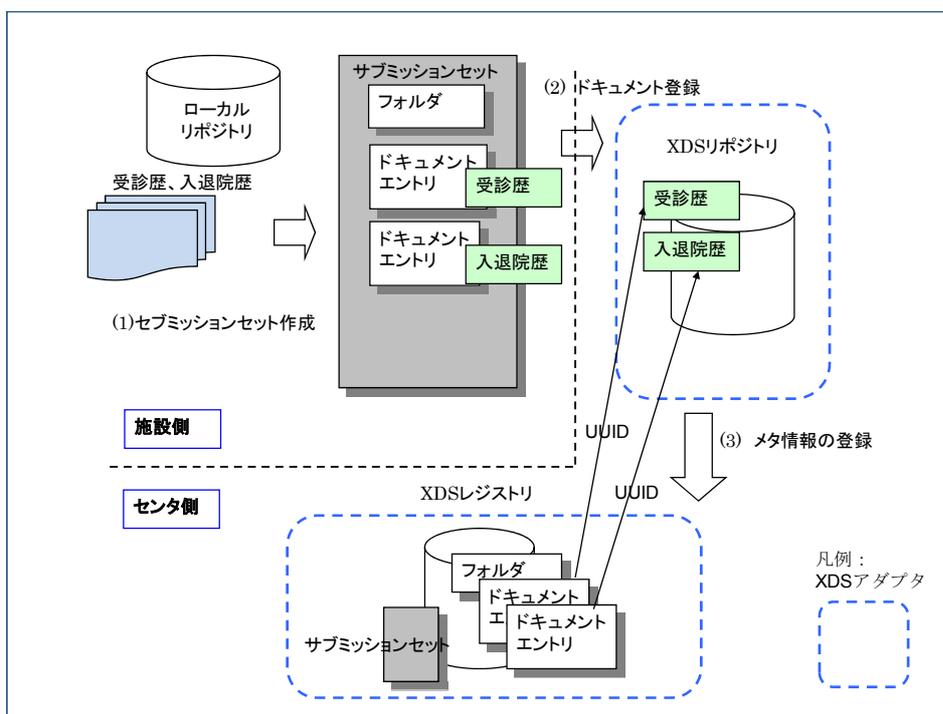


図 B-6 登録ドキュメント (受診歴及び入退院歴) とメタデータの関係

## 附属書 C (参考) セキュアノードおよび ATNA ログデータ定義

### C. 1 概要

連携システムにおいては、医療情報へのアクセスがセキュリティ要件を満たしていることの確認と、アクセスの正当性についての説明責任を果たす必要がある。そのための根拠を与える監査証跡機能を提供する。

実証システムでは、JAHIS の「ヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約」に従った (IHE ATNA プロファイルに準拠した) 監査証跡ログ機能を提供する。

### C. 2 セキュアノードにおけるセキュリティ要件

図 C-1 は、XDS を中心にした IHE アクタ間のメッセージ通信を表したものである。破線で囲った領域がセキュアノードで、以下のセキュリティ要件を考慮する。

- すべての IHE アクタをそれぞれセキュアノード (IHE アクタ) としてグループ化する。
- ATNA としては、中央集中化した連携ドメインの監査証跡レポジトリを設ける。
- 異なるセキュアノード間でのデータ転送は、セキュアな通信を適用する。
- 施設間のデータのオンライン転送には、両ホストを TLS 認証により暗号化する。
- オフライン転送には、送信側が S/MIME セキュアコード化とデジタル署名を使用して暗号化する。
- 単一のセキュアドメイン内の転送は、原則、暗号化は省略する。
- 監査メッセージ間の時刻整合性を検証するために、NTP (Network Time Protocol) サーバで時刻の同期を保証する。
- オンライン転送のセキュリティメカニズムを構成する証明書の管理と交換の方式は、連携ドメインの運用業務の一環として定義する。

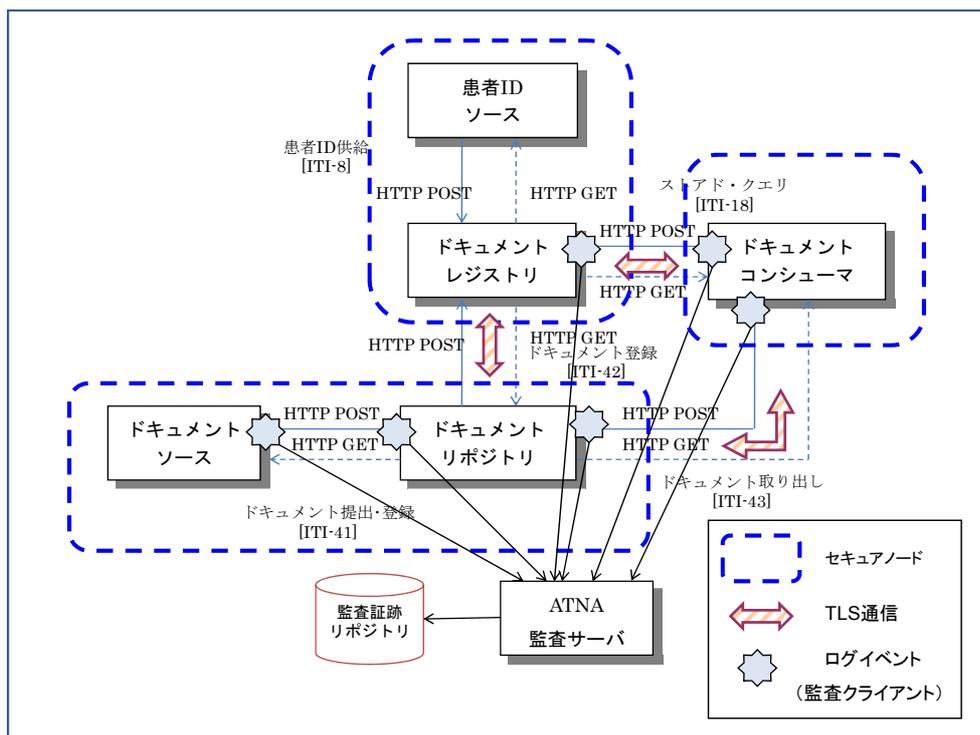


図 C-1 セキュアノードの構成と通信、および監査証跡ログイベント (XDS 関連部分)

監査クライアントから監査サーバに送られる syslog メッセージは、次のような項目からなる。

表 C-1 syslog メッセージ書式

項目	項目説明
FQDN	ホスト名
IP	IP アドレス
FACILITY	機能 (0 ~ 23)
SEVERITY	重要度 (0 ~ 7)
MSG	監査メッセージ

### C. 3 監査メッセージ書式

監査メッセージの書式は、RFC3881 に準拠し、適用する場面の詳細な形式を定義して使用する。監査メッセージには、「誰が」、「何を」、「どこから」、「どのサーバで」、「どのデータに対して」「どうしたか」が記述される。本実証システムで用いた項目を表 C-2 に、イベントを表 C-3 に示す。

表 C-2 監査メッセージ書式

	フィールド名	説明
Event Identification	Event ID (イベント ID)	監査対象イベントの識別子。
	Event Action Code (イベント・アクション・コード)	イベントで実行される、登録/検索等の行為の種類。 C:登録、R:検索/取得、U:更新、D:削除
	Event Date/Time (イベント日付/時間)	イベント日時

	Event Outcome Indicator (イベント結果インジケータ)	イベントの成功/失敗 0 成功 4 小さい失敗 アクションを再実行 (例: 最初の誤入力によるパスワード無効) 8 重大な失敗 アクションを中断 (例: 過度の誤入力によるパスワード無効) 12 主要な失敗 アクションによる実行不可 (例: ユーザによる過度の無効ログオンの 試みによるアカウント無効)
Active Participant Identification	User ID (ユーザ ID)	利用者 ID (認証システムによるユニークな ID)
Network Access Point Identification	Network Access Point Type Code (ネットワーク・アクセスポイント種類 コード)	ネットワーク・アクセスポイント ID が IP アドレスなので、コードを 2 とする。
	Network Access Point ID (ネットワーク・アクセスポイント ID)	IP アドレス
Audit Source Identification	Audit Enterprise Site ID (監査サイト ID)	各施設の識別子。明示されない場合、センタとする。
	Audit Source ID (監査ソース ID)	監査発生源 ID
Participant Object Identification	Participant Object ID Type Code (関係者オブジェクト ID 種別コード)	ParticipantObjectID の種別。2 : 患者番号 9 : レポート番号
	Participant ObjectID (関係者オブジェクト ID)	ParticipantObjectIDTypeCode の値にしたがって、患者 ID (地域患者 ID または施設患者 ID) またはドキュメントエントリの ID
	ParticipantObjectName	患者 ID (地域患者 ID または施設患者 ID)
	ParticipantObjectRhoTypeCode	タイプコード
	ParticipantObjectRhoClassCode	クラスコード
	Participant Object Query (関係者オブジェクト検索)	検索に用いられた入力内容 (検索の場合のみ使用)

表 C-3 イベント ID 一覧

イベント ID	発生源	機能	対象	アクション
PIX-REGISTER	センタ	PIX	基本情報	登録
PIX-UPDATE	センタ	PIX	基本情報	更新
PIX-DELETE1	センタ	PIX	基本情報	削除
PIX-DELETE2	センタ	PIX	基本情報	削除
PIX-QUERY	センタ	PIX	基本情報	検索
PDQ-QUERY	センタ	PDQ	基本情報	問合せ
PDQ2-QUERY	センタ	PDQ2	受診歴	問合せ
XDS-REGDOC	センタ	XDS	ドキュメント	登録
XDS-QUERY	センタ	XDS	ドキュメント	検索
XDS-RETDOC	センタ	XDS	ドキュメント	取得
GW-PIX-REGISER	施設	PIX	基本情報	登録
GW-PIX-QUERY	施設	PIX	基本情報	検索
GW-PDQ-QUERY	施設	PDQ	基本情報	検索
GW-PDQ-REGISTER	施設	PDQ	受診歴	登録
GW-PDQ-QUERY	施設	PDQ	受診歴	検索
GW-CDA-REGISTER	施設	XDS	CDA	登録
GW-CDA-QUERY	施設	XDS	CDA	検索
GW-CDA-RETRIEVE	施設	XDS	CDA	取得
GW-SHOWPATIENT	施設		患者情報	表示
GW-LOGIN	施設		利用者	ログイン
GW-LOGOUT	施設		利用者	ログアウト

監査メッセージをイベント ID ごとに、つぎの (1) ~ (7) に記述する。

(1) PIX 側での患者基本情報の登録・更新・削除 1・削除 2

表 C-4 PIX 側での患者基本情報の登録・更新・削除 1・削除 2の監査メッセージ書式

フィールド名	患者基本情報の登録	患者基本情報の更新	患者基本情報の削除 1 (*1)	患者基本情報の削除 2 (*1)
EventID	PIX-REGISTER	PIX-UPDATE	PIX-DELETE1	PIX-DELETE2
EventDateTime	日時	日時	日時	日時
EventActionCode	C	U	D	D
EventOutcomeIndicator	0/4/8/12	0/4/8/12	0/4/8/12	0/4/8/12
UserID	利用者 ID	利用者 ID	利用者 ID	利用者 ID
NetworkAccessPointTypeCode	2	2	2	2
NetworkAccessPointID	IP アドレス	IP アドレス	IP アドレス	IP アドレス
AuditSourceID	PIX	PIX	PIX	PIX
AuditEnterpriseSiteID	CENTER	CENTER	CENTER	CENTER
ParticipantObjectIDTypeCode	2	2	2	2
ParticipantObjectID	施設患者 ID	地域患者 ID	地域患者 ID	施設患者 ID

注\*1) 削除 1 は、地域患者 ID の削除、削除 2 は、施設患者 ID の削除を意味する。

(2) PIX、PDQ 側での ID 指定検索・基本情報検索・受診歴の検索

表 C-5 PIX、PDQ 側での ID 指定検索・基本情報検索・受診歴の検索の監査メッセージ書式

フィールド名	施設患者 ID 指定検索	患者基本情報の検索	受診歴の検索
EventID	PIX-QUERY	PDQ-QUERY	PDQ2-QUERY
EventDateTime	日時	日時	日時
EventActionCode	R	R	R
EventOutcomeIndicator	0/4/8/12	0/4/8/12	0/4/8/12
UserID	利用者 ID	利用者 ID	利用者 ID
NetworkAccessPointTypeCode	2	2	2
NetworkAccessPointID	IP アドレス	IP アドレス	IP アドレス
AuditSourceID	PIX	PDQ	PDQ2
AuditEnterpriseSiteID	CENTER	CENTER	CENTER
ParticipantObjectIDTypeCode	2	2	2
ParticipantObjectID	施設患者 ID	施設患者 ID	地域患者 ID
ParticipantObjectQuery	Query 内容	Query 内容	Query 内容

(3) XDS でのドキュメントの提出・登録、検索、取得

表 C-6 XDS でのドキュメントの提出、登録・検索・取得の監査メッセージ書式

フィールド名	ドキュメント提出・登録	ドキュメント検索	ドキュメント取得
EventID	XDS-REGDOC	XDS-QUERY	XDS-RETDOC
EventDateTime	日時	日時	日時
EventActionCode	C	R	R
EventOutcomeIndicator	0/4/8/12	0/4/8/12	0/4/8/12
UserID	利用者 ID	利用者 ID	利用者 ID
NetworkAccessPointTypeCode	2	2	2
NetworkAccessPointID	IP アドレス	IP アドレス	IP アドレス
AuditSourceID	XDS	XDS	XDS
AuditEnterpriseSiteID	CENTER/施設 ID	CENTER/施設 ID	CENTER/施設 ID
ParticipantObjectIDTypeCode	9	9	9
ParticipantObjectID	ドキュメントエン트리 ID	ドキュメントエン트리 ID	ドキュメントエン트리 ID
ParticipantObjectName	地域患者 ID	地域患者 ID	地域患者 ID
ParticipantObjectRhioTypeCode	タイプコード	タイプコード	タイプコード
ParticipantObjectRhioClassCode	クラスコード	クラスコード	クラスコード

ParticipantObjectQuery		Query 内容	
------------------------	--	----------	--

(4) 施設側での患者基本情報の登録・ID 指定検索・検索

表 C-7 施設側での患者基本情報の登録・ID 指定検索・検索の監査メッセージ書式

フィールド名	患者基本情報の登録	施設患者 ID 指定検索	患者基本情報の検索
EventID	GW-PIX-REGISER	GW-PIX-QUERY	GW-PDQ-QUERY
EventDateTime	日時	日時	日時
EventActionCode	C	R	R
EventOutcomeIndicator	0/4/8/12	0/4/8/12	0/4/8/12
UserID	利用者 ID	利用者 ID	利用者 ID
NetworkAccessPointTypeCode	2	2	2
NetworkAccessPointID	IP アドレス	IP アドレス	IP アドレス
AuditSourceID	GW	GW	GW
AuditEnterpriseSiteID	施設 ID	施設 ID	施設 ID
ParticipantObjectIDTypeCode	2	2	2
ParticipantObjectID	施設患者 ID	施設患者 ID	施設患者 ID
ParticipantObjectQuery		Query 内容	Query 内容

(5) 施設側での受診歴の登録・検索

表 C-8 施設側での受診歴の登録・検索の監査メッセージ書式

フィールド名	受診歴の登録	受診歴の検索
EventID	GW-PDQ-REGISTER	GW-PDQ-QUERY
EventDateTime	日時	日時
EventActionCode	C	R
EventOutcomeIndicator	0/4/8/12	0/4/8/12
UserID	利用者 ID	利用者 ID
NetworkAccessPointTypeCode	2	2
NetworkAccessPointID	IP アドレス	IP アドレス
AuditSourceID	GW	GW
AuditEnterpriseSiteID	施設 ID	施設 ID
ParticipantObjectIDTypeCode	2	
ParticipantObjectID	施設患者 ID	
ParticipantObjectQuery		Query 内容

(6) 施設側での CDA の登録・検索・取得・患者情報表示

表 C-9 施設側での CDA の登録・検索・取得・患者情報表示の監査メッセージ書式

フィールド名	CDA の登録	CDA の検索	CDA の取得	患者情報表示
EventID	GW-CDA-REGISTER	GW-CDA-QUERY	GW-CDA-RETRIEVE	GW-SHOWPATIENT
EventDateTime	日時	日時	日時	日時
EventActionCode	C	R	R	R
EventOutcomeIndicator	0/4/8/12	0/4/8/12	0/4/8/12	0/4/8/12
UserID	利用者 ID	利用者 ID	利用者 ID	利用者 ID
NetworkAccessPointTypeCode	2	2	2	2
NetworkAccessPointID	IP アドレス	IP アドレス	IP アドレス	IP アドレス
AuditSourceID	GW	GW	GW	GW
AuditEnterpriseSiteID	施設 ID	施設 ID	施設 ID	施設 ID
ParticipantObjectIDTypeCode	9	9	9	2
ParticipantObjectID	ドキュメントエントリ ID	ドキュメントエントリ ID	ドキュメントエントリ ID	施設患者 ID
ParticipantObjectQuery		Query 内容		

(7) 施設側でのログイン/ログアウト

表 C-10 施設側でのログイン/ログアウトの監査メッセージ書式

フィールド名	ログイン	ログアウト
EventID	GW-LOGIN	GW-LOGOUT
EventDateTime	日時	日時
EventActionCode	R	R
EventOutcomeIndicator	0/4/8/12	0/4/8/12
UserID	利用者 ID	利用者 ID
NetworkAccessPointTypeCode	2	2
NetworkAccessPointID	IP アドレス	IP アドレス
AuditSourceID	GW	GW
AuditEnterpriseSiteID	施設 ID	施設 ID
ParticipantObjectIDTypeCode		
ParticipantObjectID		
ParticipantObjectQuery		

EventID の値が確定しない場合、つぎの書式の値を記述するものとする：

<監査ソース ID> - UNKNOWN

ドキュメント提出・登録 XDS-REGDOC は、登録、ステータスの書き換えなど一連の動作を 1 イベントとしている。

検査 (XDS-QUERY) の場合、'Participant Object Identification'は、地域患者 ID が特定できなければ、記述しない。

C. 4 監査証跡リポジトリテーブル定義

表 C-11 に、監査証跡リポジトリテーブルの定義を示す。

表 C-11 監査証跡リポジトリテーブル

フィールド名	説明
eventID (イベント ID)	イベント ID
eventTime (イベント時刻)	イベント日付/時間
sourceID (ソース ID)	監査証跡発生源 ID
siteID (サイト ID)	監査証跡発生サイト ID
userID (ユーザ ID)	利用者 ID
patientID (患者 ID)	地域患者 ID または施設患者 ID
facility (機能)	発生源 (監査証跡クライアント) のアプリケーションを識別する番号 (0~23 で指定)。慣例は、以下のとおり。ATNA としては、authpriv(10)を使用する。

附属書 C (参考) セキュアノードおよび ATNA ログデータ定義

	kern (0) -- kernel messages user (1) -- user-level messages mail (2) -- mail system messages daemon (3) -- system daemons' messages auth (4) -- authorization messages syslog (5) -- messages generated internally by syslogd lpr (6) -- line printer subsystem messages news (7) -- network news subsystem messages uucp (8) -- UUCP subsystem messages cron (9) -- clock daemon messages authpriv (10) -- <b>security/authorization messages</b> ftp (11) -- ftp daemon messages ntp (12) -- NTP subsystem messages audit (13) -- audit messages console (14) -- console messages cron2 (15) -- clock daemon messages local0 (16) local1 (17) local2 (18) local3 (19) local4 (20) local5 (21) local6 (22) local7 (23)
severity (重要度)	重要度を 0～7 で設定。IHE プロファイルでは、(5)、または (4) を使用。 emerg (0) -- emergency; system is unusable alert (1) -- action must be taken immediately crit (2) -- critical condition err (3) -- error condition warning (4) -- warning condition notice (5) -- normal but significant condition info (6) -- informational message debug (7) -- debug-level messages
message (メッセージ)	監査メッセージ

## 附属書 D (参考) アクセス制御および通知機能

### D. 1 概要

連携システムとしては、セキュリティに配慮しながら、情報共有を達成する必要がある。そのため、施設間、担当者間、システム（ノード）間の相互のコミュニケーションを支援する機能を提供する。

また、情報のアクセス権者（アクセス許可を受けた利用者）を管理し、アクセス権者のみが、その情報を取得できるようにするアクセス制御機能を提供する。

本附属書では、適用事例で実現した XDS を利用した情報共有に必要な通知機能及びアクセス制御機能について述べる。

### D. 2 方式および機能

適用事例では、以下のセキュリティ・ポリシーを設けた。

診療ドキュメントの在り処情報（メタデータ）および入院歴・受診情報の参照（read）は、関係医療機関のすべての利用者に許可する。また、メタデータの登録/変更および診療ドキュメントの登録・変更・参照（read）に対しては、アクセス権限を特定の利用者/ロール/グループのみに限定する。特定の利用者とは、診療ドキュメントの作成者および送付先として指定された利用者等である。

セキュリティ・ポリシーを実現するために、以下の方式、機能を用意した。

#### (1) フォルダ

- ・各フォルダは、患者ごと、目的（地域連携パス・シリーズなど）ごとに設ける。
- ・フォルダ単位で、アクセス権を制御する。
- ・診療情報のメタ情報は、すべての登録利用者がアクセスできる。
- ・診療情報の本体（CDAなど）にアクセスできる登録利用者は、フォルダごとに管理する。
- ・フォルダは、最初に、そのフォルダを作成した登録利用者が管理者(owner)となる。

#### (2) アクセス権者リスト（加入者リスト）

- ・アクセス権者リストは、診療情報にアクセスする権限をもつ加入者（User、Group など）を保持する。
- ・各フォルダに、アクセス権者リストを関連づける。
- ・アクセス権者リストに、登録利用者を追加、削除することができる。
- ・加入者は、新規の登録利用者を追加する権限をもつ。
- ・管理者のみが、登録利用者を削除することができる。

#### (3) アクセス制御機能

- ・あらかじめ User（利用者）、Institution（施設）、Group などの利用者情報を ebXML レジストリに登録する（施設リスト、利用者リストなど）。
- ・アクセス権者リストを用いたアクセス制御ポリシー（ACP）を ebXML レジストリに設定する。

- ・アクセスの要求時に、フォルダに関連づけられたアクセス権者リストを動的に参照し、アクセス可否を判定する。
- ・アクセス制御の対象は、フォルダに所属するドキュメントエントリのURIとする。
- ・アクセス制御は、利用者のロールに基づき行う。

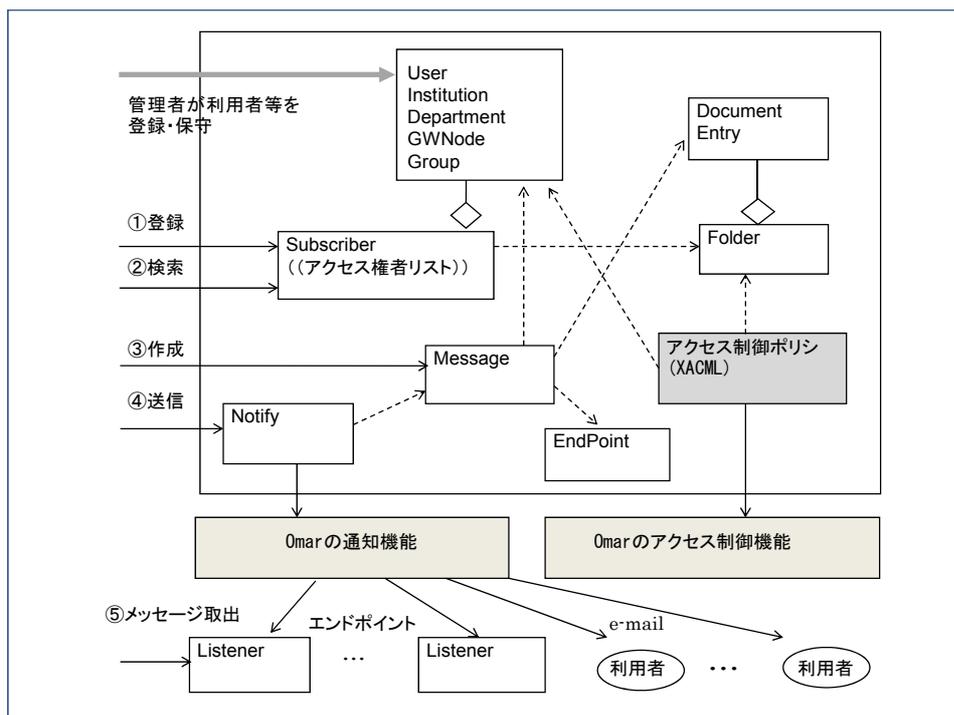
#### (4) 通知機能

- ・アクセス権者リストから必要に応じて通知者を選択(制限)して、情報共有、連携のための情報(メッセージ)を通知する。
- ・メッセージの送信先として、利用者のメールアドレス、およびWebサービス(Listener)のエンドポイントを選ぶことができる。
- ・用途別にメッセージのタイプを指定できる。
- ・メッセージの送付先として、グループ指定ができる。
- ・登録したドキュメントのIDを通知できる。
- ・送信するテキストの内容は、通知のタイプごとにアプリケーション側で定めるものとする。

### D. 3 APIの仕様

アクセス制御および通知機能をサポートするAPIを提供する。図D-1は、APIの主な機能および利用の流れを図示したものである。なお、あらかじめ、運用管理ツールなどを用いて、管理者が利用者等の情報をマスタデータとして、レジストリに登録・保守するものとする。APIの利用の流れは、以下のようになる。

- ①フォルダに対してアクセス権者リストに登録する。
- ②現在登録されているアクセス権者リストを検索し、そのメンバを取り出す。
- ③アクセス権者リストの情報を基にメッセージの送付先を決定し、メッセージを作成する。メッセージは、送信元、送信先のエンドポイント、ドキュメントエントリID、メッセージ(テキスト)などを含む。
- ④作成したメッセージをNotifyオブジェクトに送信することで、ebXMLレジストリの通知機能が起動され、送付先のエンドポイントおよび利用者のメールアドレスにメッセージが通知される。
- ⑤各施設側では、Listenerオブジェクトが送付されたメッセージを受け取り、さらに、クライアントのアプリケーションはListenerを通じてメッセージを取り出す。



図D-1 アクセス制御および通知機能 API の構成

通知機能及びアクセス制御の機能を (Java) API として定める。以下の2つのパッケージからなる。

- notification.subscriber  
アクセス権者リストの登録、編集を行う API を提供する。
- notification.message  
メッセージの作成、送信を行う API を提供する。

### D. 3. 1 notification.subscriber パッケージの機能

表D-1 notification.subscriber パッケージのAPI一覧

番号	API (クラス)	メソッド	内容
1	<b>User</b> (利用者)		指定された識別子をもつインスタンス (利用者オブジェクト) を作成する。
	(ID 取得)	<b>getUuid()</b>	返り値として、この利用者のオブジェクトの識別子を返す。
2	<b>Institution</b> (施設)		指定された識別子をもつインスタンス (施設オブジェクト) を作成する。
	(ID 取得)	<b>getUuid()</b>	返り値として、この施設のオブジェクトの識別子を返す。
3	<b>Department</b> (診療科)		指定された識別子をもつインスタンス (診療科オブジェクト) を作成する。
	(ID 取得)	<b>getUuid()</b>	返り値として、この診療科のオブジェクトの識別子を返す。
4	<b>GWNode</b> (ノード)		指定された識別子をもつインスタンス (施設ノードオブジェクト) を作成する。
	(ID 取得)	<b>getUuid()</b>	返り値として、この施設ノードのオブジェクトの識別子を返す。

5	<b>Group</b> (グループ)		指定された識別子をもつインスタンス (グループオブジェクト) を作成する。
	(ID 取得)	<b>getUuid()</b>	返り値として、このグループオブジェクトの識別子を返す。
6	<b>Subscriber</b> (アクセス権者リスト)		指定された識別子をもつインスタンス (アクセス権者リストオブジェクト) を、 <b>SubscriberFactory</b> クラスのメソッドを用いて作成する。
6.1	(追加)	<b>addMember(Member member)</b>	指定されたメンバをこのリストに追加する。
6.2	(メンバの削除)	<b>deleteMember(Member member)</b>	指定されたメンバをこのリストから削除する。
6.3	(参照)	<b>getMembers()</b>	このリストに登録されているメンバをすべて返す。
6.4	(フォルダ)	<b>getFolderId()</b>	関連づけている XDS フォルダの <b>uniqueId</b> を返す。
6.5	(更新)	<b>update()</b>	このリストに登録されているメンバを、 <b>omar</b> に反映する。更新できなかった場合は例外を発生する。
6.6	(リストの削除)	<b>remove()</b>	このリストの内容を <b>omar</b> から削除する。削除できなかった場合は、例外を発生する。
7	<b>SubscriberFactory</b> (アクセス権者リストオブジェクト)		<b>Subscriber</b> オブジェクトを作成する。(アクセス権者リストの登録、検索メソッドによって作成される)。
7.1	(作成)	<b>getInstance()</b>	<b>SubscriberFactory</b> オブジェクトを作成する。返り値として作成された <b>SubscriberFactory</b> オブジェクトを返す。
7.2	(登録)	<b>submit(String folderId)</b>	指定されたフォルダに対するアクセス権者リストを <b>omar</b> に登録する。登録できなかった場合は、例外が発生する。返り値として、登録されたアクセス権者リストを返す。
7.3	(検索)	<b>find(String folderId)</b>	指定されたフォルダに関連づけられたアクセス権者リストを <b>omar</b> から検索する。エラーが生じた場合は、例外が発生する。返り値として、検索されたアクセス権者リストを返す。 <b>omar</b> に登録されていない場合は <b>null</b> 。

### D. 3. 2 notification.message パッケージの機能

表 D-2 notification.message パッケージの API 一覧

番号	API (クラス)	メソッド	内容
1	<b>EndPoint</b> (エンドポイント)		メッセージの通知先のエンドポイントとして、E メールアドレス、Web サービスの URI のどちらかを作成する。
1.1	(メンバ取得)	<b>getMember()</b>	返り値として、アクセス権者を返す。
1.2	(通知先タイプ取得)	<b>getType()</b>	返り値として、通知先のエンドポイントのタイプ ( <b>EMAIL</b> または <b>WEBSERVICE</b> ) を返す。
1.3	(通知先取得)	<b>getEndPoint()</b>	返り値として、通知先のエンドポイントを返す。
2	<b>Message</b> (メッセージ)		指定されたアクセス権者リスト向けのメッセージを作成する。送信元がアクセス権者に含まれない場合は例外を発生する。メッセージのタイプが設定されていないときは <b>null</b> を返す。
2.1	(タイプ取得)	<b>getType()</b>	返り値として、正しく、メッセージのタイプを返す。
2.2	(送信元取得)	<b>getFrom()</b>	返り値として、正しく、送信元のエンドポイントのリストを返す。
2.3	(送信元取得)	<b>getFrom(EndPoint.Type type)</b>	指定されたタイプの送信元のエンドポイントを返す。

2.4	(送信元未設定)	<b>setFromNull(EndPoint.Type type)</b>	指定されたエンドポイントタイプの送信元を未設定にする。
2.5	(送信元設定)	<b>setTo(List&lt;EndPoint&gt; to)</b>	指定した送信先を設定する。 アクセス権者以外が指定されている場合は例外を発生する。
2.6	(タイトル設定)	<b>setSubject(String subject)</b>	メッセージのタイトルを設定する。
2.7	(本文設定)	<b>setText(String text)</b>	メッセージの本文を設定する。
2.8	(ID 設定)	<b>setId(String id)</b>	メッセージの ID を設定する。
2.9	(ドキュメント ID 設定)	<b>setDocumentId(String documentId)</b>	XDS ドキュメントの <b>uniqueId</b> を設定する。
3	<b>MessageOutline</b> (メッセージ概要)		通知メッセージの概要を表すクラスを作成する。
3.1	(タイプ取得)	<b>getType()</b>	戻り値として、メッセージのタイプを返す。
3.2	(送信元リスト)	<b>getFrom()</b>	戻り値として、送信元のエンドポイントのリストを返す。
3.3	(送信元リスト)	<b>getFrom(EndPoint.Type type)</b>	指定されたタイプの送信元のエンドポイントを返す。設定されていないときは <b>null</b> を返す。
3.4	(送信先リスト)	<b>getTo()</b>	戻り値として、送信先のエンドポイントのリストを返す。
3.5	(タイトル取得)	<b>getSubject()</b>	戻り値として、メッセージのタイトルを返す。
3.6	(ID 取得)	<b>getId()</b>	戻り値として、メッセージの ID を返す。
3.7	(ドキュメント ID 取得)	<b>getDocumentId()</b>	戻り値として、XDS ドキュメントの <b>uniqueId</b> を返す。
4	<b>Notify</b> (通知オブジェクト)		<b>Notifier</b> オブジェクトを作成する。作成された <b>Notifier</b> オブジェクトを返す。
4.1	(メッセージ送信)	<b>send(Message message)</b>	<b>Notifier</b> オブジェクトを送信する。以下の場合には例外を発生する。引数の <b>message</b> に設定されていない属性がある場合、および送信でエラーが発生した場合には、例外が発生する。
5	<b>Listener</b> (受信オブジェクト)		<b>Listener</b> オブジェクトを作成する。
5.1	(取得)	<b>getInstance()</b>	戻り値として、作成された <b>Listener</b> オブジェクトを返す。
5.2	(到着メッセージ数)	<b>count()</b>	戻り値として、リスナーに届いているメッセージの数を返す。受け取り中にエラーが発生した場合、例外が発生する。
5.3	(メッセージ取出し)	<b>getMessage()</b>	戻り値として、リスナーに届いている <b>Message</b> オブジェクトを1つリスナーに返す。メッセージがない場合は <b>null</b> が返る。 受け取り中にエラーが発生した場合、例外が発生する。
5.4	(メッセージ取出し)	<b>getMessages()</b>	リスナーに届いているメッセージがあれば、それらを、すべて返す。受け取り中にエラーが発生した場合、例外が発生する。戻り値はリスナーに届いている <b>Message</b> オブジェクトのリストとなる。
5.5	(メッセージの概要をの取出し)	<b>getMessageOutlines()</b>	リスナーに届いている全てのメッセージの概要を返す。 このメソッドの呼び出しでは、リスナーからメッセージは削除されない。受け取り中にエラーが発生した場合、例外が発生する。戻り値は、リスナーに届いているメッセージの <b>MessageOutline</b> オブジェクトのリストとなる。

## 附属書 E (参考) 関連する IHE プロファイル

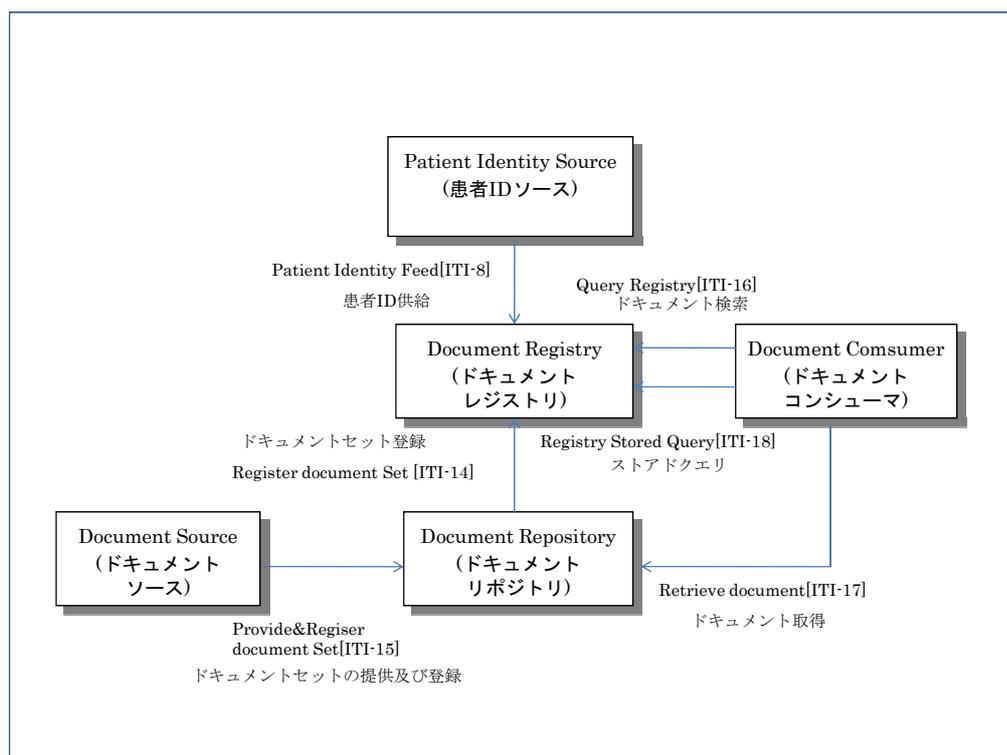
### E. 1 概要

本技術文書は、第5章のインタフェース定義で述べたように IHE ITI の XDS プロファイルの XDS.b に基づいている。地域連携システムの実装の方式としては、XDS.a および XDS-I を採用することも可能である。ここでは、関連する IHE プロファイル XDS.a および XDS-I (E. 7 参照) について仕様上の違いについて概要を述べる。

### E. 2 XDS.a および XDS.b の比較

#### E. 2. 1 XDS.a および XDS.b のトランザクション

図E-1は、従来の XDS 関連の IHE アクタとトランザクションの関係を示す。これらのプロファイルを XDS.a と呼び、新規のプロファイル XDS.b と区別している。図E-2は、XDS.b で定義されている IHE アクタとトランザクションである。



図E-1 XDS.a における IHE アクタおよびトランザクション関連図

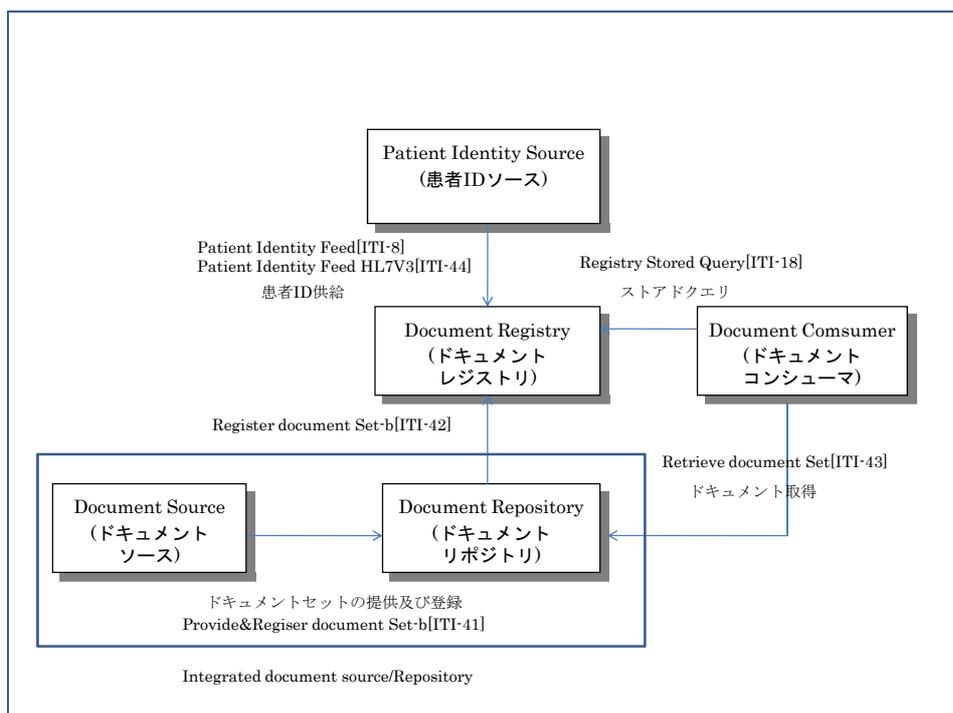


図 E-2 XDS.b における IHE アクタおよびトランザクション関連図

表 E-1 は、XDS.b で定義されている IHE アクタおよびトランザクションの一覧である。また、表 E-2 は、各 IHE アクタのオプション機能である。

表 E-1 XDS.b における IHE アクタおよびトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section in Vol. 2
Document Consumer	Registry Stored Query	R	ITI TF-2:3.18
	Retrieve Document Set	R	ITI TF-2:3.43
Document Source	Provide and Register Document Set-b	R	ITI TF-2:3.41
Document Repository	Provide and Register Document Set-b	R	ITI TF-2:3.41
	Register Document Set-b	R	ITI TF-2:3.42
	Retrieve Document Set	R	ITI TF-2:3.43
Document Registry	Register Document Set-b	R	ITI TF-2:3.42
	Registry Stored Query	R	ITI TF-2:3.18
	Patient Identity Feed	O (*1)	ITI TF-2:3.8
	Patient Identity Feed HL7v3	O (*1)	ITI TF-2:3.44
Integrated Document Source/Repository	Register Document Set-b	R	ITI TF-2:3.42
	Retrieve Document Set	R	ITI TF-2:3.43
Patient Identity	Patient Identity Feed	O (*1)	ITI TF-2:3.8

Source	Patient Identity Feed HL7v3	O (*1)	ITI TF-2:3.44
--------	-----------------------------	--------	---------------

注\*1) Patient Identity Feed または Patient Identity Feed HL7v3 のいずれかがサポートされなければならない。

表 E-2 XDS.b における IHE アクタごとのオプション機能

Actor	Options	Vol & Section
Document Source	Multiple Document Submission	ITI TF-1:10.2.1
	Document Life Cycle Management	ITI TF-1:10.2.2
	Folder Management	ITI TF-1:10.2.3
Document Repository	No options defined	
Document Registry	Patient Identity Feed (*1)	ITI TF-2:3.8
	Patient Identity Feed HL7v3 (*1)	ITI TF-2:3.44
Integrated Document Source / Repository	Multiple Document Submission	ITI TF-1:10.2.1
	Document Life Cycle Management	ITI TF-1:10.2.2
	Folder Management	ITI TF-1:10.2.3
Document Consumer	No options defined	
Patient Identity Source	Patient Identity Feed (*1)	ITI TF-2:3.8
	Patient Identity Feed HL7v3 (*1)	ITI TF-2:3.44

注\*1) Patient Identity Feed または Patient Identity Feed HL7v3 のいずれかがサポートされなければならない。

## E. 2. 2 XDS.a と XDS.b の比較表

表 E-3 XDS.a と XDS.b の比較表

項目	XDS.a	XDS.b
メタデータの形式	ebXML RIM ver.2.1 ebXML RS ver.2.1	ebXML RIM ver.3.0 ebXML RS ver.3.0
SOAPのバージョン	1.1	1.2 (1.1は、オプション)
ドキュメント提出・登録実行時のメッセージ形式	SOAP with Attachment	MTOM (and/or) MTOM/XOP(*1)
ドキュメント検索方法	SQL文直接送信 ストアドクエリ	ストアドクエリのみ
ドキュメント取得	HTTP GET	XML形式による取得要求メッセージをレポジトリに送る。 (レポジトリからの返信にはMTOM またはMTOM/XOPを使用 (*2) )
ドキュメント取得時のドキュメント所在情報	URI	レポジトリUniqueIDと ドキュメントUniqueID
レポジトリがDocumentEntryに	URI、hash、size	RepositoryUniqueID、

付与する情報		hash、size (URIの指定はオプション) (RepositoryUniqueIDはレポジトリ に対して別途指定する)
--------	--	---

注\*1) ドキュメント提出・登録時では、ドキュメントソースについては MTOM、MTOM/XOP のいずれかの形式の SOAP メッセージで送信するが、レポジトリでは SOAP メッセージ形式が MTOM、MTOM/XOP のどちらでも受け取れるようにする必要がある。

注\*2) ドキュメント取得時では、レポジトリについては MTOM、MTOM/XOP のいずれかの形式による SOAP メッセージで送信するが、ドキュメントコンシューマでは SOAP メッセージ形式が MTOM、MTOM/XOP のどちらでも受け取れるようにする必要がある。

(MTOM : Message Transaction Optimization Mechanism)

(XOP : XML-binary Optimized Packaging)

### E. 2. 3 ドキュメント提出・登録実行時のメッセージ形式

ドキュメント提出・登録を行う際のメッセージ形式は、採用する技術の違いにより、以下のような違いがある。

#### (1) SOAP with Attachment の形式

```
MIME-Version: 1.0
Content-Type Multipart/Related: boundary=MIME_boundary; type=text/xml
Content-Description: XDS.a example using SOAP with Attachements

--MIME_boundary
Content-Type: text/sml; charset=UTF-8
Content-Transfer-Encoding: 8bit

<?xml version='1.0' ?>
<SOAP-ENV:Envelope xmlns:SOAP-ENV='http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/'>
  <SOAP-ENV:Body>
    <!--Metadata Goes Here -- >
    ...
    <ExtrinsicObject id="mydocument"/>
    ...
  </SOAP-ENV:Body>
</SOAP-ENV:Envelope>

--MIME_boundary
Content-Type: text/xml
Content-ID: <mydocument>

document contents
--MIME_boundary--
```

図 E - 3 SOAP with Attachment の形式

ebXML メッセージは、MIME/Multipart メッセージ封筒とは独立した低レベル通信プロトコルであり、メッセージパッケージ(Message Package)として参照される添付つき SOAP メッセージ(SOAP with Attachment MIME Environment) に適合した構造をもつ。

図 E - 4 は、HTTP POST プロトコルでの MIME アタッチメント付き SOAP の内部の構造である。

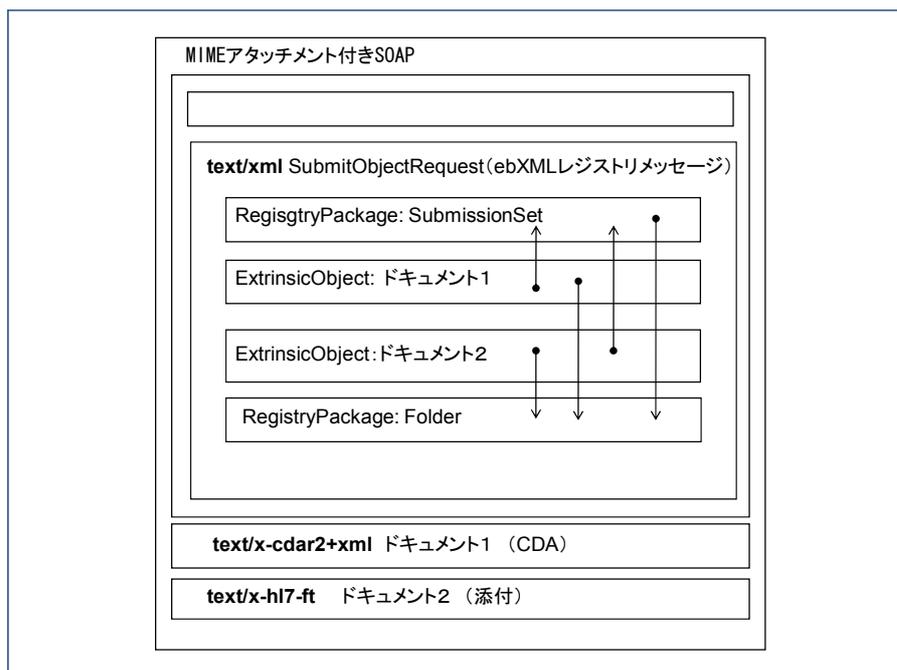


図 E-4 HTTP POST プロトコルを用いた XDS データ形式

### (2) メタ情報とアタッチメント

図 E-4 のとおり、MIME アタッチメント付き SOAP リクエストをカプセル化してドキュメントソース（施設側）から、ドキュメントレジストリ側に転送する。

ヘッダ構造は、一般の MIME マルチパートのメッセージ形式である。SOAP リクエストの SOAP-Body に、XDS レジストリのメタデータを含む SubmitObjectsRequest を格納する。アタッチメントのドキュメントは、マルチパートのペイロードとしてカプセル化する。

### (3) MTOM の形式

```
MIME-Version: 1.0
Content-Type: type=text/xml
Content-Description: XDS.b example using MTOM

<?xml version='1.0' ?>
<SOAP-ENV:Envelope xmlns:SOAP-ENV='http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/'>
  <SOAP-ENV:Body>
    <!--Metadata Goes Here -- >
    ...
    <ExtrinsicObject id="mydocument"/>
    ...
    <Document id="mydocument">
      Base64 encoded document contents
    </Document>
    ...
  </SOAP-ENV:Body>
</SOAP-ENV:Envelope>
```

図 E - 5 MTOM の形式

#### (4) MTOM/XOP の形式

```

MIME-Version: 1.0
Content-Type: type=text/xml
Content-Type Multipart/Related: boundary=MIME_boundary; type=text/xml
Content-Description: MTOM/XOP example

--MIME_boundary
Content-Type: text/sml; charset=UTF-8
Content-Transfer-Encoding: 8bit
Content-ID: <claim061400a.xml@claiming-it.com>

<?xml version='1.0' ?>
<SOAP-ENV:Envelope xmlns:SOAP-ENV="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <SOAP-ENV:Body>
    <!--Metadata Goes Here -- >
    ...
    <ExtrinsicObject id="mydocument"/>
    ...
    <Document id="mydocument">
      <Include href=cid:1.urn:uuid:BC4753.....@apache.org
        xmlns="http://www.w3.org/2004/08/xop/include"/>
      Base64 encoded document contents
    </Document>
    ...
  </SOAP-ENV:Body>
</SOAP-ENV:Envelope>

--MIME_boundary
Content-Type: text/xml
Content-Transfer-Encoding: binary
Content-ID: <cid:1.urn:uuid:BC4753.....@apache.org>

binary encoding of document contents
--MIME_boundary--

```

図 E - 6 MTOM/XOP の形式

#### E. 2. 4 メタデータレベルでの XDS.a と XDS.b の違い

メタデータレベルの違いは、主に ebXML ver.2.1 と ebXML ver.3.0 の XML スキーマの違いである。具体的には、以下の違いがある。

- ① ver.3.0 は XML の名前空間の機能を使用
  - ② タグ要素 LeafRegistryObjectList は、RegistryObjectList に変更
- 例：

・ XDS.a の例

```
<SubmitObjectsRequest>
  <LeafRegistryObjectList>
    . . .
  </LeafRegistryObjectList>
</SubmitObjectsRequest>
```

図 E - 7 XDS.a の例 : タグ要素 LeafRegistryObjectList

・ XDS.b の例

```
<rs:SubmitObjectsRequest xmlns:rs="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:lcm:3.0">
  <RegistryObjectList xmlns="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:rim:3.0">
    . . .
  </RegistryObjectList>
</rs:SubmitObjectsRequest>
```

図 E - 8 XDS.b の例 : タグ要素 RegistryObjectList

③ObjectType の属性のタイプがテキスト形式から UUID に変更

④ステータス属性の値の形式がテキスト形式から UUID 形式に変更

例 :

・ XDS.a の例

```
<ns1:ExtrinsicObject id="urn:uuid:ebd1ff42-4e35-42fc-9376-d9a581ccbdb2"
  isOpaque="false"
  majorVersion="1"
  mimeType="text/xml"
  minorVersion="0"
  objectType="urn:uuid:7edca82f-054d-47f2-a032-9b2a5b5186c1"
  status="Approved">
  . . .
```

図 E - 9 XDS.a の例 : ステータス属性値の形式 : テキスト型

・ XDS.b の例

```
<ns1:ExtrinsicObject
  id="urn:uuid:41c789cc-c09d-4bc4-9fcd-ee4c8474e777"
  isOpaque="false"
  lid="urn:uuid:41c789cc-c09d-4bc4-9fcd-ee4c8474e777"
  mimeType="text/xml"
  objectType="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:ObjectType:RegistryObject:ExtrinsicObject"
  status="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:StatusType:Approved">
  . . .
```

図 E - 10 XDS.b の例 : ステータス属性値の形式 : UUID 型

- ⑤ オブジェクトの内部要素の順序が以下のように変更
  - (ver.2.1) Name、Description、Slot、Classification、ExternalIdentifier
  - (ver.3.0) Slot、Name、Description、Classification、ExternalIdentifier

⑥ Classification、ExternalIdentifier、Association には Id 属性が必須

⑦ ExternalIdentifier 要素には、registryObject 属性が必須

例：DocumentEntry で指定する PatientID

・ XDS.a の例

```
<ExternalIdentifier identificationScheme="urn:uuid:58a6f841-87b3-4a3e-92fd-a8ffeff98427"
value="1cd4961c1b8e47d^^^&amp;1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7&amp;ISO">
  <Name>
    <LocalizedString value = "XDSDocumentEntry.patientId"/>
  </Name>
</ExternalIdentifier>
```

図 E - 1 1 XDS.a の例：ExternalIdentifier 要素：registryObject 属性はオプション

・ XDS.b の例

```
<ExternalIdentifier id="e1" <- 自身の UUID
identificationScheme="urn:uuid:58a6f841-87b3-4a3e-92fd-a8ffeff98427"
value="3cd4961c1b8e47d^^^&amp;1.3.6.1.4.1.21367.2005.3.7&amp;ISO"
registryObject="theDocument"> <- DocumentEntry(ExtrinsicObject)に割り当てられた UUID
  <Name>
    <LocalizedString value = "XDSDocumentEntry.patientId"/>
  </Name>
</ExternalIdentifier>
```

図 E - 1 2 XDS.b の例：ExternalIdentifier 要素：registryObject 属性は必須

### E. 2. 5 XDS.b で新たに追加されたメタデータ定義

XDS.b では、ドキュメントエントリのメタデータに repositoryUniqueId が追加された。repositoryUniqueIdは、一つのレポジトリに対して一つのOIDで指定。レポジトリに対してUniqueIDを一度指定したら、変更は許されない。

表 E - 4 XDS.b で新たに追加されたメタデータ定義

XDS DocumentEntry の属性	定義	Source /Query	データ 型
repositoryUniqueId	ドキュメントレポジトリにより割り当てられるドキュメントが格納されるレポジトリに対するグローバルなユニーク ID。 ドキュメントレポジトリに対する、このユニーク ID は、そのドキュメントが格納され、そのメタデータが、ドキュメントレジストリから検索されたところで、特定のド	R/R	OID

	<p>キュメントリポジトリを識別し、接続するために使用することができる。 このリポジトリのユニーク ID は、つぎのような利用法に応えることを意図している。 XDS ドキュメントが格納されたドキュメントリポジトリを参照する手段。リポジトリの <b>Uniqueld</b> は、ドキュメントリポジトリに対する変更不可な Id を表す。 XDS ドキュメントが、適当なドキュメントリポジトリから検索できることを確かにする手段。1つの値をもつべきである。</p> <pre>&lt;rim:Slot name = "repositoryUniqueld"&gt;   &lt;rim:Valuelist&gt;     &lt;rim:Value&gt; 1.3.6.1.4..&lt;/rim:Value&gt;   &lt;/rim:ValueList&gt; &lt;/rim:Slot&gt;</pre>		
--	--	--	--

## E. 2. 6 Retrieve Document Set メタデータの例

### (1) Consumer から Repository への呼び出し

```
<RetrieveDocumentSetRequest xmlns="urn:ihe:iti:xds-b:2007">
  <DocumentRequest>
    <RepositoryUniqueld>1.3.6.1.4...1000</RepositoryUniqueld>
    <DocumentUniqueld>1.3.6.1.4...2300</DocumentUniqueld>
  </DocumentRequest>
  <DocumentRequest>
    <RepositoryUniqueld>1.3.6.1.4...1000</RepositoryUniqueld>
    <DocumentUniqueld>1.3.6.1.4...2301</DocumentUniqueld>
  </DocumentRequest>
</RetrieveDocumentSetRequest>
```

図 E-13 Consumer から Repository への呼び出し時のメタデータ例

### (2) Repository から Consumer への返答

```

<RetrieveDocumentSetResponse xmlns="urn:ihe:iti:xds-b:2007"
  xmlns:lcm="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:lcm:3.0"
  xmlns:query="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:query:3.0"
  xmlns:rims="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:rims:3.0"
  xmlns:rs="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:xsd:rs:3.0">
  <rs:RegistryResponse status="urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:ResponseStatusType:Success"/>
  <DocumentResponse>
    <RepositoryUniqueId>1.3.6.1.4...1000</RepositoryUniqueId>
    <DocumentUniqueId>1.3.6.1.4...2300</DocumentUniqueId>
    <mimeType>text/xml</mimeType>
    <Document>
      UjBsR09EbGhjZ0dTQUxNQFBUUNBRU1tQ1p0dU1GUXhEUzhi
    </Document>
  </DocumentResponse>
  <DocumentResponse>
    <RepositoryUniqueId>1.3.6.1.4...1000</RepositoryUniqueId>
    <DocumentUniqueId>1.3.6.1.4...2300</DocumentUniqueId>
    <mimeType>text/xml</mimeType>
    <Document>
      UjBsR09EbGhjZ0dTQUxNQFBUUNBRU1tQ1p0dU1GUXhEUzhi
    </Document>
  </DocumentResponse>
</RetrieveDocumentSetResponse>

```

図 E - 1 4 Repository から Consumer への返答時のメタデータ例

### E. 3 XDS-I (施設間における画像および関連文書の共有)

#### E. 3. 1 概要

IHE では、施設間の文書共有 (XDS) プロファイルをベースにして、施設間における画像および関連文書の共有のためのプロファイル (XDS-I) を用意している。地域連携では、これらの XDS-I プロファイルを活用することもできる。

以下のような診断に必要な画像、報告書を対象にしている。

- ・各種のモダリティからのエビデンス文書 (後処理での測定/分析結果など)、および画像検査結果 (表示に付加された画像を含む)
- ・表示可能な形式で提供された関連画像の読影、診断報告書
- ・報告書での診断に重要な (選択された) 画像

このプロファイルでは、それらを共有するために必要な IHE アクタ、トランザクションおよび文書の種類を定義している。

XDS-I プロファイル定義で参照する標準は、表 E - 5 の通りである。

表 E - 5 XDS-I プロファイル定義で参照する標準の一覧

ebRIM	OASIS/ebXML Registry Information Model v2.0
ebRS	OASIS/ebXML Registry Services Specifications v2.0
ebMS	OASIS/ebXML Messaging Services Specifications v2.0
HTTP	HTTP HyperText Transfer Protocol HTTP/1.1 (IETF RFC2616)
MIME	MIME Multipurpose Internet Message Extensions (RFC 2045 to RFC 2049)



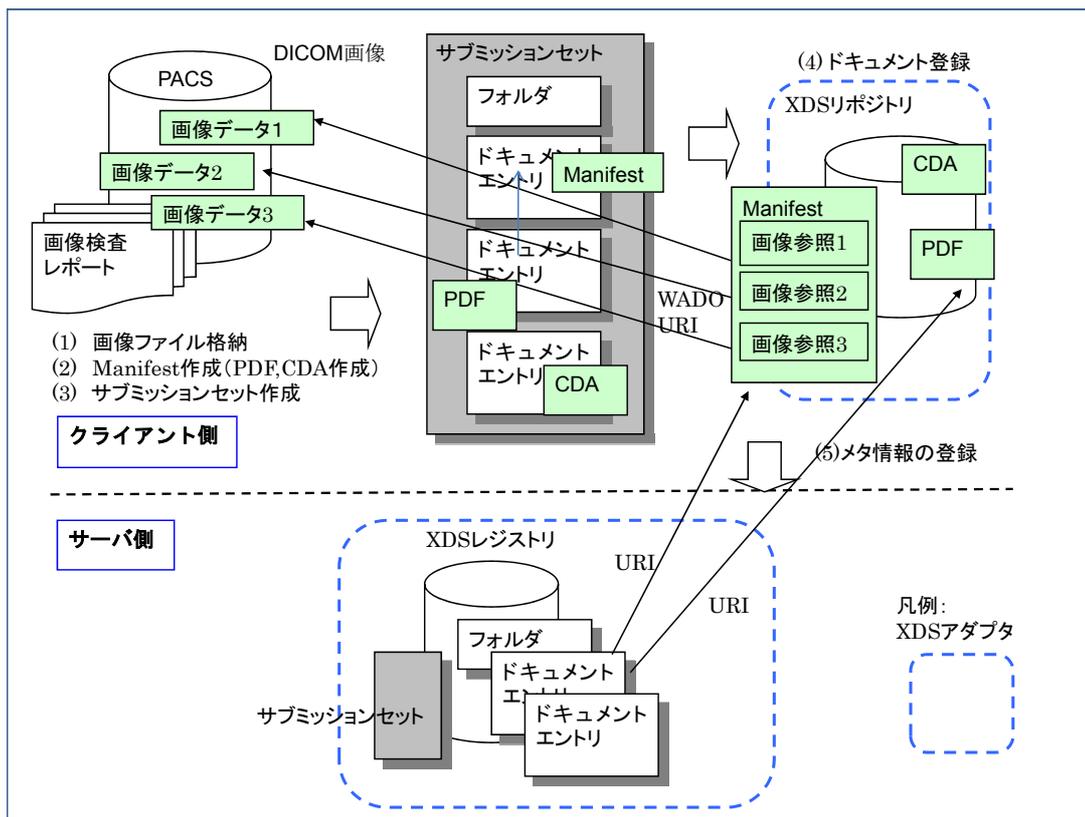


図 E - 1 6 XDS-I での DICOM Manifest の構成

### E. 3. 3 IHE アクタおよびトランザクション

表 E - 6 は、XDS-I で定義されている IHE アクタおよびトランザクションの一覧である。

表 E - 6 XDS-I における IHE アクタおよびトランザクション

Actors	Transactions	Optionality	Section in Vol. 2
Document Consumer	Query Registry [ITI-16]	R	ITI TF-2:3.16
	Retrieve Document [ITI-17]	R	ITI TF-2:3.17
Imaging Document Consumer	Retrieve Images [RAD-16]	O (*2)	4.16
	Retrieve Presentation States [RAD-17]	O	4.17
	Retrieve Reports [RAD-27]	O (*2)	4.27
	Retrieve Key Image Note [RAD-31],	O	4.31
	Retrieve Evidence Documents [RAD-45]	O (*2)	4.45
	WADO Retrieve [RAD-55]	O (*2)	4.55
Imaging Document Source	Provide and Register Imaging Document Set [RAD-54]	R (*3)	4.54
	Retrieve Images [RAD-16]	R	4.16
	Retrieve Presentation States [RAD-17]	R	4.17

附属書 E (参考) 関連する IHE プロファイル

	Retrieve Reports [RAD-27]	R	4.27
	Retrieve Key Image Note [RAD-31],	R	4.31
	Retrieve Evidence Documents [RAD-45]	R	4.45
	WADO Retrieve [RAD-55]	R	4.55
Document Repository	Provide and Register Imaging Document Set [RAD-54]	R	4.54
	Register Document Set [ITI-14]	R (*1)	ITI TF-2:3.14
	Retrieve Document [ITI-17]	R	ITI TF-2:3.17
Document Registry	Register Document Set [ITI-14]	R (*1)	ITI TF-2:3.14
	Query Registry [ITI-16]	R	ITI TF-2:3.16
	Patient Identity Feed	R	ITI TF-2:3.8
Patient Identity Source	Patient Identity Feed	R	ITI TF-2:3.8

注\*1) ドキュメントリポジトリおよびドキュメントレジストリの IHE アクタを、1つのグループにすることが可能であるが、将来の拡張のためには、分離されていることが望ましい。

注\*2) 少なくとも一つのオプションの取得トランザクションをサポートしなければならない。

注\*3) 4種類の文書 (DICOM、PDF、CDA、Multipart) のうち、少なくとも一種類の文書のサポートが要求される。

## 付録 1：参考文献

- [1] IHE-J 渉外委員会編、IHE 入門、篠原出版新社
- [2] 日本医療マネジメント学会編、クリティカルパス最近の進歩 2008
- [3] IHE Web site: <http://www.ihe.net>
- [4] HIMSS Web site: <http://www.himss.org/IHE>

## 付録2：作成者名簿

### 作成者（五十音順）

池田 智	(東芝メディカルシステムズ株式会社)
井上 賢一	(セコム株式会社)
畝田 透	(株式会社日立製作所)
大嶋 比呂志	(株式会社ハーバー・ソフトウェア)
大島 義光	(株式会社日立製作所)
大竹 雄一郎	(ケアストリームヘルス株式会社)
大林 正晴	(株式会社管理工学研究所)
大脇 直記	(東芝メディカルシステムズ株式会社)
篠田 英範	(JAHIS)
高橋 正人	(株式会社管理工学研究所)
田中 良樹	(富士通株式会社)
手島 文彰	(東芝メディカルシステムズ株式会社)
中島 裕生	(テクマトリックス株式会社)
西田 慎一郎	(株式会社島津製作所)
野津 勤	(株式会社システム計画研究所)
村上 芳樹	(株式会社日立製作所)
森田 嘉昭	(富士通株式会社)

## 謝辞

本技術文書作成並びにレビューにご協力いただいた以下の方々に感謝いたします。

安藤 裕	(独立行政法人放射線医学総合研究所)
奥田 保男	(岡崎市民病院)
小柳津 芳和	(株式会社ユーフィット)
喜多 紘一	(東京工業大学)
関 昌佳	(有限会社グローバル・フォー)
高井 禎久	(株式会社ユーフィット)
中島 隆	(浜松医科大学)
細羽 実	(京都医療科学大学)
茗原 秀幸	(三菱電機株式会社)
向井 まさみ	(独立行政法人放射線医学総合研究所)

(以上、五十音順)

改定履歴		
日付	バージョン	内容
2009/04/07	V1.0	最初のバージョン
2010/02/02	V1.0a	1) 「第 3 章 引用規格・引用文献」に本事業の事業報告書を追加 2) 「まえがき」、「はじめに」 修正

(JAHIS 技術文書 09-101)

2009 年 4 月発行

～地域医療情報連携システム

診療情報共有化のための IHE XDS 適用ガイド～

発行元 保健医療福祉システム工業会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1 丁目 19-9

(虎ノ門 TB ビル 6F)

電話 03-3506-8010 FAX 03-3506-8070

(無断複写・転載を禁ず)